

第二十八條 (本條明治四年第三十三號布告ヲ以テ追加シ明治十八年  
二十七號布告ヲ以テ二十七條トアリシヲ二十八條トス)

凡船舶合格ノ燈籠及ヒ信號器ヲ所持セス若クハ點燈及ヒ信號ヲ怠リ又ハ燈籠裝置ヲ  
過リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

但甲板ナキ漁船及ヒ甲板ナキ小船ハ此限ニアラス

第四節 外國船乘組規則

明治九年三月  
十八日布告 第三十號

外國船ニ乘込旅行セントスル者取締ノタメ左之通規則相定候條此旨布告候事

外國船乘込規則

第一條 外國船ニ乘込旅行セントスル者ハ當出船日或ハ一日前其屬籍住所姓名及ヒ何  
國人所持船何號ニ乘込何港迄赴ク旨ヲ具シタル届書ヲ其出船スル地ノ廳ニ差出シ乘  
船證書ヲ受クヘシ

第二條 乘船證書ハ一人一枚タルヘシ

第三條 乘船證書ヲ取受ルニハ一枚ニ付手数料トシテ金二十五錢ヲ納ムヘシ (明治九年  
號布告ヲ以テ金二十  
五錢ヲ金十錢ト改正)

第四條 乘船證書ハ每人親ヲ出應シテ受取ルヘシ代人ヲ以テスルヲ許サス

第五條 乘船證書ハ着船上陸ノ上其地警察官吏ニ返付スヘシ其途中一時上陸 例ヘハ横濱  
港ニ到ル者其船神戶ニ卸碇シテ  
港ニ到ル者其船神戶ニ卸碇シテ  
港ニ到ル者其船神戶ニ卸碇シテ

スル者ハ其他隨檢警察官吏ニ其證書ノ檢閱ヲ受クヘシ

第六條 乘船證書ハ一度ノ出船ニ用フルモノトス故ニ途中ヨリ上陸スル歟又ハ事故ア  
リテ乘込ヲ止メ更ニ他ノ船ニ乘込歟又ハ同船タリトモ他日航海ノ便ニ乘込ム時ハ最  
初受取タル證書ハ其出船スル地ノ廳ニ納メテ更ニ證書ヲ受取ルヘシ

第七條 乘船證書ヲ所持セステ乘船シタル者ハ上陸ノ節違式ニ照ラシテ處分スヘシ

第八條 開港場アル地方廳ニ於テハ外國船ニ乘込ントスルノ届書ヲ差出ス者アル時ハ

第一條第四條ノ手續ニ相違ナキヤテ檢閱シ別紙雛形ノ證書ヲ直ニ本人ニ相渡シ手數  
料ヲ領収スヘシ

第九條 右地方廳ハ兼テ船場ノ要所ニ於テ警察官吏ノ出張所ヲ設ケ置キ外國船出入港  
毎ニ若干員ヲ隨檢セシメ内國人ノ乘船又ハ上陸スル者ノ證書ヲ一々檢閱シ若シ證書  
ヲ所持セサル歟又ハ其證書最前ノ出船ニ請取リタルヲ其儘再用シタル歟ヲ視認メタ  
ル時ハ詳カニ其所由ヲ取糾シ證書所持セサル者ハ乘船證書ヲ受取ル手續ヲナサシメ  
或ハ其乘込ミヲ止ム證書ヲ再用スル者ハ違式ニ照ラシテ處分スヘシ

第十條 警察官吏乘船證書ヲ隨檢シ着港上陸者ノ分ハ之ヲ領収シ一時途中上陸者ノ分  
ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

(證書雛形略之)

第五節 外國形日本船内外貨物廻漕規則

外國形日本船内外貨物廻漕規則



外國形日本船輸出入稅未納內外貨物廻漕規則別冊ノ通相定本年四月一日ヨリ施行候條  
此旨布告候事

別冊

外國形日本船輸出入稅未納內外貨物廻漕規則

第一條 日本郵船會社其他日本船ニテ日本沿海廻漕免許ヲ得タル外國形船舶ニ限リ自  
今國內各開港場間ニ輸入稅未納ノ外國貨物並ニ貨主外國人ニテ輸出稅未納ノ內國貨  
物廻漕差許候就テハ從來內外交涉密賣買ノ儀ハ嚴禁ノ處尙ホ右ニ類スル所業有之候  
テハ不相濟儀ニ付廻漕規則ヲ設クルヲ左ノ如ク

第二條 凡ソ外國形ノ日本船舶ハ都テ出入港手數並ニ諸貨物船積船卸共各開港場ニ於  
テハ稅關ノ所轄トス

第三條 前條ノ船滯港中ハ稅關ヨリ監吏乘勤スヘシ

第四條 前條ノ船貨物ヲ船積シ或ハ船卸スルハ日出ヨリ日沒迄ニ限ルヘシ若シ夜中密  
ニ貨物ヲ積卸スル時ハ其現品ヲ沒收シ且其品價同額ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課  
スヘシ

但日沒ヨリ日出マテハ船中ノ艙口ヲ固封シ置クヘシ若シ勝手ニ開封スル時ハ其船  
長或ハ其會社ニ金六十圓ノ罰金ヲ課スヘシ

第五條 甲港ヨリ乙港ニ廻漕スル前條ノ船ニ未納稅內外貨物ヲ積入レ乙港ニ輸送セシ  
ト欲スル時ハ其貨主或ハ引受人ヨリ差出書各稅關ニ用フル積送差出書式ニ貨物ノ品種個數記號番號  
元價等詳細相認メ積送ノ儀稅關へ願出貨物檢査濟ノ上積送免狀ヲ受ケ積入ルヘシ若  
シ此手數ヲ經スレテ積入ル、時ハ其現品ヲ沒收ス故ニ其船長或ハ會社タル者ハ必ス  
右免狀ヲ點視シ之レニ照シテ其品ヲ積入ルヘシ若シ無免狀ノ貨物ヲ船積セハ事ノ成  
否ヲ問ハス其會社或ハ其船長へ其品價同額ノ罰金ヲ課スヘシ

第六條 甲港ニ碇泊スル外國船ヨリ都合ニ直チニ貨物ヲ船移シ乙港ニ積送ラント  
欲スル時ハ其貨主或ハ其引受人ヨリ船移廻漕ノ差出書各稅關ニ用ル船移書式ニ貨物ノ品種個數  
記號番號等詳細相認メ船移ノ儀稅關へ願出右免狀ヲ受ケ船移スヘシ儀ナレハ其船長  
或ハ會社タル者ハ右免狀ヲ點視シ之レニ照シテ其品ヲ船移スヘシ若シ無免狀又ハ  
免狀外ノ貨物ヲ船移スル時ハ其現品ヲ沒收シ且其品價同額ノ罰金ヲ其船長或ハ其  
會社ニ課スヘシ

第七條 前條ノ船舶ヨリ輸出稅未納內國貨物ヲ外國船へ積移スルニ許サス若シ密ニ  
之ヲ船移シ又ハ船移セント謀ラハ事ノ成否ヲ問ハス其貨物ヲ沒收シ且其會社或ハ其  
船長ニ其品價同額ノ罰金ヲ課スヘシ

第八條 前條ノ船貨物積入レ甲港ヲ出船セント欲スル時ハ其船長或ハ其會社ヨリ第一  
號ノ如ク積送貨物ノ總目錄二枚一枚ハ甲港稅關へ送キ一枚ハ乙港稅關へ送スヲ認メ稅關へ差出シ出港免狀ヲ



受ケ出港スヘシ若シ此手數ヲ經シテ出港スル時ハ總目錄ニ記載スヘキ品價同額ヲ罰金トシテ其船長成ハ其會社ニ課スヘシ

但シ漁船ハ出港前一時帆船ハ出港前二十四時ヲ隔テ、此手數ヲ爲スヘシ

第九條 前條ノ船甲港ヨリ乙港ニ通港中風順ニヨリ不開港場ヘ入津スルモ輸入税未納ノ外國貨物或ハ貨主外國人ニシテ内國品ヲ船卸スヘカラス若シ船卸スル時ハ密商スルト否トチ問ハス其現品ヲ沒收シ且其品價同額及ヒ金一千圓ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ

(罰) 一千圓

第十條 前條ノ船乙港ニ入港セハ其税關ニ第二號書式ノ如ク未納税内外貨物ノ輸入總目錄一通ヲ差出スヘシ尤モ此手數ハ入港下碇後休日ヲ除キ四十八時間ニ爲スヘシ此時間ヲ過クルキハ一日毎ニ金六十圓ノ罰金ヲ課スヘシ

(罰) 六十圓

第十一條 前條ノ輸入貨物總目錄中若シ誤脱アルヲ覺知セハ休日ヲ除キ二十四時間ニ更正スルコトヲ得ヘシ若シ此期限ヲ過キ更正スル時ハ金十五圓ノ罰金ヲ課スヘシ

(罰) 十五圓

第十二條 前條ノ輸入貨物總目錄ヲ甲港ヨリ乙港ニ運送アリシ積送貨物總目錄ニ照會シ過不足アルキハ其事由ヲ糾明シ條理判然セザレハ不足ノ貨物ハ甲乙兩港間ニ於テ密商セシ者ト看做シ其品物同價ノ金額并ニ金一千圓ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ若シ貨物過ナルキハ其現品ヲ沒收シ且其品價同額ヲ罰金トシテ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ

(罰) 一千圓

第十三條 前條ノ船入港手數ノ上未納税内外貨物ヲ陸揚スル時ハ其貨主或ハ其引受人ヨリ差出書各税關ニ用フニ貨物ノ品種箇數記號番號元價等詳細相認メ陸揚ノ儀税關ヘ願出貨物検査済ノ上陸揚免狀ヲ受ケ陸揚スヘシ若シ無免狀或ハ免狀外ノ貨物ヲ船卸セハ事ノ成否ヲ問ハス其貨物ヲ沒收ス故ニ其船長或ハ會社タルモノハ右免狀ヲ點視シ之ニ照シテ其品ヲ船卸スヘシ若シ無免狀或ハ免狀外ノ貨物ヲ船卸シ若シハ船卸セント謀テハ事ノ成否ヲ問ハス其會社或ハ其船長ヘ其品價同額ノ罰金ヲ課スヘシ但外國貨物ハ輸入税上納ノ上陸揚免狀ヲ受ケ陸揚スヘシ

第十四條 前條ノ船舶便利ニ依リ此規則ニ關係スル貨物ヲ互ニ船移スル時ハ税關ヘ願出免許ヲ受クヘシ若シ無免狀又ハ免狀外ノ貨物ヲ船移スル時ハ其現品ヲ沒收シ且ツ其品價同額ヲ罰金トシテ双方ノ船長或ハ双方ノ會社ニ課スヘシ

第十五條 各港税關ハ祝日祭日及ヒ日曜日ヲ除クノ外毎日午前十時ニ開キ午後四時ニ閉スヘシ故ニ此規則ニ揭示シタル時限下税關ノ開閉時限トチ計リ以テ其期限ヲ愆ルヘカス

(罰) 一千圓

第十六條 此他會社或ハ船長タル者貨主又ハ代人ニ與スルト否トチ問ハス故ニ税金ヲ脱セント謀リ若シハ其他諸般ノ方畧ヲ以テ脱税ヲ謀ル者アレハ金一千圓ヨリ多カラサル罰金ヲ課スヘシ若シ其事過失ニ出テ犯則ニ涉ル者アレハ此規則ニ照ラシテ罰スヘシ



第十七條 總テ事犯則ニ涉ル者其二犯俱發スル者ハ重キニ就テ處分ス可シ  
第十八條 若シ此規則ヲ變更スルコトアレハ一箇月前之ヲ布告スヘシ

(第一、二號書式畧之)

第六節 西洋形日本船各開港場出入規則

明治八年十一月八日布告 第百六十三號

明治七年十一月 第百二十三號布告國內回漕規則來ル十二月一日ヨリ當分停止シ西洋形日

本船各開港場出入規則別紙ノ通相定右同月同日ヨリ施行候條此旨布告候事

別紙

西洋形日本船各開港場出入規則

第一條 凡ソ西洋形日本船ハ蒸氣風帆ノ別ナク橫濱神戸大阪長崎箱館新瀉ノ六港ニ入  
津スルキハ其投錨時刻ヨリ十二時間ニ第一號書式ノ通其港稅關ニ届出ヘキ事  
但シ風潮ノ不順等ニ因リ一時無餘儀入港シ十二時間ニ出港スルモノハ届書ヲ出ス  
ニ及ハス

第二條 貨物ノ積卸ハ其港稅關ノ免許ヲ受タル後チコアラサレハ一切相成ラサル事

第三條 輸入稅未納ノ外國貨物及ヒ貨主外國人ニテ輸出稅未納ノ内國貨物回漕ノ儀ハ  
本年第二十號布告ニ照ラシ夫々手數致スヘキ事  
(二十號布告ハ前節ニ載ス)

第四條 出港セントスルキハ必ラス二時前マテニ第二號書式ノ通リ稅關ニ届出ヘキ事

第五條 (本條明治九年第二十九號布告ヲ以テ如左改正)

出入港ノ届ヲ等閑ニスル者ハ左ノ通リ科料申付シヘキ事

蒸氣船 三百噸マテ 金五圓

三百噸以上三百噸毎ニ金五圓ヲ加フ

風帆船 三百噸マテ 金三圓

三百噸以上三百噸毎ニ金三圓ヲ加フ

第一號

入港御届
一船名 蒸氣 風帆
船主
噸數
乗組
船客 日本人 外國人
仕出場及月日
着港日
右御届申上候也

西洋形日本船各開港場出入規則



明治 年 月 日  
 某港稅關  
 御中  
 船長或ハ會社  
 誰  
 印

第二號

出港御届

一船名 蒸氣 風帆

船主

噸數

乘組

船客 日本人 外國人

仕向場

出港日

右御届申上候也

明治 年 月 日

船長或ハ會社  
誰  
印

某港稅關

御中

第七節 西洋形船水先免狀規則

明治十一年十月  
二月九日布告第三十七號

明治九年(十二月)第五百五十四號布告西洋形船水先免狀規則別冊ノ通改正候條此旨布告候事

別冊

西洋形船水先免狀規則

第一條 明治十二年一月一日ヨリ以後下ニ記載スル海港即チ水先區ニ於テ西洋形船舶ノ水先人トナリ營業スル者及ヒ西洋形船舶ノ水先船トシテ使用スル諸船ハ此規則ニ從テ發行スル免狀ヲ交付スヘシ

第二條 水先ノ事業ニ關係シタル諸般ノ事務ハ農商務省(明治十四年第四十三號布告ヲ以テ內務省ヲ農商務省ト改正ス故ニ今其改テ以下做之)ノ統轄ニ屬シ同省ニ於テハ充分其筋ニ明ナル者ヲ撰ミ此規則ニ準據シテ各試驗出願人ヲ試驗スヘシ

第三條 免狀ハ左ニ記載ノ海港即チ水先區ニ於ケル水先人ニ交付シ且現況ニ從テ其他ノ地方ニ於ケル水先人ニ交付スヘシ

第一 東京灣

西洋形船水先免狀規則



即チ伊豆國石廊岬ヨリ同國神子本島及ヒ大島波浮港ヲ通過シテ安房國野鳥岬ニ至ル一線ヲ以テ疆界線トス

第二 和泉灘

即チ紀伊國宮岬ヨリ淡路國潮崎ノ仁頃ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ北ハ淡路國極北ノ部ニ於ケル東經百三十五度ノ所ニ於テ畫シタル一線ヲ以テ疆界線トス

第三 和泉灘ヨリ瀬戸内ヲ通過シテ長崎迄

第四 長崎港

即チ肥前國福田村ヨリ同國伊王島ノ極北ヲ通過シ同國沖島及ヒ香燒島ヲ經テ同國深堀ニ至ル一線ヲ以テ疆界線トス

第五 津輕海峽

即チ陸奥國尻矢崎ヨリ渡島國惠山崎ニ至ル一線ヲ以テ其東界ヲ畫シ陸奥國大間村ヨリ同國龍飛崎ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ同國龍飛崎ヨリ渡島國白神崎ニ至ル一線ヲ以テ其西界トス

第四條 各海港即チ水先區内ニ俱備スヘキ免許水先人ノ員數ハ其海港即チ水先區ノ現況ニ從フヘシ

第五條 水先人ノ免許ヲ田願スル者ハ自己ノ技業及ヒ性質殊ニ平素ノ行狀ニ係リ確實ナル履歷證書ヲ豫テ其本貫又ハ寄留地ノ地方官廳ヲ經テ農商務省ヘ差出シ置キ或ハ試驗開場ノ時ニ於テハ直チニ司驗官ヘ差出スヘシ

第六條 水先人タル者ハ年齡二十二歳ニ滿テ少クモ一ケ年間ハ一百噸以上ノ西洋形船ニ於テ船長若クハ一等運轉手ノ職ヲ執リシ者若クハ六ケ年間航海ニ從事シ其中一ケ年間ハ自今營業免許ヲ受ケントスル水先區内ニ於テ既ニ水先見習人トナリ航海ニ從事セルモノニ限ルヘシ但シ其水先區内ニ在ル諸港灣海峽及ヒ碇泊場ハ勿論危險ノ場所及ヒ之ヲ避ルルモノ重立タル記標或ハ方位又ハ潮ノ満干潮流燈光浮標礁標ノ位置ニ悉皆通曉シ且大船ヲ指揮シテ之ヲ運轉スルニ充分適當セリト司驗官ヲ満足セシムルヲ要スヘシ

第七條 受験人試驗ヲ受ケ正シク須要ノ條件ニ叶ヒタルト司驗官之ヲ認ムル時ハ其旨ヲ農商務省ニ報告シテ直チニ免許ヲ交付スヘシ但シ此免許ハ翌年一月一日以後ハ全ク其効力ヲ有セサルモノトス

第八條 免許ノ書替ヲ請願セントスル者ハ毎年十一月一日以前其願書ヲ農商務省ヘ差出スヘシ但シ之ヲ許可シ或ハ許可セザルトハ都テ農商務省ノ意見ニ因ルヘシ

第九條 免許ヲ遺失スルモノ又ハ廢損スルモノハ其事由ヲ記シタル願書ヲ農商務省ヘ差出シ書替新免許ヲ申受クヘシ

第十條 水先人ハ始メテ其免許ヲ願受ル時金十圓又其書替毎ニ金壹圓ノ手数料ヲ上納



スヘシ

第十一條 水先人ノ試験ヲナス時ハ定日ヨリ少シモ十四日前其旨ヲ和洋兩種ノ新聞紙ヲ以テ公告スヘシ此公告ニハ其免許ヲ與フヘキ人數ノ限及ヒ試験ノ場所月日ヲ記載スヘシ

第十二條 試験出願人ノ履歷證書ヲ以テ充分満足ノモノト爲ル時ハ其出願ノ順次ヲ以テ其姓名ヲ登簿シ登簿ノ順次ニ從テ之カ試験ヲナスヘシ

第十三條 此規則ニ從テ水先免狀ヲ受ケタル外國人ハ其執業上ニ限リ日本帝國内何レノ海岸ト雖モ上陸シ且又其出發地ヘ陸路歸ルヲ得ルノ特許ヲ與フヘシ

第十四條 第三條ニ規定セル水先区内ニ於テ無免許ノ水先人船舶ヲ嚮導スルハ免許水先人ヨリ其船舶ノ嚮導ヲ爲サント申入レ又ハ其爲メ信號ヲナスハ何時ニテモ免許水先人ヘ其職ヲ讓ルヘシ其職ヲ讓ルラ拒ミ仍ホ其船舶ヲ嚮導シ或ハ免許水先人ト詐稱シ正當ナラサル免狀ヲ用ユル者ハ五十圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

第十五條 水先料ハ別表ニ記ス金高ニ超過スヘカラス但シ表中記載セサルモノハ其距離ノ遠近ニ隨テ船長ト水先人ノ間ニ相當ノ約束ヲ以テ定ムヘシ

第十六條 二人以上ノ免許水先人同時ニ於テ船舶ノ嚮導ヲ申入レ又ハ其信號ヲナスハ最初現ニ乗船シタル者其嚮導ヲ爲シ其水先料ヲ收領シ得ヘシ

第十七條 免許水先人水路嚮導専用ノ水先船ハ第十九條第一節第二節ニ示セル式ノ如ク之ヲ製シ其免狀ヲ農商務省ニ願出ツヘシ農商務省ハ検査ノ上其免狀ヲ與フヘシ但シ此免狀ハ水先人免狀同様其効一ケ年ニ限ル者トシ年々其書替ヲ願出ツヘシ

第十八條 各免許水先船ハ免許ヲ得タル区域内ニ於テ其水路嚮導用ノ爲メニハ港灣稅噸稅燈臺稅等ノ諸稅ヲ免スヘシ

第十九條 各水先船ハ左ノ徵候ヲ以テ區別スヘシ

第一 水先船ノ外部ハ總テ黑色タルヘシ

第二 船尾及ヒ大帆ノ上部ニ於テ國字及ヒ羅馬字ニテ免許水先船ノ文字並ニ其番號ヲ明瞭ニ書スヘシ

第三 免許水先船ニ免許水先人ノ乗込アル時ハ桅上或ハ船首或ハ旗竿若クハ他ノ認メ易キ場所ニ於テ日出ヨリ日没マテ水先旗ヲ翻揚スヘシ但シ水先旗ハ明治十年一月甲第一號海軍省布達ニ照準スヘシ

第四 (本項明治十三年第三十九號布告ヲ以テ如左改正)

水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スル時ハ他船ニ用フル燈火ヲ掲ケス只橋頭ニ於テ周回諸方ヨリ見ユヘキ白燈一個ヲ掲ケ且十五分時ヲ超エサル間歇ヲ以テ閃光一個又ハ數個ヲ發スヘシ

水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事セサル時ハ他船ト同様ノ燈火ヲ掲クヘシ  
第二十條 日中ニ於テ左ニ記載スル信號ヲ表示スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號ト認ム

西洋形船水先免狀規則



一シ

第一 前橋ニ於テ其船ノ船首旗英語「ヨウ」又ハ國旗ヲ掲揚スル事

第二 萬國普通ノ水先信號ノ符P I 字ヲ揭示スル事

夜間ニ於テ左ノ信號ヲ同時若クハ別時ニ表示スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號ト認ムヘシ

第一 十五分毎ニ青燈ヲ掲出スル事

第二 須臾ノ間歇ヲ以テ凡ソ一分時ノ間透明ナル白燈ヲ上甲板ノ舷部ニ於テ射發スル事

第二十一條 各免許水先人ヘハ其免狀ハ勿論此規則ノ寫ヲ一通ツ、交付スヘシ故ニ其筋ノ官吏又ハ雇主ヨリ其書類ノ閱覽ヲ要スル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ若シ之ヲ拒ム時ハ農商務省ニ於テ其執業ヲ停止シ或ハ其免狀ヲ取上クヘシ

第二十二條 此免狀ハ他人ニ貸與シ或ハ讓與スヘカラス若シ貸與シ或ハ讓與スル時ハ農商務省ニ於テ其免狀ヲ取上クヘシ

第二十三條 農商務省ニ於テ免許水先人其本分ノ職務ニ堪ヘサルカ若クハ亂醉又ハ不行跡アルカ或ハ故ナクシテ其職務ヲ執ルニ嫌疑ヒ若クハ之レヲ怠リタルコトアリト思惟スル時ハ同省ヨリ吏員ニ命ジテ之レヲ審問セシメ其情狀ニ隨ヒ其執業ヲ停止シ或ハ其免狀ヲ取上クヘシ

(水先料一覽表略之)

第八節 西洋形船船長運轉手機關手免狀規則

明治十四年十二月廿八日布告 第七十五號

西洋形船船長運轉手機關手免狀規則別冊之通告定來十五年一月一日ヨリ施行シ九年六月八十二號同年六月第九十四號同年十二月第五十三號同年十二月第五十七號十三年十二月第五十八號十四年二月第十三號同年三月第十八號布告ハ同日ヨリ都テ之ヲ廢止ス

別冊

西洋形船船長運轉手機關手免狀規則

此規則ハ海軍諸艦ニ關セサルモノトス

此規則中内國航船ト稱スルハ支那朝鮮ノ間ニ於ケル鴨綠江ヨリ露領黑龍江ニ至ルノ沿岸及ヒ薩吡哩諸港ニ航スルモノモ亦包含ス

第一條 船長、運轉手、機關手ノ職ヲ執ル者ハ此規則ニ遵ヒ其職ニ應スル等級ノ免狀ヲ農商務卿ヨリ受ケ之ヲ所持スヘシ

第二條 免狀ハ甲乙及ヒ小形船機關手ノ三種トナシ又甲乙ノ兩種トモ船長、一等運轉手、二等運轉手、一等機關手、二等機關手ノ五ニ分テ各々試驗規程ニ從ヒ及第セシ者ニ授與スヘシ

第三條 試驗ノ規程ハ第一號布達ニ據ルヘシ

西洋形船船長運轉手機關手免狀規則



第四條 高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルヲ得下等ノ免狀ハ高等ノ免狀ニ代用スルヲ得ス

甲種船長ノ免狀ハ乙種船長ノ免狀ニ對シ高等ノ効力ヲ有シ運轉手、機關手ノ免狀ニ於ケルモ亦同シ

乙種二等運轉手ノ免狀ハ從前ノ小形船船長ノ免狀ニ對シ高等ノ効力ヲ有シ乙種二等機關手免狀ノ小形船機關手免狀ニ於ケルモ亦同シ

第五條 從前授與シタル本免狀ハ甲種免狀ト同一ノ効力ヲ有シ又假免狀ハ當分ノ内乙種免狀ニ代用スルヲ得

從前授與シタル小形船船長ノ免狀ハ其効力ヲ有シ又從前ノ小形船機關手ノ免狀ハ當分ノ内本則ノ小形船機關手免狀ニ代用スルヲ得

第六條 免狀ノ書換又ハ再授ヲ請フトキハ手数料金壹圓ヲ納ムヘシ但シ再授ヲ請フ者ハ二名以上ノ證人ヲ要ス

第七條 免狀ハ其筋吏員ノ指圖ニ應シ何時タリトモ其檢査ヲ受クヘシ

第八條 甲種免狀試驗課程ニ合格スト認メタル外國政府ノ本免狀ヲ所持セル船長、運轉手、機關手ハ更ニ試驗ヲ要セス原免狀同等ノ免狀ヲ授與スヘシ

第九條 左ノ三項ニ記載スル各船ハ其所用ノ區別及ヒ登簿噸數、公稱馬力ノ限度ニ從ヒ應等若シハ高等ノ免狀ヲ受有スル職員ヲ乘組マシムヘシ

第一項

三百噸未満 外國航船 甲種免狀船長 一名以上  
一等運轉手

三百噸以上 同 甲種免狀船長 同  
一等運轉手 同  
二等運轉手 同

一百馬力未満 同 同 一等機關手 同

一百馬力以上 同 同 二等機關手 同

第二項

一百噸以上 內國航船 乙種免狀船長 同  
一等運轉手 同

三百噸以上 同 同 船長 同  
一等運轉手 同  
二等運轉手 同

五百噸以上 同 同 甲種免狀船長 同  
一等運轉手 同  
二等運轉手 同

西洋形船々長運轉手機關手免狀規則



二十馬力以上 同 乙種免狀二等機關手 同

五十馬力以上 同 乙種免狀一等機關手 同  
若シハ甲種免狀二等機關手 同

一百馬力以上 同 甲種免狀一等機關手 同  
同 二等機關手 同

第三項

二十噸(汽船ハ)以上 同 乙種免狀二等運轉手 同  
一百噸未滿 同 若シハ從前ノ小形船舶長 同

二十馬力未滿 同 小形船舶機關手 同

二十馬力未滿 港内若クハ湖川用 小形船舶機關手 同

但シ二十馬力以上ノモノハ第二項ニ準ヒ機關手ヲ乘組マシムヘシ

(罰)二百五十圓以上

前記各項ニ從ヒ應等若クハ高等ノ免狀ヲ受有セス或ハ禁止、停止ニ係リ受有シ能ハスシテ其職ヲ執リ出航スル者及ヒ之ヲシテ其職ヲ執ラシメ又ハ其職員ヲ減シテ出航セシムル者ハ各二圓以上二百五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ  
第十條 農商務卿ハ船長、運轉手、機關手ノ技術劣等ニシテ其職ヲ執ルニ不適當ナリ

ト考察スルトキ又ハ左ニ掲クル事項ニ於テハ其筋吏員ヲシテ之ヲ審問セシメ其免狀ノ使用ヲ停止シ或ハ禁止スルコトアルヘシ

第一 乱醉、粗暴其他ノ不品行若クハ指揮ニ悖戻シ又ハ職務ニ怠ル者

第二 失錯又ハ不當ノ所爲ニ由テ船ヲ失ヒ或ハ棄テ或ハ之ニ大損害ヲ生シ又ハ人命ヲ害ヒ或ハ大傷痕ヲ被ラシメシ者

第三 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタル者

第十一條 前條審問中檢察官又ハ被害者ヨリ裁判所ニ出訴スルキハ農商務卿其審問ヲ中止シ裁判確定ヲ俟テ之ヲ處分スヘシ

第十二條 免狀ノ使用ヲ停止シ或ハ禁止スルトキハ農商務卿其免狀ヲ取揚クヘシ若シ之ヲ拒ムモノハ二圓以上二百五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

但シ第九條末項ノ罪ト俱ニ發スルトキハ罰金ヲ並ヒ科スヘシ

第十三條 免狀使用ノ停止或ハ禁止ノ處分ニ服セサルモノハ其筋へ上訴スルコトヲ得ヘシ

第十四條 免狀ノ使用ヲ禁止シタル者ト雖モ一ヶ年ノ後ニ至リ農商務卿ノ考察ヲ以テ更ニ相當ノ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第九節 西洋形船舶検査規則

明治十七年十二月二十二日布告 第三十號

西洋形船舶検査規則

(罰)二百五十圓以上



西洋形船舶検査規則別冊ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

別冊

西洋形船舶検査規則

第一條 西洋形船舶海軍艦船ヲ除クハ此規則ニ遵ヒ検査ヲ受クヘシ但登簿船免狀ヲ受有スルニ及ハサル風帆船ハ此限ニアラス

第二條 船舶検査所設置ノ場所ハ農商務卿之ヲ定ム

第三條 検査所々在ノ地方ヲ航行スル船舶ノ検査ハ其最寄検査所ニ願出ヘシ

第四條 検査所未設ノ地方ヲ航行スル船舶ノ検査ハ其船籍アル地方廳ヲ經テ農商務省ニ願出ヘシ

第五條 登簿船免狀ヲ受有スルニ及ハサル汽船ノ検査ハ其船籍アル地方廳ニ願出ヘシ

第六條 検査官吏ハ農商務卿之ヲ命ス但第五條ノ汽船ニ係ル検査官吏ハ府知事縣令之ヲ命ス

第七條 検査官吏ニ於テ船舶ヲ検査シ航行ニ適當ト認ムルトキハ農商務省ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル検査證書ヲ交付ス但地方廳ノ検査ニ係ル者ハ其廳ヨリ之ヲ交付ス

一 番號

一 船名

一 船主氏名

一 定艀場名

一 登簿噸數

一 端船其他必要ノ所屬品

一 航行シ得ヘキ場所ノ定限

一 證書有効期限

一 汽船ニハ左ノ事項ヲ加フ

一 公稱馬力

一 汽機ノ種類

一 汽機ノ種類

一 最大汽壓

一 旅客定員

第八條 検査官吏ニ於テ船舶ヲ検査シ航行ニ不適當ト認ムルトキハ其修理ヲ命シ或ハ出航ヲ差止ムヘシ

第九條 検査證書ノ效力ハ其船ノ現狀ニ依リ六箇月十二箇月ニ區別ス

第十條 検査證書ハ船内最モ見易キ場所ニ掲ケ置クヘシ

西洋形船舶検査規則



第十一條 検査證書ヲ亡失若シハ毀損シタルトキハ其理由ヲ詳記シ再渡ヲ願出ヘシ

第十二條 船名船主及ヒ定製場ヲ變更シタルトキハ農商務省又ハ地方廳ニ届出ヘシ

第十三條 船體若シハ汽機操縦其他要部ノ修理若シハ變更ヲナシタルトキハ更ニ検査ヲ受クヘシ

第十四條 船舶航行ノ用ヲ爲サ、ルニ至リタルトキ又ハ除籍トナリタルトキハ直ニ検査證書ヲ農商務省又ハ地方廳ニ返納スヘシ

第十五條 検査證書ノ有効期限内ト雖モ検査官吏ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ臨檢スルコトアルヘシ

第十六條 船舶ノ検査ヲ受ケスシテ航行シ又ハ無効ノ検査證書ヲ使用シ又ハ検査證書ニ記載セル最大汽壓ヲ超過シ或ハ場所ノ定限ヲ超エテ航行シ又ハ検査官吏ノ命ニ違背シ修理セズシテ出航シ若クハ差止ノ命ニ違背シテ出航シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 検査證書ニ記載セル端船其他必要ノ所屬品ヲ具ヘス又ハ旅客定員ヲ超過シテ航行シ又ハ第十三條ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 検査官吏ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ第十條ヲ犯シタル者ハ二十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 前三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由アルモノハ其罪ヲ論セス

(罰) 三十圓以上  
三百圓以下

(罰) 十圓以上  
百圓以下

(罰) 二十圓以上  
三百圓以下

(料) 二十圓以上  
九十五圓以下

第二十條 第十一條第十二條第十四條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五圓以下ノ料ニ處ス

第二十一條 検査細則及ヒ施行ノ手續ハ農商務卿之ヲ定ム

第七章 營業ニ關スル罰則

第一節 特許條例

明治二十一年十月十八日勅令第八十四號

朕特許條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

特許條例

第一條 新規有益ナル工術、機械、製造品及合成物ヲ發明シ又ハ工術、機械、製造品及合成物ノ新規有益ナル改良ヲ發明シタル者ハ此條例ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得

特許トハ發明者ニ他人ヲシテ其承諾ヲ經スシテ前項ノ發明ヲ製作、使用又ハ販賣セシメサル特權ヲ許スコトヲ謂フ

第二條 左ニ掲グル發明ハ特許ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一 飲食物嗜好物

二 醫藥並其調合法

三 特許出願以前公ニ用ヒラレタルモノ但試験ノ爲メ公ニ知ラレタルコト二年以内ノモノハ此限ニ在ラズ

特許條例



第三條 特許ヲ受ケント欲スル者ハ一發明毎ニ發明ノ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條 特許ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其發明ヲ審査セシメ特許ヲ與フヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ特許原簿ニ登錄シ特許證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 特許證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條 特許ノ年限ハ五年十年及十五年ノ三種ト爲シ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第七條 公益ノ爲メ普及ヲ要スルモノ又ハ軍事上必要ナルモノ若シハ秘密ヲ要スルモノト認メタル發明ニハ農商務大臣ハ特許ニ制限ヲ附シ若シハ特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタル特許ヲ制限シ若シハ之ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ農商務大臣ハ相當ト認ムル報酬ヲ發明者又ハ特許證主ニ與フルモノトス

第八條 他人ノ特許發明ヲ改良シ其改良發明ノ特許ヲ受ケント欲スル者ノ其特許證主ニ協議シ原發明ニ改良發明ヲ合セテ使用スルノ承諾ヲ經第三條ニ依リ出願スヘシ

特許證主其承諾ヲ拒ミタルトキハ其旨ヲ願書ニ記載シテ出願スルコトヲ得此場合ニ於テハ農商務大臣ハ原發明ヲ改良發明ニ合セテ使用スルノ特許ヲ改良發明者ニ與フ

ルコトヲ得

改良發明者前項ノ特許ヲ受ケタルトキハ原特許證主ニ農商務大臣ノ相當ト認ムル報酬ヲ與フル義務アルモノトス

第九條 特許ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條 特許ヲ受ケタル發明ト雖トモ左ニ掲ケルモノハ其特許ヲ無効トス

一 新規又ハ有益ナラザリシコトヲ發見セラレタルモノ

二 第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ

三 發明ヲ實施スルニ必要ナル事實ヲ故意ニ明細書ニ記載セザリシコトヲ發見セラレタルモノ

四 發明ヲ實施スルニ必要ナラサル事實ヲ故意ニ明細書ニ記載セシコトヲ發見セラレタルモノ

第十一條 特許局審査官特許出願ノ發明ヲ審査シ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルトキハ特許局長ハ其査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第十二條 前條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコトヲ得

再審査ヲ請求スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ更ニ之ヲ審査セシム

特許條例



ハシ審査官其不服理由ヲ不當ト査定シタルトキハ其査定書ヲ不服者ニ送付スヘシ

第十三條 特許局審査官特許出願ノ發明他人ノ特許出願中ノ發明ト牴觸シ又ハ他人ノ

特許發明ト牴觸スト査定シタルトキハ特許局長ハ其牴觸ノ箇所ヲ關係人ニ告知シ其

發明ニ關スル始末書ヲ差出サシムヘシ

關係人始末書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ之ヲ特許局審査官ニ付シテ發明ノ先後

ヲ審査セシメ其査定書ヲ關係人ニ送付スヘシ

第十四條 前條ノ場合ニ於テ既ニ與ヘタル特許證ヲ取消シ出願ノ發明ニ特許ヲ與フル

トキハ其特許年限ハ前特許證登錄ノ日ヨリ起算シ其年限ニ超ルコトヲ得ス

第十五條 第十二條ノ再査定及第十三條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ審判ヲ請求ス

ルコトヲ得

第十六條 特許證主其權利ノ他特許證主ノ權利ト撞著スルコトヲ發見シタルトキハ其

權利ヲ確定スル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十七條 特許ヲ受ケタル發明第十條ニ該ルコトヲ發見シタル者ハ其特許ヲ無効トス

ル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 審判ヲ請求スル者アルトキハ特許局ニ於テ局長ハ審判長トナリ二人以上ノ

審判官ト共ニ之ヲ審判スヘシ

第十九條 特許局ノ審判ニ對シテハ不服ヲ申立又ハ裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

第二十條 第十三條ノ審査及特許局ノ審判ニ關シ關係人ニ於テ證據ヲ要スルトキハ其

請求ニ依リ特許局長ハ其集取ヲ治安裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第二十一條 第十六條第十七條ニ係ル費用ハ民事訴訟入費例ニ依リ負擔スヘキモノト

ス

第二十二條 特許ハ制限ヲ附シ若クハ附セスニテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書

入トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登錄ヲ受クヘシ登錄ヲ受ケ

サル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第二十三條 特許局ノ官吏ハ在職中特許ヲ出願シ又ハ特許ヲ新ニ有スルコトヲ得ス但

相續ニ由リ特許ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス

第二十四條 特許ハ左ノ場合ニ於テ其効ヲ失フモノトス

一 特許證主相當ノ事故ナクシテ特許證ノ日附ヨリ三年ヲ經テ其發明ヲ實施公行セ

サルトキ

二 特許證主相當ノ事故ナクシテ其發明ノ實施公行三年間中止シタルトキ

三 特許證主其特許品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シ又ハ自己ノ權利ヲ侵スヘキ物

品ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣スル者アルコトヲ知リテ之ヲ默許シタルトキ

第二十五條 特許證主特許證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願

スルコトヲ得

特許條例



第二十六條 特許證主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ特許ノ效力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添へ特許證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其發明ノ要部ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 特許證主其明細書中ニ自己ノ發明ニアラサル事項ヲ誤テ自己ノ發明トシテ記載セシコトヲ發見シタルトキハ其削除ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條 第二十六條第二十七條ニ依リ出願スルモノアルトキハ特許局長ハ其願書ヲ特許局審査官ニ付シテ審査セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ特許局審査官ノ査定ニ服セサル者ハ第十二條ニ依リ再審査ヲ請求スルコトヲ得

第二十九條 特許證主ハ其物品ニ農商務大臣ノ定メタル特許標記ヲ爲スヘシ

第三十條 特許ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 特許ヲ出願スルトキ 一發明毎ニ金五圓
- 二 特許ノ賣與讓與共有又書入契約ノ登錄ヲ請求スルトキ 一發明毎ニ金三圓
- 三 特許證ノ再下付ヲ出願スルトキ 證書一枚毎ニ金一圓
- 四 特許證ノ改訂又ハ明細書中ノ削除ヲ出願スルトキ 一發明毎ニ金五圓
- 五 審判ヲ請求スルトキ 一事件毎ニ金七圓

第三十一條 特許證又ハ改訂特許證ヲ受ケル者ハ一證書毎ニ左ノ區別ニ從ヒ特許料ヲ納ムヘシ

納ムヘシ

- 一 五年ノ特許 金十圓
- 二 十年ノ特許 金十五圓
- 三 十五年ノ特許 金二十圓

第三十二條 特許局ハ時々特許發明ノ明細書及特許公報ヲ印刷シ衆庶ノ縦覽ニ供スヘシ其請求者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第三十三條 特許ニ關スル書類ノ謄本又ハ圖面ノ調製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ

第三十四條 特許ヲ侵シタル者ハ其特許證主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第三十五條 前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第三十六條 他人ノ特許品ヲ偽造シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ情ヲ知り偽造品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者又ハ他人ノ特許工術ヲ竊用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

特許證主ノ權利ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知り之ヲ外國ヨリ輸入シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ情ヲ知り其輸入シタル物品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第三十七條 前條ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ沒收シテ特許證主ニ給付シ其既ニ賣

(重) 一月以上  
二年以下  
(罰) 二十圓以上  
二百圓以下

特許條例



捌キタルモノハ代價ヲ追徴シテ之ヲ給付ス

第三十八條 詐欺ノ所爲ヲ以テ特許證ヲ受ケタル者又ハ特許ヲ受ケサル物品ニ特許標

記若シハ之ニ類似シタル標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ受託販

賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第三十六條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ使用若シハ

販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第四十條 特許證主其特許品ニ第二十九條ノ特許標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告

訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四十一條 被告人特許ノ無効タルコトヲ以テ答辨セント欲スルトキハ其旨ヲ裁判所

ニ申告シ其日ヨリ三十日以内ニ特許局ニ第十七條ノ審判ヲ請求スヘシ此場合ニ於テ

裁判所ハ特許局ノ審判終結マテ其裁判ヲ中止スヘシ

第四十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十三條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第四十四條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

第四十五條 明治十八年四月第七號布告專賣特許條例ハ此條例施行ノ日ヨリ廢止ス但專

賣特許條例ニ依テ受ケタル專賣特許ハ此條例ニ依テ受ケタル專賣特許ト同一ノ效ア

ルモノトス

專賣特許出願ノ此條例施行ノ日ニ於テ處分ヲ終ラサルモノハ此條例ニ依リ處分ス

第二節 特許條例施行細則

明治二十二年一月 第一號  
農商務省令

特許條例施行細則ヲ定ムルコト別冊ノ如シ

別冊

特許條例施行細則

第一條 特許條例ニ依リ差出ス願書ハ第一號ヨリ第八號ニ至ル書式ニ從ヒ之ヲ認メ同

條例第三十條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 明細書ニハ明細書文例ニ準シ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一 發明ノ名稱

二 發明ノ目的及性質ノ要領

三 圖面アルトキハ其略解

四 發明ノ詳細説明

五 改良發明ニ係ルトキハ其原發明トノ區別

六 特許請求ノ區域

第三條 圖面ニハ製圖例ニ準シ特許請求ノ區域ヲ明了ナラシムルニ必要ナル發明ノ部

特許條例施行細則



分チ示シ改良發明ニ係ルトキハ更ニ原發明ノ改良發明ト結合スヘキ部分ヲ示スヘシ  
第四條 特許願書及明細書圖面ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ノミヲ差出シ置キ明細  
書圖面ハ願書ノ日附ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得此期限内ニ差出サ、ルト  
キハ出願ヲ無効トス

前項期限内ニ明細書圖面ヲ差出ストキハ何年何月何日附何發明ノ願書ニ添フヘキモ  
ノナルコトヲ記シタル書面ヲ添フヘシ

第五條 特許條例第八條ニ依リ改良發明ノ特許ヲ願出ルトキハ願書ニ特許證主ノ承諾  
書若シ承諾ヲ經ル能ハサルトキハ其事由書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第六條 特許條例第二十六條ニ依リ特許證ノ改訂ヲ願出ルトキハ其事由ヲ記載シタル  
願書ニ改訂明細書若シハ圖面ヲ添ヘ現特許證並ニ附屬ノ明細書圖面ト共ニ差出スヘ  
シ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ此細則第三十八條及第三十九條ノ手續ニ依  
リ改訂特許證ヲ送付スヘシ

第七條 特許條例第二十七條ニ依リ明細書ノ削除ヲ願出ルトキハ其願書ニ明細書ノ請  
求區域中削除スヘキ部分ヲ記載シテ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ其證明書ヲ出願人ニ送付スヘシ  
第八條 願書ニ不完全ノ廉アリト認メタルトキハ特許局長ハ其訂正ヲ出願人ニ通知シ

通知書ノ日附ヨリ三十日以内ニ之ヲ訂正セシムヘシ此期限内ニ訂正ヲ爲サ、ルトキ  
ハ出願ヲ無効トス

第九條 特許願書及明細書圖面ノ完備シタルトキハ特許局長ハ其願書ニ順號ヲ附シ之  
ヲ出願人ニ通知スヘシ  
出願人前項ノ通知ヲ受ケタル後其出願ニ關シ書面ヲ差出ストキハ之ニ願書ノ順號ヲ  
記入スヘシ

第十條 特許願書ニ順號ヲ附シタルトキハ特許局長ハ之ヲ主務審査部ニ配付スヘシ  
審査部ニ於テハ發明ノ種類ニ從ヒ各審査官ノ擔當ヲ定メ置キ願書ノ順號ニ從ヒ其審  
査ニ着手スヘキモノトス

第十一條 左ノ願書ハ他ノ特許願書ニ先テ處分ニ着キスヘキモノトス  
一 特許條例第十二條ノ再審査請求ニ係ル特許願書

二 同條例第二十六條ノ改訂願書及第二十七條ノ削除願書

三 此細則第十二條ノ通知ニ依リ明細書圖面ノ訂正ヲ終ヘタル特許願書

第十二條 審査官ニ於テ明細書圖面ニ不完全ノ廉アリト認メタルトキハ特許局長ハ其  
旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正書又ハ訂正圖面ヲ差出サ、  
ムヘシ此期限内ニ差出サ、ルトキハ出願ヲ無効トス  
第十三條 審査官ニ於テ發明ノ離形若シハ見本ヲ必要ト認メタルトキハ特許局長ハ其



旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ適當ノ雛形又ハ見本ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サ、ルトキハ出願ヲ無効トス

第十四條 出願人其出願中ニ係ル願書明細書圖面又ハ雛形見本等ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ發明ノ要部ニ變更ヲ生セサルモノニ限り其改訂又ハ改造ヲ請求スルコトヲ得但査定書若シハ特許通知書ヲ發シタル後及審判中ニ係ルモノ、訂正又ハ改造ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノ、外之ヲ許サス

第十五條 特許條例第十三條ノ牴觸ハ左ノ場合ニ於テ特許請求區域ノ全部若クハ一部擅着スルトキニ限り生スルモノトス

- 一 二箇以上ノ特許出願ノ發明互ニ牴觸スルトキ
- 二 特許出願ノ發明及特許發明又ハ改訂出願ニ係ル發明互ニ牴觸スルトキ
- 三 二箇以上ノ改訂出願ニ係ル發明互ニ牴觸スルトキ
- 四 改訂出願ニ係ル發明及特許發明互ニ牴觸スルトキ

第十六條 牴觸ノ處分ハ審査官ニ於テ其牴觸ニ係ル發明ヲ特許スヘキモノト査定シタル後之ニ着手スヘシ

第十七條 特許條例第十三條ノ始末書ニハ發明ヲ考案及完成シタル年月日並ニ發明ヲ圖面雛形又ハ見本等ニ作リタル年月日ヲ記載シテ其證明ヲ附シ必要ノ證據ヲ添フヘキモノトス

第十八條 前條ノ始末書ヲ差出サシムルトキハ特許局長ハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ關係人ニ通知スヘシ

關係人前項ノ期限内ニ始末書ヲ差出サ、ルトキハ其發明ヲ特許願書ノ日附ヨリ以前ニ完成シタル旨ヲ以テ發明ノ先後ヲ爭フコトヲ得ス

第十九條 關係人始末書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ之ヲ對手人ニ送付シ相當ノ期限ヲ定メ答辨書ニ其事實ヲ證明スルニ必要ノ證據ヲ添ヘテ差出サシムヘシ

對手人答辨書ヲ差出シタル後審査官ニ於テ對手人ノ一方又ハ雙方ヲシテ尙ホ答辨ヲ爲サシムルコトヲ必要ト認メタルトキハ特許局長ハ亦前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條 關係人始末書又ハ答辨書ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ訂正書ヲ添ヘ其訂正ヲ請求スルコトヲ得但對手人答辨書ヲ差出シタル後ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノ、外其請求ヲ許サス

第二十一條 審査官ニ於テ始末書又ハ答辨書ニ不明瞭ノ點アリト認メタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ差出人ニ通知シ相當ノ期限ヲ定メ訂正書ヲ差出サシムヘシ

第二十二條 前二條ニ依リ始末書又ハ答辨書ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ特許局長ハ其訂正書ヲ對手人ニ送付スヘシ

第二十三條 發明ノ牴觸ヲ解除セントスル者ハ査定前ニ其特許願書又ハ特許證書若シハ改訂願書ノ取消又ハ其發明ノ牴觸部分ノ削除ヲ請求スヘシ

特許條例施行細則



前項ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ特許局長ハ其牴觸ヲ解除シ之ヲ關係人ニ通知スヘシ  
第二十四條 發明牴觸ノ審査ヲ受ケタル者ハ其審査ヲ受ケタル發明ト同一ノ發明ニ就キ先ニ牴觸シタル特許願書又ハ特許證書若シハ改訂願書ニ對シテ再ヒ牴觸ノ審査ヲ受ケルコトヲ得ス

第二十五條 審判ハ書類及口頭ノ二種トシ特許條例第十八條ニ依リ審判長及二人以上ノ審判官合議ヲ以テ之ヲ爲スヘシ  
口頭審判ハ關係人ノ一方又ハ雙方ニ於テ請求シ若シハ審判長ニ於テ必要ト認メタルトキ公開シテ之ヲ爲スヘシ

第二十六條 審判ヲ請求スル者ハ其請求ノ要點、理由及證明方法ヲ記載シタル請求書ヲ認メ特許條例第三十條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シテ差出スヘシ  
第二十七條 審判請求書ヲ差出シタル者アルキハ特許局長ハ之ヲ審判部ニ配付シ審判長ハ其請求書ヲ對手人ニ送付シ相當ノ期限ヲ定メ答辨書ヲ差出サシムヘシ  
對手人答辨書ヲ差出シタル後尙ホ對手人ノ一方又ハ雙方ヲシテ答辨ヲ爲サシムルコトニ必要ト認メタルトキハ審判長ハ亦前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十八條 審判請求書又ハ答辨書ヲ差出ストキハ其記載ノ事實ヲ證明スルニ必要ノ證據ヲ添フヘシ  
第二十九條 審判請求書又ハ答辨書ヲ差出シタル者其請求書又ハ答辨書ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ訂正書ヲ添ヘ其訂正ヲ請求スルコトヲ得但對手人答辨書ヲ差出シタル後ハ審判長ニ於テ必要ト認メタルモノ、外其請求ヲ許サス

第三十條 審判請求書又ハ答辨書ニ不明瞭ノ處アリト認メタルトキハ審判長ハ其旨ヲ差出人ニ通知シ相當ノ期限ヲ定メ訂正書ヲ差出サシムヘシ  
第三十一條 審判請求書又ハ答辨書ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ審判長ハ其訂正書ヲ對手人ニ送付スヘシ

第三十二條 審判請求書始末書及牴觸又ハ審判ニ關スル答辨書並ニ訂正書ハ審判長又ハ特許局長ノ定メタル期限内ニ差出スニアラサレハ之ヲ受理セス  
第三十三條 口頭審判ヲ爲ストキハ審判長ハ其期日ヲ定メ之ヲ關係人ニ通知スヘシ  
關係人前項ノ通知ヲ受ケ其期日ニ出頭セサルトキハ缺席ノ儘口頭審判ヲ終結スルモノトス

第三十四條 審判ヲ終結シタルトキハ審判長ハ其審決書ヲ關係人ニ送付スヘシ口頭審判ノ場合ニ在テハ尙ホ之ヲ言渡スヘキモノトス  
第三十五條 審判ヲ請求シタル者其請求ヲ取消サント欲スルトキハ審判終結前ニ其旨ヲ申出ツヘシ

第三十六條 審判ノ請求ヲ取消シ又ハ之ヲ放棄シタル者ハ審判上敗者ト見做スヘシ但對手人ノ承諾ヲ經テ取消シタル者ハ此限ニアラス



第三十七條 特許條例第十二條ノ再審査及同條例第十五條ノ審判請求期限ハ査定書ノ日附ヨリ起算シ九十日トス此期限ヲ經過スルトキハ再審査又ハ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三十八條 特許ヲ與フルトキハ特許局長ハ特許料納付用紙ヲ添ヘテ特許通知書ヲ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ特許料納付用紙ニ特許條例第三十一條ノ特許料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ此期限内ニ差出サ、ルトキハ出願ヲ無効トス

第三十九條 出願人特許料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ其納付ノ日ヲ以テ特許原簿ニ登録シ其旨ヲ出願人ニ通知シ三十日以内ニ特許證ヲ送付スヘシ

第四十條 特許條例第八條第二項ノ場合ニ於テ特許證主ノ承諾ヲ經ル能ハスシテ出願シタル者ニ特許ヲ與ルトキハ特許局長ハ其旨ヲ特許證主ニ通知シ報酬ニ就キ協議ヲ爲サシムルニ必要ノ手續ヲ爲スヘシ

其協議整ハサルトキハ特許局長ハ農商務大臣ノ相當ト認ムル報酬ノ種類數額方法等ヲ特許通知ト同時ニ出願人ニ通知シ特許原簿ノ登録ト同時ニ之ヲ特許證主ニ通知スヘシ

第四十一條 特許證ハ第九號書式ニ依リ調製シ特許原簿登録ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス

特許條例第二十五條又ハ第二十六條ノ場合ニ於テ特許證ヲ下付スルトキハ特許局長ハ其事由並ニ下付ノ年月日ヲ裏書シ之ニ署名スヘシ

第四十二條 出願人他人ノ記名又ハ他人ト連名ニテ特許證ヲ受ケント欲スルトキハ特許原簿登録ノ日マテニ其旨ヲ申出ツヘシ

第四十三條 特許條例第二十二條ニ依リ賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登録ヲ請求スルトキハ第十號及第十一號書式ニ從ヒ請求書ヲ認メ同條例第三十條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ約定書ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ請求アルトキハ特許局長ハ其約定書ヲ契約原簿ニ登録シ約定書ニ登録濟ノ證印ヲ捺シテ之ヲ請求人ニ送付スヘシ

第四十四條 特許局ニ差出ス書類ハ一事件毎ニ一通宛認メ之ニ差出ノ年月日及差出人ノ住所、氏名、明細書及圖面ニハ差出人ノ氏名ノミヲ記載シテ捺印スヘシ

審判請求書、始末書及牴觸又ハ審判ニ關スル答辨書及訂正證ニハ對手人ノ住所、氏名ヲモ記載シ正本一通ノ外對手人ノ員數ニ應ジ副本ヲ添フヘシ

第四十五條 前條ノ書類ハ字體明瞭ニ認メ若シ其書類中文字ヲ插入又ハ削除シ若クハ欄外ニ記入シタルトキハ之ニ認印シ地方廳ヲ經由セス直ニ特許局ニ差出スヘシ

第四十六條 特許局ニ差出シタル書類ハ其下戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十七條 特許局ニ差出ス書類等ニシテ執務時間ノ最後一時間内又ハ休日ニ到着シ



タルモノハ次ノ執務日ニ接受シタルモノト見做スヘシ

第四十八條 出願人代人ヲ使用スルトキハ委任狀寫ヲ添ヘ其旨ヲ届出ツヘシ

代人ニ不都合ノ事アリト認メタルトキハ特許局長ニ於テ其代理ヲ差止ムヘシ

第四十九條 特許局ニ差出シタル雛形又ハ見本ノ不用ニ屬シタルトキハ特許局長ハ其

受取方ヲ差出人ニ通知スヘシ差出人其通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ受取方ヲ爲サ

ハルトキハ特許局長ニ於テ適宜處分スヘキモノトス

第五十條 已ヲ得サル事故ノ爲メ此細則ニ定ムル期限内ニ書類見本又ハ雛形ヲ差出シ

又ハ出頭シ難キトキハ其事由ヲ記載シ期限内ニ延期請求書ヲ差出スコトヲ得

前項ノ請求ヲ相當ナリト認メタルトキハ特許局長又ハ審判長ハ更ニ期限ヲ定メ之ヲ

請求人及關係人ニ通知スヘシ

第五十一條 特許證主ハ特許局長ノ差圖ニ從ヒ陳列用ノ爲メ其發明ノ雛形又ハ見本ヲ

差出スヘシ

第五十二條 特許證主ハ特許條例第二十九條ニ依リ特許品又ハ其上包等ニ特許ノ二字

特許證ノ日附及特許ノ年限ヲ標記スヘシ

第五十三條 特許ヲ相續シタルトキ又ハ特許證主氏名ヲ變換シタルトキハ三十日以内

ニ其旨ヲ届出ツヘシ

第五十四條 特許ヲ與ヘタルトキハ特許證ノ改訂又ハ明細書ノ削除ヲ許可シタルトキハ

特許ヲ取消シ又ハ無効トシタルトキ及其他特許ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ特許局長ハ官報並ニ特許公報ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ

(各書式略之)

第三節 意匠條例

明治二十一年十月十八日勅令 第八十五號

朕意匠條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

意匠條例

第一條 工業上ノ物品ニ應用スヘキ形狀模樣若シハ色彩ニ係ル新規ノ意匠ヲ按出シタ

ル者ハ此條例ニ依リ其意匠ノ登録ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得

第二條 左ニ掲クル意匠ハ登録ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一 風俗ヲ害スヘキモノ

二 登録出願以前公ニ知ラレ又ハ公ニ用ヒラレタルモノ

第三條 意匠ノ登録ヲ受ケント欲スル者ハ一意匠毎ニ明細書及圖面ヲ添ヘ農商務大臣

ニ出願スヘシ但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條 意匠ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局長審査官ヲシテ其意匠

ヲ審査セシメ登録ヲ許スヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ意匠原簿

ニ登録シ其登録證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

意匠條例



第五條 登録證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及圖面ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條 意匠専用ノ年限ハ三年五年七年及十年ノ四種ト爲シ原簿登録ノ日ヨリ起算ス  
第七條 意匠ノ専用ハ農商務大臣ノ定ムル物品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル物品ニ限ルモノトス

第八條 二人以上同一又ハ類似意匠ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登録ス其日附同キモノハ共ニ之ヲ登録セサルモノトス但出願人協議ノ上連名ニテ其登録ヲ出願スルトキ又ハ其出願ヲ取消ス者アリテ出願者一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條 意匠ノ登録ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條 他人ノ委託又ハ雇主ノ費用ヲ以テ按出シタル意匠ノ登録出願ノ權利ハ其委託者若シハ雇主ニ屬ス但別ニ契約アル場合ニ於テハ此限ニ在ラス

第十一條 登録ヲ受ケタル意匠ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條第十條ニ違ヒ登録ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登録ヲ無効トス

第十二條 意匠ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス  
第十三條 意匠専用權ハ制限ヲ附シ若シハ附セスレテ賣與讓與シ若シハ共有トナシ又ハ書入ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登録ヲ受クヘシ登録ヲ受ケサル契約ハ第三條ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第十四條 特許局ノ官吏ハ在職中意匠ノ登録ヲ出願シ又ハ意匠専用權ヲ新ニ有スルコトヲ得又但相續ニ由リ意匠専用權ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス

第十五條 登録意匠主其登録證ヲ毀損若シハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第十六條 登録意匠主其明細書若シハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登録ノ効力ヲ全クスル爲メ改定明細書若シハ圖面ヲ添ヘ登録證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其意匠ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第十七條 登録意匠主ハ其意匠ヲ應用シタル物品ニ農商務大臣ノ定メタル登録標記ヲ爲スヘシ

第十八條 意匠ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

一 意匠ノ登録ヲ出願スルトキ

一 意匠ニ付物品一類毎ニ 金五十錢

二 登録意匠ノ賣與讓與共有又ハ書入契約ノ登録ヲ請求スルトキ

一 意匠ニ付物品一類毎ニ 金三圓

三 登録證ノ再下付ヲ出願スルトキ

意匠條例



證書一枚毎ニ 金壹圓

四 登録證ノ改訂ヲ出願スルトキ

一意匠ニ付物品一類毎ニ 金貳圓

五 審判ヲ請求スルトキ

一事件毎ニ 金七圓

第十九條 意匠登録證又ハ其改訂登録證ヲ受クル者ハ意匠ヲ應用スル物品一類毎ニ左ノ區別ニ從ヒ登録料ヲ納ムヘシ

一 三年ノ専用 金壹圓

二 五年ノ専用 金貳圓

三 七年ノ専用 金四圓

四 十年ノ専用 金八圓

第二十條 登録意匠ニ關スル書類ノ原本若シハ圖面ノ調製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ

第二十一條 登録意匠ノ専用權ヲ侵シタル者ハ其意匠主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第二十二條 前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條 他人ノ登録意匠ナルコトヲ知り之ヲ同一物品ニ應用シテ之ヲ販賣シタル

(重) 十五以上  
六月以下  
(罰) 十以上  
百圓以下

者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

登録意匠主ノ權利ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知り之ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知り其物品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

詐欺ノ所爲ヲ以テ登録證ヲ受ケタル者又ハ登録ヲ受ケサル意匠ヲ應用シタル物品ニ登録標記若シハ類似ノ標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知り其物品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十四條 前條第一項第二項ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ沒收シテ登録意匠主ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徴シテ之ヲ給付ス

第二十五條 第二十三條第一項第二項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第二十六條 登録意匠主第十七條ノ登録標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告訴又ハ要價ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十九條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

意匠條例



第四節 意匠條例施行細則

明治二十二年一月 第四號

四日農商務省令 意匠條例施行細則ヲ定ムルコト別冊ノ如シ

別冊

意匠條例施行細則

第一條 意匠條例ニ依リ差出ス願書ハ第一號ヨリ第七號ニ至ル書式ニ從ヒ之ヲ認メ同條例第十八條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 明細書ニハ明細書文例ニ準シ左ノ諸件ヲ記載シ圖面ニ通テ添フヘシ

一 意匠ノ名稱

二 意匠ヲ應用スル物品ノ類別及名稱

三 意匠ノ詳細説明

四 專用權請求ノ區域

第三條 圖面ニハ製圖例ニ準シ意匠ヲ明了ナラシムルニ必要ナル部分ヲ示スヘシ

寫眞ヲ以テ意匠ヲ示スコトヲ得ルモノハ之ヲ圖面ニ代用スルコトヲ得

第四條 意匠登録願書ハ其意匠ヲ應用スヘキ物品類別一類毎ニ各別ニ差出スヘシ

第五條 意匠登録願書及明細書圖面ヲ受理シタルトキハ特許局長ハ出願人ニ領收證ヲ送付シ願書ノ日附ヨリ三十日ヲ經タル後願書日附ノ順ニ從ヒ審査官ヲシテ其審査ヲ

着手セシムヘシ

第六條 意匠條例第十六條ニ依リ意匠登録證ノ改訂ヲ願出ルトキハ其事由ヲ記載シタル願書ニ改訂明細書一通若クハ圖面二通ヲ添ヘ現意匠登録證並ニ附屬ノ明細書圖面ト共ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ此細則第十條及第十一條ノ手續ニ依リ改訂意匠登録證ヲ送付スヘシ

第七條 審査官ニ於テ願書明細書圖面等ニ不完全ノ廉アリト認メタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正書又ハ訂正圖面ヲ差出

サシムヘシ此期限内ニ差出サ、ルトキハ出願ヲ無効トス

第八條 出願人其出願中ニ係ル願書明細書圖面等ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ

意匠ニ變更ヲ生セサルモノニ限リ其訂正ヲ請求スルコトヲ得但査定書若クハ登録通知書ヲ發シタル後及審判中ニ係ルモノ、訂正ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノ

、外之ヲ許サス

第九條 再審査及審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例施行細則ヲ適用ス

第十條 意匠ノ登録ヲ許可スルトキハ特許局長ハ登録料納付用紙ヲ添ヘテ登録通知書

ヲ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ登録料納付用紙ニ意匠條例第十九條ノ登録料

ヲ納付スルコトヲ要ス

意匠條例施行細則

二百二十九



金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書ニ通圖面ニ通テ添へ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ此期限内ニ差出サハルトキハ出願ヲ無効トス

第十一條 出願人登録料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ其納付ノ日ヲ以テ意匠原簿ニ登録シ其旨ヲ出願人ニ通知シ十五日以内ニ意匠登録證ヲ送付スヘシ

第十二條 意匠登録證ハ第八號書式ニ依リ調製シ意匠原簿登録ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス

意匠條例第十五條又ハ第十六條ノ場合ニ於テ意匠登録證ヲ下付スルトキハ特許局長ハ其事由並ニ下付ノ年月日ヲ裏書シ之ニ署名スヘシ

第十三條 出願人他人ノ記名又ハ他人ト連名ニテ意匠登録證ヲ受ケント欲スルトキハ意匠原簿登録ノ日マテニ其旨ヲ申出ツヘシ

第十四條 意匠條例第十三條ニ依リ賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登録ヲ請求スルトキハ第九號及第十號書式ニ從ヒ請求書ヲ認メ同條例第十八條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ約定書ヲ添へテ差出スヘシ

前項ノ請求スルトキハ特許局長ハ其約定書ヲ契約原簿ニ登録シ約定書ニ登録濟ノ證印ヲ捺シテ之ヲ請求人ニ送付スヘシ

第十五條 登録意匠主ハ意匠條例第十七條ニ依リ其意匠ヲ應用シタル物品又ハ其上包等ニ登録意匠ノ四字意匠登録證ノ日附及專用ノ年限ヲ標記スヘシ

第十六條 意匠 專用權ヲ相續シタルトキ又ハ登録意匠主氏名ヲ變換シタルトキハ三十日以内ニ其旨ヲ届出ツヘシ

第十七條 意匠ノ登録又ハ意匠登録證ノ改訂ヲ許可シタルトキ又ハ意匠ノ特許ヲ無効トシタルトキ其他登録意匠ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ特許局長ハ官報並ニ特許公報ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ

第十八條 意匠條例第七條ノ物品類別ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一類 衣服

衣、裳、外套、襯衣、帶、領、領飾、領卷、肩掛等

第二類 頭飾、服飾、帽子

櫛、簪、根掛等○胸飾、腕環、指環、釦鈕等○各種ノ帽子

第三類 時計及其附屬品

杖時計、置時計、掛時計、鎖、下ケ物等

第四類 傘、杖及履物類

各種ノ傘、杖○下駄、草履、靴等

第五類 携帶品

烟具、履懷中物、手提等

第六類 家具

意匠條例施行細則



棚、簾、笥、机、椅子、卓子、寢臺等

第七類 敷物

段通、油圍、花莖其他各種ノ敷物

第八類 煖爐及其附屬品

火鉢、煖爐、烟草盆、炭取、石炭入、火箸等

第九類 點燈器

行燈、燭臺、手燭、燈籠、ランプ、瓦斯燈、電氣燈等

第十類 建築附屬品

障、戸、扉、柵、欄間、欄干等

第十一類 織物及他類ニ屬セサル織物製品

絹、綿、麻、毛等各種ノ織物○服紗、手巾、窓掛、卓被等

第十二類 他類ニ屬セサル編物、組物

レース、打紐、飾縁等

第十三類 他類ニ屬セサル漆器(假漆塗、油漆塗等モ之ニ屬ス)

飲食器、手箱、香合等

第十四類 他類ニ屬セサル陶器(煉化石、瓦等モ之ニ屬ス)

飲食器、花瓶、香爐等

第十五類 他類ニ屬セサル玻璃

飲食器、紋機玻璃等

第十六類 他類ニ屬セサル七寶

花瓶、香爐、手箱、香合等

第十七類 他類ニ屬セサル金屬製品

貴金屬、賤金屬及合金ノ各種製品

第十八類 他類ニ屬セサル石材製品

寶石其他石類ノ各種製品

第十九類 他類ニ屬セサル木、竹、牙、角類製品

盆、箱、花臺、籠籠、藤、柱、聯、茶托、箸、硯屏、墨臺、筆筒等

第二十類 紙及他類ニ屬セサル紙製品

紋紙、摺草紙、襖紙、壁紙、表紙、色紙、短冊、紙箋等○書簡筒、文匣、一閑張等

第二十一類 皮革及他類ニ屬セサル皮革製品

各種ノ紋革○文匣、馬具等

第二十二類 他類ニ屬セサル物品

第十九條 特許條例施行細則第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條

第四十九條及第五十條ハ此細則ニモ之ヲ適用ス

意匠條例施行細則



(各書式畧之)

第五節 商標條例

明治二十一年十月十八日勅令第八十六號

朕商標條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商標條例

第一條 自己ノ商品ヲ表彰スル爲メ商標ヲ使用セント欲スル者ハ此條例ニ依リ其商標ノ登録ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得

商標ハ特別著明ナル圖形字體又ハ其結合ヲ以テ要部ト爲スヘシ

第二條 左ニ掲グル商標ハ登録ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一 風俗ヲ害スヘキモノ

二 商品普通ノ名稱若クハ内外國ノ國旗章ノミチ以テ要部ト爲スモノ

三 他人ノ登録商標又ハ登録出願以前ヨリ他人ノ使用スル商標ト同一若クハ類似ニシテ同一商品ニ使用セントスルモノ

第三條 商標ノ登録ヲ受ケント欲スル者ハ一商標毎ニ明細書及見本ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及見本ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條 商標ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其商標ヲ審査セシメ登録ヲ許スヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ商標原簿ニ

登録シ其登録證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 登録證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及見本ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條 商標專用ノ年限ハ二十年ト爲シ原簿登録ノ日ヨリ起算ス

第七條 商標ノ専用ハ農商務大臣ノ定ムル商品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル商品ニ限ルモノトス

第八條 二人以上同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用セントシテ登録ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登録ス其日附同シキモノハ共ニ之ヲ登録セサルモノトス但其出願ヲ取消ス者アリテ出願者一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條 商標ノ登録ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條 登録ヲ受ケタル商標ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條ニ違ヒ登録ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登録ヲ無効トス

第十一條 商標ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十二條 登録商標主其營業ヲ賣與讓與シ又ハ他人ト其營業ヲ共ニスル場合ニ限リ其商標專用權ヲ賣與讓與シ若クハ共有トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登録ヲ受クヘシ登録ヲ受ケタル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

契約ノ登録ヲ受クヘシ登録ヲ受ケタル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス



第十三條 登録ヲ受ケタル商標ト雖モ左ノ場合ニ於テハ登録ノ効チ失フモノトス

一 登録商標主相當ノ事故ナシテ商標登録ノ日附ヨリ六箇月ヲ經テ其商標ヲ使用セザルトキ

二 登録商標主相當ノ事故ナシテ其商標ノ使用ヲ一箇年間中止シタルトキ

三 登録商標主其商標ヲ使用スル營業ヲ廢止シタルトキ

四 登録商標主其商標ヲ使用スル商品ノ數量産地品質等ニ關シ不實ノ事項ヲ附記シタルトキ

五 登録商標主磨滅若シハ缺損シタル商標ヲ使用シタルトキ

第十四條 登録商標主其専用年限満期ノ後其商標ヲ續用セント欲スル者ハ更ニ其登録ヲ出願スルコトヲ得

第十五條 登録商標主其登録證ヲ毀損若シハ亡シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第十六條 登録商標主其明細書若シハ見本ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登録ノ効力ヲ全クシスル爲メ改訂明細書若シハ見本ヲ添へ登録證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其商標ノ要部ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第十七條 商標ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

一 商標ニ付商品一類毎ニ 金壹圓

二 登録商標ノ賣與讓與又ハ共有契約ノ登録ヲ請求スルトキ 金三圓

一 商標ニ付商品一類毎ニ 金三圓

三 登録證ノ再下付ヲ出願スルトキ 金壹圓

證書一枚毎ニ 金壹圓

四 登録證ノ改訂ヲ出願スルトキ 金二圓

一 商標ニ付商品一類毎ニ 金二圓

五 審判ヲ請求スルトキ 金七圓

一 事件毎ニ 金七圓

第十八條 商標登録證又ハ其改訂登録證又ハ其續用登録證ヲ受ケル者ハ其商標ヲ使用スル物品一商毎ニ登録料金十圓ヲ納ムヘシ

第十九條 特許局ハ時々商標公報ヲ印刷シ衆庶ノ縦覽ニ供スヘシ其請求者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下シタルコトヲ得

第二十條 登録商標ニ關スル書類ノ謄本ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ

第二十一條 登録商標ノ專用權ヲ侵シタル者ハ其商標主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ



(五) 十元以上  
六 百 圓  
(四) 十 圓 以上  
百 圓 以下

第二十二條 前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條 他人ノ登録商標ナルコトヲ知リ之ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用シテ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其商品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

詐欺ノ所爲ヲ以テ登録證ヲ受ケタル者又ハ登録ヲ受ケサル商標ニ登録ノ文字ヲ記シタル者又ハ情ヲ知リ其商品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ違犯ノ商標ヲ沒收ス其商品ト分離スヘカラサルモノハ商品ヲ破毀セシム

第二十五條 第二十三條第一項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス  
前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第二十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十七條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十八條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

第六節 商標條例施行細則

明治二十二年一月 第三號  
四日農商務省令

商標條例施行細則ヲ定ムルコト別冊ノ如シ但明治十七年六月太政官第十三號布達商標登録願手續ハ明治二十二年二月一日ヨリ廢止ス

別冊

商標條例施行細則

第一條 商標條例ニ依リ差出ス願書ハ第一號ヨリ第五號ニ至ル書式ニ從ヒ之ヲ認メ同條例第十七條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 明細書ニハ明細書文例ニ準シ商標ノ見本一箇ヲ掲ケ左ノ諸件ヲ記載シテ別ニ商標ノ見本一箇ヲ添フヘシ

一 商標全部構造ノ詳細説明

二 商標ノ要部

三 商標ヲ使用スル商品ノ類別及名稱

四 商標使用ノ方法

第三條 商標登録願書ハ其商標ヲ使用スヘキ商品類別一類毎ニ各別ニ差出スヘシ

第四條 商標登録願書明細書及見本ヲ受理シタルトキハ特許局長ハ出願人ニ領收證ヲ送付シ願書ノ日附ヨリ三十日ヲ經タル後願書日附ノ順ニ從ヒ審査官ヲシテ其審査ニ着手セシムヘシ

第五條 商標條例第十六條ニ依リ商標登録證ノ改訂ヲ願出ルトキハ其事由ヲ記載シタル願書ニ改訂明細書一通若シハ見本二箇ヲ添ヘ現商標登録證並ニ附屬ノ明細書ト共

商標條例施行細則



ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ此細則第九條及第十條ノ手續ニ依リ改訂商標登録證ヲ送付スヘシ

第六條 審査官ニ於テ願書明細書見本等ニ不完全ノ處アリト認メタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正書又ハ訂正見本ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サ、ルトキハ出願ヲ無効トス

第七條 出願人其出願中ニ係ル願書明細書見本等ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ商標ノ要部ニ變更ヲ生セサルモノニ限リ其訂正ヲ請求スルコトヲ得但査定書若クハ登録通知書ヲ發シタル後及審判中ニ係ルモノ、訂正ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノ、外之ヲ許サス

第八條 再審査及審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例施行細則ヲ適用ス

第九條 商標ノ登録ヲ許可スルトキハ特許局長ハ登録料納付用紙ヲ添ヘテ登録通知書ヲ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ登録料納付用紙ニ商標條例第十八條ノ登録料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書一通見本一箇及商標ノ印版ヲ添ヘ通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ差出スヘシ此期限内ニ差出サ、ルトキハ出願ヲ無効トス

第十條 出願人登録料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ其納付ノ日ヲ以テ商標原簿ニ登録シ其旨ヲ出願人ニ通知シ十五日以内ニ商標登録證ヲ送付スヘシ

第十一條 商標登録證ハ第六號書式ニ依リ調製シ商標原簿登録ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス

商標條例第十五條又ハ第十六條ノ場合ニ於テ商標登録證ヲ下付スルトキハ特許局長ハ其事由並ニ下付ノ年月日ヲ裏書シ之ニ署名スヘシ

第十二條 商標條例第十二條ニ依リ賣與、讓與又ハ共有ノ登録ヲ請求スルトキハ第七號書式ニ從ヒ請求書ヲ認メ同條例第十七條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ約定書ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ請求アルトキハ特許局長ハ其約定書ヲ契約原簿ニ登録シ約定書ニ登録濟ノ證印ヲ捺シテ之ヲ請求人ニ送付スヘシ

第十三條 商標專用權ヲ相續シタルトキ又ハ登録商標主氏名ヲ變換シ若シハ其商標ノ使用ヲ廢止シタルトキハ三十日以内ニ其旨ヲ届出ツヘシ

第十四條 商標ノ登録又ハ商標登録證ノ改訂ヲ許可シタルトキ又ハ商標ノ登録ヲ無効トシタルトキ其他登録商標ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ特許局長ハ官報並ニ商標公報ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ

第十五條 特許局ニ差出シタル商標ノ印版不用ニ屬シタルトキハ特許局長ハ其請取方ヲ差出人ニ通知スヘシ差出人其通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ請取方ヲ爲サ、ルト



キハ特許局長ニ於テ適宜處分スヘキモノトス

第十六條 商標條例第七條ノ商品類別ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一類 化學品及藥劑

酸類、鹽類、アルカリ、漂白粉、護膜、膠、燐、石鹼、酒精、グリセリン、キナエン、モルヒネ、丁  
幾劑、舍利別、煎劑、丸藥、膏藥、藥油、麝香、丁子、食鹽、石灰、艾等

第二類 染料及顏料

藍玉、藍靛、紫根、紅、朱、丹、綠青、燒青、洋靛、白粉、胡粉、藤黃等

第三類 塗料

漆、假漆、油漆、瀝、靴墨等

第四類 香料及燻料

香油、髮膏、香袋、香水、炷香、線香、煉香等

第五類 金屬及其半加工品

銑鐵、鍛鐵、鋼鐵、條鐵、鐵葉、鐵板、鐵線、銅、銅板、銅線、鉛、鉛板、亞鉛、亞鉛板、錫、合金等

第六類 金屬ノ製品

鑄物、打物、彫鏤品及編物等

第七類 利器及尖刃器

鋏、鑷、鑿、錐、針、釘、剪刀、小刀、剃刀、庖丁、鷹嘴等

第八類 貴金屬及其製品(アルミニウム、金、ニッケル、銀ノ製品モ之ニ屬ス)

黃金、銀、四分一、紫銅其他貴金屬ノ合金、鍍品、彫鏤品、モール等

第九類 珠玉及其彫鏤品

珊瑚珠、真珠、瑪瑙、水晶、黃玉、碧玉等及其模造品

第十類 礦物類(但石炭ハ第五十一類ニ屬ス)

第十一類 石材及其製品並彫鏤品

版石、大理石、砥石、石器等及其模造品

第十二類 漆喰類

漆喰、セメント、石膏等

第十三類 陶磁器類

諸種ノ陶磁器、土器、埴埴、瓦、煉化石等

第十四類 七寶燒

第十五類 玻璃及其製品

玻璃壺、玻璃管、彩色玻璃等

第十六類 機械類

紡績機、裁縫機、製糖機、印刷機其他諸製造機械、瀧機、汽罐等

第十七類 農工器具

農工器具



犁、鋤、鍬、唐箕、耙、釘板、鐵槌、繩墨等

第十八類 學術上ノ器械

理化學、醫術及測量等ノ器械

第十九類 度量權衡

第二十類 運送用ノ車類

荷車、馬車、人力車、自轉車等

第二十一類 樂器

琴、三味線、胡弓、笛等

第二十二類 時計及其附屬品

第二十三類 銃砲、彈丸、火藥、烟火等

第二十四類 蠶種紙、繭

第二十五類 真綿及木棉綿

第二十六類 生絲、絹絲及天蠶絲（琴絲、金絲、銀絲モ之ニ屬ス）

第二十七類 綿絲

第二十八類 毛絲

第二十九類 麻絲

第三十類 絹織物

第三十一類 木綿織物

第三十二類 毛織物

第三十三類 麻織物

第三十四類 絹、綿、麻、毛外ノ織物及各種ノ交織物

第三十五類 絲類ノ編物及組物

レース、打紐、網等

第三十六類 被服

諸種ノ衣服、織物製帽子、手套、足袋、織物製雨衣、袴、目利安等

第三十七類 釀造物及飲料

諸種ノ酒、酢、醬油、蜜柑水、曹達水、氷等

第三十八類 砂糖類

諸種ノ砂糖、糖蜜、蜂蜜等

第三十九類 菓子及麵包類

干菓子、蒸菓子、掛ケ物、西洋菓子、餡、砂糖漬等

第四十類 茶及珈琲類

第四十一類 烟草類

第四十二類 穀菜、種子及菓物類

商標條例施行細則



五穀、蔬菜、草、菓實、種子、根球、麴種モヤシ等

第四十三類 挽粉、澱粉及其製品

諸種ノ挽粉、澱粉、麪類、湯波、蒟蒻、凍豆腐、凍蒟蒻等

第四十四類 味噌、膏物及漬物類

第四十五類 貯藏食品

鯉節、鰻、乾鮑、海苔、昆布、佃煮、罐詰、雲丹、諸種ノ鹹製品等

第四十六類 牛乳製品

凝乳、乳油、乳餅、乳粉等

第四十七類 烟具及袋物

諸種ノ烟管、烟袋、烟管筒、懷中物等

第四十八類 紙及其製品

諸種ノ紙、色紙、短冊、摺草紙、壁紙、油紙、滌紙、書簡筒、張文匣、一閑張、元結等

第四十九類 筆、墨類

筆、墨、朱墨、印肉、墨汁、石筆、鉛筆、ペン等

第五十類 皮革及其製品

馬具、革包、文匣、革帶、靴、唐弓、弦等

第五十一類 燃料類

諸種ノ炭、附木、摺附木、燈心等

第五十二類 油、蠟類

諸種ノ油、蠟、蠟燭、脂肪等

第五十三類 肥料

干籩、鮮粕、油粕、骨粉等

第五十四類 木竹材

第五十五類 木、竹、籐製品及其漆塗、蒔繪品類

指物、挽物、曲物、桶類、編物、組物等

第五十六類 角、甲、牙類ノ製品

第五十七類 藁及草ノ製品

藁表、藁、編笠、繩、麥藁細工等

第五十八類 傘、杖及履物

諸種ノ傘、杖、下駄、草履、鼻緒等

第五十九類 扇子及團扇

第六十類 提燈及ランプ類

第六十一類 齒磨及洗粉

第六十二類 刷子及鬃類

商標條例施行細則



第六十三類 玩具類

花管、鞠、碁、將、棋、人形、獨樂、揚弓、押繪、造花、骨牌等

第六十四類 繡繪及寫真類

第六十五類 書籍新聞紙雜誌類

第六十六類 他類ニ屬セサル商品

第十七條 特許條例施行細則第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條及第五十條ハ此細則ニモ之ヲ適用ス

(各書式畧之)

第七節 賣藥規則

明治十年一月第七號

賣藥規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事

別冊

賣藥規則

第一章

第一條 (本條明治十年第八十九號布告ヲ以テ如左改正)

此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥、膏藥、煉藥、水藥、浴劑散藥、煎藥等ヲ調製シ效能書ヲ附シ販賣スルヲ云フ

第二條 (本條明治十一年第二十七號布告ヲ以テ如左改正)

此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量功能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

(明治十五年第五十二號布告ヲ以テ本書ニ但書ヲ追加シ十六年一月一日ヨリ施行ス)

但免許ヲ受ケタル者ニテ於テ之ヲ調製スル時ハ其箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條 (明治十一年第二十七號布告ヲ以テ本條如左改正)

管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ラス取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サハルヘシ

第四條 第八條ニ記シタル期限中藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スル者其由ヲ届出舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第五條 (本條明治十年第八十九號布告ヲ以テ如左改正)

賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タル者ハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持ノ免許鑑札寫及ヒ營業者ト取結ヒタル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ヘ願出免許鑑札ヲ受

(明治十一年第二十七號布告ヲ以テ受ノ下ニケ管轄廳ハ之ヲ内務省ヘ届出ヘシトアリ十三字ヲ削除シ受ノ下クニ一字ヲ加フ)クヘシ

第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシ

第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメ



ノト欲スルキハ其由ヲ管轄廳へ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持ス可シ

第八條 營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過キ尙免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘ

第九條 第八條ニ記シタル期限中第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スル時ハ新鑑札記載ノ月ヲ以テ一期ノ初月ト爲スヘ

第十條 (明治十一年第二十七號布告ヲ以テ本條中有毒トアリシヲ有害ト改ム)

免許期限内ト雖モ其製藥第三條ニ掲ケル處ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノコアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコアルヘシ

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラル、時ハ其請賣者及賣子共其販賣ヲ許サス第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳へ届ケ出再ヒ之ヲ願受クヘ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ双方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第十四條 (本條明治十年第八十九號布告ヲ以テ如左改正) 賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄

廳へ鑑札名前書換ヲ請フヘシ

第十五條 賣藥營業者廢業シ若クハ禁止セラレタルキハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納ス可シ

第二章

第十六條

(明治十四年第六號布告ヲ以テ本條賣藥營業者ノ下「及請賣者」ノ五字並ニ賣藥請賣鑑札料賣藥行商鑑札料ノ二項ヲ删除ス)

賣藥營業者ハ左ノ通税金並ニ鑑札料ヲ上納ス可シ

賣藥營業稅 藥劑一方ニ付一ヶ年 金二圓

右鑑札料 藥劑一方ニ付一枚 金二十錢

(明治十五年第五十二號布告ヲ以テ本條ニ左ノ但書ヲ追加シ明治十六年一月一日ヨリ施行ス)

但シ第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其個所毎ニ本文ノ税金並鑑札料ヲ納ムヘシ

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受クル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ七月三十一日限リ後半年分ハ翌年一月三十一日限リ鑑札料ハ其都度並ニ管轄廳ニ上納ス可シ

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ



但第十條ノ有害(明治十一年第二十七號布告ヲ以テ本書中有毒ヲ有害ト改ム)品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限り月割ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ

第三章

(罰) 五圓

(罰) 十圓

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

(罰) 十圓以上十五圓以下

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過キタル鑑札ヲ以テ請賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付十圓ノ罰金ヲ科スヘシ

(罰) 二十圓以上五十圓以下

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄説ヲ記載シ世人ヲ術惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付十圓以上廿五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

(罰) 百圓以上五百圓以下

第二十三條 無鑑札ニテ營業スルモノ(又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者)ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付二十五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ(括弧内ノ三十八字十四年(二十六號布告)ヲ以テ追加)

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贗造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付五十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其實トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

第八節 藥用阿片賣買並製造規則  
明治十一年八月第二十一號  
明治三年八月布告生阿片取扱規則ヲ廢シ藥用阿片賣買並製造規則左ノ通相定候條此布告候事

但施行ノ時日ハ追テ内務省ヨリ可相達事

第一條 藥用阿片賣買並製造規則  
阿片ノ賣買及ヒ製造ハ藥用品ニ限リ此規則ニ依テ之ヲ許可ス

第二條 (本條明治二十年勅令第五十二號ヲ以テ如左改正)  
藥用阿片ハ内國產若クハ外國產ヲ論セス總テ内務省ニ於テ其品位ヲ定メテ之ヲ買上ケ地方廳ヲシテ阿片卸賣特許藥舖ニ之ヲ拂下ケシムヘシ

第三條 (全上勅令ヲ以テ如左改正)  
地方廳ヨリ拂下シル阿片ハ量目一匁ヲ以テ一器トシ每器衛生試驗所ノ印紙ヲ貼附スルモノトス

藥用阿片賣買並製造規則



第四條 地方廳ハ土地ノ廣狹位置ヲ度リ一管内相當ノ人員ヲ限リ藥舖ノ身元人物ヲ選  
ミテ内務省ニ稟議シ鑑札ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交附スヘシ

但廢業ノ者アル節ハ其鑑札ヲ内務省ニ返納スヘシ

第五條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ノ住所姓名ハ該管轄廳ヨリ管内ノ公私病院醫師藥舖一  
般ニ報告スヘシ

但廢業ノ者アル節モ本文ニ準シ速ニ報告スヘシ

第六條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ハ其店頭ニ特許藥用阿片賣捌所ト大書シタル看板ヲ掲  
ク置ヘシ

第七條 (本條明治二十年勅令第五  
十二號ヲ以テ如左改正)

特許ヲ受タル藥舖ハ半年分賣捌ノ高ヲ豫算シ毎年兩度該地方廳ニ申立其拂下ケテ請  
フヘシ但缺乏ノ節ハ臨時拂下ケテ請フコトヲ得

第八條 凡ソ醫師病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要スルキハ其量目並ニ其住所  
姓名及年月日病院ハ其名稱及ヒ院  
長若クハ副長ノ姓名ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ特許藥舖ニ就キ之ヲ購求  
スヘシ特許藥舖ニ於テハ之ヲ買渡ニ其量目一度ニ四十匁ヲ超ヘカラス

但病院及醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就キ之ヲ購求スルト一般藥舖相互ニ  
賣買スルコトハ妨ケスト雖モ必ス本條ノ證書ヲ以テスヘシ且其量目一度ニ八匁ヲ超  
ヘカラス

第九條 凡テ内外國人共醫師ノ處方箋ヲ持參シタル者ノ外ハ特許藥舖並ニ一般藥舖ニ  
於テ一切之ヲ賣渡スヘカラス

第十條 特許藥舖ハ每半年分阿片拂受並ニ一匁以上賣捌ノ高及ヒ買入ノ住所姓名並ニ  
一匁以下賣捌ノ總高等明細表正副二通ヲ作り其管轄廳ニ差出スヘシ尤一匁以下ノ分  
ハ平常其明細簿ヲ記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

但管轄廳ハ其一通ヲ内務省ニ進達スヘシ

第十一條 醫師病院一般藥舖ニ於テハ每半年必シモ前條明細表ヲ差出スト要セスト雖  
モ平常其明細簿ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

第十二條 藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ罌粟ノ種類及ヒ培養採收製造ノ方法ヲ記  
シ管轄廳ヲ經由シテ内務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十三條 阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署名調印シタル願書ヲ以テ地  
方廳ヲ經由シ内務省ノ買上ケテ願フヘシ右買上ケテ受クルノ外決シテ内外人民ニ販  
賣スルコトヲ許サズ

(本條但書明治二十年勅令第  
五十二號ヲ以テ如左改正)

但内務省ニ於テ其品位藥用ニ適セサルモノトスルトキハ地方廳ヨリ其旨ヲ製造人  
ハ通知シ其阿片ハ其處ニ預リ置クヘシ

第十四條 阿片買上ケ及ヒ拂下ノ代價ハ歲ノ豊凶及ヒ内外一般ノ相場等ニ因テ高低ア

藥用阿片賣買並製造規則



ルヘト雖モ其品位ニ應シテ價格ヲ定ムル該藥主用ノ性分即チ「モルヒネ」ノ多少ニ  
因ルヘシ

第十五條 (本條明治二十年勅令第五十二號ヲ以テ如左  
改正シ明治廿一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス)

内務省ニ於テ買上ケ及拂下クル阿片ノ「モルヒネ」含量ハ買上ケ品ハ百分中ニ九分以  
上拂下ケ品ハ百分中ニ十分以上ヲ含有スルモノトス

第十六條 此規則ニ違反スル者ハ其犯情ニ從ヒ阿片賣買者シハ製造ヲ禁シ其所有ノ阿  
片ヲ沒收シ百五十圓ヨリ五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第九節 藥品營業並藥品取扱規則

明治二十二年三月  
月十五日法律 第十號

朕藥品營業並藥品取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

藥品營業並藥品取扱規則

第一章 藥劑師

第一條 藥劑師トハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル者ヲ云フ

藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得

第二條 藥劑師ハ其學術試驗ヲ受テ年齡滿二十年以上ニシテ内務大臣ヨリ藥劑師免狀  
ヲ得タル者ニ限ル

第三條 藥劑師免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ内務省ニ關

出ヘシ

第四條 藥劑師免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ

第五條 藥劑師免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ藥劑師名簿ニ登錄シ之ヲ公告ス  
ヘシ

第六條 藥劑師免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ヲ變換スル等免狀面ニ異動ヲ生シタル  
トキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シ免狀書換ヲ内務省ニ願出ヘシ

第七條 書換ノ免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金一圓ヲ納ムヘシ

第八條 藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第九條 藥劑師ニ非サレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス

第十條 藥劑師藥局ヲ開設シ又ハ閉鎖シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第十一條 藥劑師一人ニシテ二箇所以上ノ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但支局ヲ設クル  
トキハ別ニ藥劑師ヲ置キ之ヲ管理セシムヘシ

第十二條 藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ

第十三條 藥局ニ備付ノ秤量器ハ最モ精確ナルヲ要シ權衡ハ少クモ一「サンチグラム」  
ヲ定量シ得ルモノヲ備フヘシ

第十四條 藥劑師ハ患者ノ氏名、年齡、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日及醫師ノ氏名  
ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但處方箋中疑ハシキ廉ア



ルトキハ其醫師ニ質シ證明書ヲ得ルニ非サレハ調劑スルコトヲ得ス

藥劑師ハ調劑録ヲ備ヘ處方箋ヲ謄寫シ置シヘシ

第十五條 處方箋ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ問ハス何時ニテモ調劑スヘキモノトス正當ノ事故ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十六條 處方箋中ノ藥品ニ缺乏アルトキハ其醫師ニ通知シテ指揮ヲ乞フヘシ藥劑師隨意ニ之ヲ省略シ又ハ他藥ヲ代用スルコトヲ得ス

第十七條 毒藥劇藥ノ處方箋ハ藥劑師捺印シテ處方箋ノ日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第十八條 毒藥劇藥ハ一回使用セシ處方箋ニ據リ再ヒ調劑スルコトヲ得ス但特ニ醫師ノ通知アルモノハ此限ニアラズ

第十九條 患者ニ與フル藥劑ノ容器又ハ包紙ニハ處方箋ニ據リ内外用ノ別、用法、用量、年月日、患者ノ氏名、藥局ノ地名及藥劑師ノ氏名ヲ記スヘシ

第二章 藥種商

第二十條 藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ

第二十一條 藥種商ハ地方廳ノ免許證札ヲ受クヘシ

第二十二條 毒藥劇藥ハ衛生試驗所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第三章 製藥者

第二十三條 製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ

第二十四條 製藥者ハ地方廳ノ免許證札ヲ受クヘシ

第二十五條 毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第四章 藥品取扱

第二十六條 日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性状、品質、該局方ノ所定ニ適合スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十七條 日本藥局方ニ記載セサル藥品ハ其據ル所ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其性状、品質、該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス何レノ藥局方ニモ記載セサル新規ノ藥品ハ衛生試驗所ノ検査ヲ經其試驗成績ヲ記スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十八條 藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從フヘシ

第二十九條 毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

第三十條 毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名、量數、使用ノ目的、年月日及住所、氏名、職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス



前項ノ證書ハ其日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第三十一條 毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼稚ノ者其他不安心ト認ムル者ニハ交付スヘカラス

第三十二條 毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏名ヲ記シ毒藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ付記スヘシ

第三十三條 藥劑師コ於テ醫師ノ處方箋ニ據リ患者ニ與フル藥劑ハ第三十條及第三十二條ノ手續ヲ爲スヲ要セズ

第三十四條 藥劑師藥種商製藥者ノ間コ於テハ第三十條及第三十二條ニ記載セタル手續ヲ要セス其藥劑師藥種商製藥者タルノ證明書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ賣買スルコトヲ得

第三十五條 毒藥劇藥ノ品目ハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ其藥名ヲ記スヘシ但羅句語又ハ他ノ外國語ト併記スルハ妨ケン

第三十七條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造者ノ住所氏名ヲ記スヘシ其外國製ニ係ルモノハ引取人ノ住所氏名ヲ記スヘシ但藥品製造會社ニ在テハ其所在地名及會社名ヲ記スルモ妨ケン

第三十八條 内務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムルコトアルヘシ

監視員ハ巡視ノ際其證書ヲ携帯スヘシ

第五章 罰則

(罰) 二百以上  
二百以下

第三十九條 官許ヲ得シテ劑藥師ノ業ヲ爲シタル者又ハ第十六條第十八條第二十二條第二十五條第二十六條第二十七條第三十條第一項ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

(罰) 二百以上  
二十以下

第四十條 第十一條第十四條第一項第十七條第十九條第二十九條第三十條第二項第三十一條第三十二條違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

(料) 二百以上  
五十以下

第四十一條 第六條第八條第十條第十二條第十三條第十四條第二項第十五條第二十一條第二十四條第二十八條第三十六條第三十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス

第四十二條 内務大臣ハ此規則實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ但藥種商製藥者取締ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

附則  
第四十三條 醫師ハ自ラ診療スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十八條ノ監視ヲ受シヘシ  
醫師ハ第三十四條ニ從ヒ醫師タルノ證明書ヲ以テ藥劑師藥種商製藥者ヨリ毒藥劇藥



ヲ買取コトヲ得

第四十四條 此規則施行以前ニ於テ内務省ヨリ藥舖開業免狀ヲ受ケタル者ハ藥劑師タルノ効チ有ス

第四十五條 阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年ハ第二十一號布告ニ據ル

第四十六條 醫科大學藥學科ノ卒業證書ヲ有シ年齡滿二十年以上ノ者ハ其證書ヲ以テ

此規則第三條ニ據リ藥劑師免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ内務大臣ハ

試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四十七條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

第四十八條 明治十三年ハ第一號布告藥品取扱規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十節 毒藥劇藥品目

明治二十二年三月第五號

二十七日內務省令

明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第三十五條ニ據リ毒藥劇藥ノ品目左ノ通之ヲ定メ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

毒藥

燐

青酸、稀青酸、青酸加里

亞砒酸(白砒石、礬石)、亞砒酸加倍濃液(法列兒氏水)

沃度化砒素、沃度砒素液(氏納般氏液)、砒化砒素(冠、雌、雄)

黃色酸化汞(黃降)、赤色酸化汞(赤降)、昇汞(猛汞、ソウジビ)、白降汞、硝酸汞、赤色沃度化汞

猛毒アルカロイド及其鹽類

アコナチ子、亞刺莫兒比涅、亞篤魯必涅、ブルチー子、コニー子、エメチーネ、比蘇斯知

掘密涅(エネリ)、非沃斯矢亞密涅、莫兒比涅、ナルコチー子、ニコチー子、必魯加兒必涅、

斯篤里幾尼涅、勃拉篤拉涅等

實斐答利涅

シコール(矢毒)

加刺拔兒豆越幾斯篤拉屈篤

揮發苦扁桃油

巴豆油

劇藥

硫酸、粗製硫酸、發烟硫酸

硝酸、粗製硝酸、發烟硝酸

鹽酸、粗製鹽酸

硝酸鹽(全水)

石炭酸、粗製石炭酸

毒藥劇藥品目



格羅謨酸及其鹽類

苛性加里及其滷液

苛性曹達及其滷液

彌安母尼亞水

沃度、沃度丁幾丟兒、沃度仿謨、沃度化加留謨、含糖沃度化鐵、沃度化鐵丸

貌羅謨(臭素)、貌羅謨化樟腦

格魯兒化拔留謨、硝酸拔留謨

接酸攝留謨、硝酸攝留謨

吐酒石及其製劑、酸化安知母紐謨、硫化安知母紐謨(金硫)

醋酸亞鉛、炭酸亞鉛、格魯兒化亞鉛、酸化亞鉛(亞鉛)、硫酸亞鉛(鉛)、樟草酸亞鉛、醋酸鉛(鉛)

糖)次醋酸鉛液(鉛醋)、炭酸鉛、酸化鉛

醋酸銅、銅礬(神効)、硝酸銅、硫酸銅、安母紐謨(銅礬)、硫酸銅(丹礬)

甘汞、輕粉、黃色沃度化汞、硫酸汞、汞灰散、藍丸

硝酸銀、硝酸銀加硝石

亞硝酸亞密爾

噶囉仿謨及其製劑、附コロダイン

抱水格魯利爾

知母爾

結麗阿曹篤

古埤乙涅

咖啡涅

古加乙涅

珊瑚寧及其製劑

剝度比爾林

苦扁桃水、杏仁水、老利兒結兒斯水、ハンチ水

羯答利斯、斑猫、芫菁及其製劑

麥角及其製劑

印度大麻葉及其製劑

實斐答利斯葉及其製劑

別刺敦那葉、根及其製劑

萇蓉葉、根及其製劑

非沃斯矢亞謨斯葉、子及其製劑

蔓陀羅華葉、子及其製劑

耶僕蘭日葉

毒藥劇藥品目



魯別利亞葉及其製劑  
 サヒナ葉及其製劑  
 古魯聖篤實及其製劑  
 ココユーム草及其製劑  
 刺苦丟葛御謨及其製劑  
 偏答百兒加液  
 サヒナ油  
 揮發芥子油  
 阿片及其製劑  
 アコニツト根(雙關菊、烏頭)及其製劑  
 藜蘆根  
 吐根及其製劑附托物兒氏散  
 蒟刺巴根  
 蒟刺巴脂及其製劑  
 古爾矢屈謨子根及其製劑  
 サハヨルヲ子  
 番木籠子及其製劑

巴豆

加刺拔兒豆

藤黃

日本產大茴香

第十一節 日本坑法

明治六年七月第二十五十九號  
二十日布告

今般鐵山其他諸坑業ノ規則別冊ノ通改定候ニ付テハ凡坑物ニ關係ノ事件ハ工部省ニ於テ總管セシメ候條自今金屬其外諸坑物營業ノ儀都テ同省ニ可申立候此旨布告候事

別冊

日本坑法

第一章 坑物

第一 正理ヲ以テ論スルトキハ凡ソ無機物タル者ハ生活ノ機ナキ諸物品都テ坑業ノ部分ニ屬ス此ノ無機物品質ニ類ニ分ル即第一類ハ有鐵質第二類ハ無鐵質タリ凡ソ諸金屬ノ天然本質ヲ以テ出ル者或ハ他ノ物質ト化合シテ出ル者ハ右第一類ニ屬ス燃質物山鹽燐酸石炭美石及ヒ玉環ノ類ハ右第二類ニ屬ス本條舉ル所ノ有鐵質無鐵質トモ總テ是テ坑物ト稱ス坑山坑業坑區坑產等皆之ニ倣ヘ

第二 前ニ掲記セシ物類凡ソ日本國中ニ於テ發見スル者ハ都テ日本政府ノ所有ニシテ獨リ政府ノミ之ヲ採用スル分義アリ

日本坑法



第三 築石土砂粘土其他建築耕作ノ所有ノ諸物品ハ都テ地主タル者ノ所有ト爲スヘシ  
第四 日本ノ民籍タル者ニ非レハ試堀ヲ作シ坑區ヲ借り坑物ヲ採製スル事業ノ本主或ハ組合人トナルヲ得ス坑産ノ割合及ヒ損益ニ關係スル所ノモノハ都テ組合トス 若シ之ヲ犯ス者ハ其業ニ属スル所有物ヲ官ニ没入シテ其業ヲ禁止スヘシ

第二章 試堀

第五 試堀ヲ作サント欲スル者ハ鑛山寮ニ願出許可ヲ得テ之レヲ行フヘシ  
試堀ヲ行フ爲ニ必要ノ地面他人ニ属セハ其償金ヲ對談處分ス可シ  
地主ニシテ自ラ試堀ヲ企ツル者ハ衆ニ超テ許可ヲ得ヘキ分義アリトス然レモ自ラ試堀ノ資本無クシテ他人ノ舉ヲ拒ミ或ハ不當ノ償金ヲ貪ラハ鑛山寮或ハ地方官ニテ正價ヲ裁決シテ其地ヲ買上クヘシ

第六 試堀コテ坑物發見スルキハ直チニ見本ヲ添テ鑛山寮ニ届出ツヘシ且ツ試堀中ハ一月七月兩度毎ニ前六ヶ月間ノ行業日數及ヒ工數并ニ産鑛量ヲ開報スヘシ  
凡ソ産鑛ハ借區券ヲ第十款得ル後ニアラサレハ恣ニ賣却スルヲ得ス若シ之ニ背カハ其全價ヲ沒收スヘシ

第七 試堀ハ都テ一年間ヲ以テ期限トス若シ延期ヲ願出ルニ實ニ未タ開坑ヲ決スルヲ得サル事理判然タラハ之レヲ許可スルコトアルヘシ  
第八 試堀人廢業スルキハ第二十七款廢坑則ノ如クスヘシ

此時ニ産鑛ハ鑛山寮ノ許可ヲ得テ賣却シ第三十一款ノ坑物税ヲ納ムヘシ  
試堀人損失ニ因テ廢業スル事實判然タルニ於テハ坑物税ヲ免スルコトアルヘシ

第三章 借區開坑

第九 (明治十五年第三十八號布告ヲ以テ本條ヘ但書ヲ追加ス)  
開坑スル者ハ先ツ坑區ヲ得ヘシ坑區ノ廣狹ハ其適實ナル起業ノ目途ニ應シテ之レヲ得セシムヘシ

但石炭坑ノ借區ハ壹萬坪以上ニ限ルヘシ  
有鑛質坑ヲ開ク者ハ必ス製鑛ノ業ヲ兼ヌヘシ  
凡ソ借區開坑ハ鑛山寮ニ願出ツヘシ此願書ニ其得ント欲スル坑區ノ測量圖ヲ添ヘテ出ス可シ試堀ヲ經テ借區願出ル者ハ其坑區中別ニ地主アリト雖モ之ヲ拒ムヲ得ス尤モ其處分ハ借區券ヲ得ルノ後廿二款ノ如クナルヘシ

第十 願出ノ借區ハ鑛山寮官員之ヲ驗測シ標石ヲ植テ境界ヲ識別スヘシ  
巡回官員歸報ノ後許可スヘキハ工部全權ノ証印ヲ以テ借區券ヲ附與スヘシ

第十一 凡ソ借區ハ通常十五年間ヲ以テ定期トス之ヲ終ルニ至テ繼年期ハ新ニ願出スヘシ

第四章 通洞

第十二 通洞ハ坑道ハ縱横ニ小坑ヲ穿ツテ通常トス別ニ探鑛疎水運輸等ノ爲メ地底ヲ横截シ一道ノ大坑ヲ穿ツアリ之ヲ通洞ト云フ 我カ借區中ニアラスト雖



モ之ヲ企ツルヲ得ヘシ此時ハ願書ニ目論見明細圖ヲ添ヘテ鑛山寮へ出スヘシ若シ其通洞他人ノ借區ニ亘涉スヘキハ豫メ其借區人ニモ報知スヘシ

通洞ハ高九尺幅六尺ヨリ減スヘカラス是ヨリ小ナルハ通洞トセス

第十三 願出ノ通洞ハ鑛山寮官員實地踏歸報ノ後ヲ許可スヘキハ工部全權ノ證印ヲ以テ免狀ヲ附與スヘシ免狀ヲ得ルノ後ヲ若シ目論見圖ニ違ヒ方向ヲ轉シ或ハ距離ヲ延縮セント欲セハ更ニ鑛山寮へ願出許可ヲ得テ之ヲ行フヘシ

第十四 借區人何レモ自ラ通洞ヲ開クベキ資本有ニアラサレハ我區中タリト雖モ他人ノ舉テ拒ムヘカラス

通洞保全ノ爲メコ其周圍ノ土石ヲ外ヨリ厚サ一間半以内ニ掘入ルヘカラス然レモ其跡ニ自己ノ入費ヲ以テ支柱ヲ構造シ崩潰ノ患ナカラシムル者ハ此限ニ在ラス

一旦土石ヲ掘出ス時ノ如キ是レ也

第十五 通洞ニ因テ諸借區人便利ヲ得ルコトアラハ通洞發起人ニ其謝金ヲ出スヘシ若シ之ニ就テ對談穩當ナラスハ鑛山寮ヨリ處斷スヘシ

通洞ヲ開ク者ハ借區人未定ノ所ニ於テハ通洞ノ周圍内ヨリ出ルタケノ坑石ヲ取ルコトヲ得ヘシ他人ノ借區中ニ於テハ此坑石ノ一半ヲ借區人ニ歸スヘシ

### 第五章 坑業

第十六 都テ坑業ニ付テハ坑物ヲ坑中支柱ノ爲ニ存スヘキ所ノ外ハ成ル丈ケ坑利ヲ遺

スコナク取出スヘシ此法ヲ犯シ其他都テ坑ノ利用ヲ害スルモノハ其輕重ニ隨テ罰金ヲ徵ス可シ

第十七 試堀開坑或ハ通洞等ヲ企ルニハ舍屋鐵道河流及ヒ道路ノ如キ其害ヲ受ヘキ場所ハ度ヲ計テ之ヲ避ケ殊ニ城堡ハ七十間以内ノ地ヲ避ケヘシ

凡ソ塲所ノ主タル者應諾スルニ非スシテ此ヲ犯ス者有アレハ城堡ハ其律ニ任シ餘ハ其損害ヲ償復スル一倍ノ費額ヲ取テ本費ハ其主ニ附與スヘシ

第十八 凡ソ初發許可ヲ得シ坑物ノ外ニ別種ノ坑物ヲ見出ス者ハ速ニ鑛山寮ニ報知スヘシ之ヲ背ク者ハ其坑物又ハ代價ヲ取揚ケヘシ

第十九 開坑人ハ歲々一月七月兩度毎コ前六ヶ月間ニ產出セシ坑物量其賣出高並ニ代價及ヒ行業日數工數ヲ具記シテ鑛山寮ニ報知スヘシ

(前) 五十四

有鑛質ハ坑產量並製出量且製出セシ混濁物二種以上ノ金屬ヲ含有スルハ其試驗ノ割合ヲモ具記シテ賣出高以下都テ前ノ如クスヘシ右數量不正或ハ開報違期ノ罰ハ金五十圓トス若シ賣出シ高並代價ヲ減書スルモノハ其減書セシ高ノ三倍ヲ徵收スヘシ

第二十 通例開坑又ハ廢鑛ヲ採製スルニモ一年間ノ事業ハ地面五百坪ノ下ニ就テ壯健ナル工夫三百日ヲ以テ成セル程ノ工數ヨリ減ス可カラズ若シ之ニ背ク者實ニ百方免レ難ク妨碍判然タルニアラスンハ其業ヲ禁止スヘシ



第二十一 坑業人ハ互ニ隣坑ノ風通シヲ便利ニスヘシ且ツ甲區ヨリ乙區ノ地中ニ水道ヲ通シ地上ニ要路ヲ通センコトヲ求ムルニ於テハ不當ノ償金ヲ貪ル可カラズ若シ相對ヲ以テ決セスンハ鑛山寮ヨリ處斷スヘシ

右堀通シニ付テ出ル鑛石ハ其所ノ借區人ニ屬スヘシ

第二十二 凡ソ借區人ハ區上ニ於テ藏庫詰所作事場洗鑛所鑛鑛所通路等其他鑛業ニ必要ナル地面ハ地主タル者ニ豫メ償金ヲ辨スヘシ若シ異論決セスンハ鑛山寮或ハ地方官ニテ正價ヲ裁決シ其地ヲ買取ル可シ

第二十三 總テ鑛區ヨリ隣區ニ患害損傷ヲ被ラシムルトキハ之ヲ償フヘシ若シ償金決セスンハ鑛山寮ヨリ裁決スヘシ

第二十四 凡ソ借區人其坑業ヲ年限中他人ニ讓渡ス如キハ前以テ双方ヨリ鑛山寮ニ願出許可ヲ請フヘシ若シ之ニ背ク者ハ其業ヲ禁止スヘシ

第二十五 凡ソ借區年限終リ又ハ法ニ背ヒテ其業ヲ禁止セラレ或ハ自ラ廢業スルニ至ル者有レハ都テ其借區ハ政府ニ還復シ其事業ニ就テ如何ナル負債アリト雖モ總テ其坑山ニハ關係セサル者トス此時ニ當テ地中ノ結構ハ坑山ニ屬シテ政府ノ有タルヘシ地上ノ營造ハ其主ノ取去ニ任スト雖モ其跡ノ地面ハ完全ニ修復ヲ爲スヘシ

第二十六 坑業人ハ其坑山地方ノ住民同様トス因テ其地方官ノ諸法令ヲ遵守スヘシ

第六章 廢業

第二十七 坑業ヲ廢セント欲スル者ハ堅坑ノ口ヲ掩ヒ又柵圍ヒスヘシ鑛山寮ヨリ其堅坑ヲ當然ニ堅固ニセシヤ且坑内ノ營繕完全存在スルヤヲ檢査スヘシ若シ疎漏アラハ坑山寮ニ於テ之ヲ繕治スヘキ費額ノ一倍ヲ徵收スヘシ

第二十八 鑛山寮ヨリ疎水ヲ命スルニ背キテ其事ヲ行ハス之カ爲ニ坑中廢没スルニ至ルモノハ其業ヲ禁止ス

第七章 鑛所建築

第二十九 凡ソ開坑人坑山外ノ塲所ニテ有鑛質物ヲ製出セン爲メニ建築スヘキモノアラハ先ツ鑛山寮ニ許可ヲ請フヘシ

第三十 已ニ製煉セシ坑物ヲ精製（荒銅ヲ丁銅煉銅ニ作り山吹スル職業者者ハ起業ヲ鑛山寮ニ報知シ六ヶ月毎ニ元鑛量並製出品量等ヲ具記シ鑛山寮ニ開報スヘシ）

第八章 納稅

第三十一 （明治十四年第四十九號布告ヲ以テ本條第一項及ヒ第四項中ヲ如左改正シ而シテ第一項ノ結尾ニ但以下十三字ヲ追加ス）

第三十一 鐵ヲ除クノ外有鑛質物ヲ採取スル坑區ハ面積五百坪毎ニ一ヶ年金一圓ツ、借區稅トシテ毎年一月ニ其年一ヶ年分ヲ前納スヘシ（借區稅ハ地租ニ關係セズ）鐵及ヒ無鑛質ノ諸物品採取スル坑區ハ面五百坪ニ付前條ノ半高ヲ納ムヘシ即チ金五十錢トス但怠納者ハ借區券ヲ取揚クヘシ

廢鑛ヲ採取スル坑區ハ面千坪ニ付常例ノ稅額ヲ納ムヘシ



開坑區面五百坪廢鐵區面千坪トニ足ラサルモノハ總テ右面積ノ比例ニ隨テ納ムヘシ  
借區初年ノ區稅ハ月割ヲ以テ借區券下付ノ節前納スヘシ

前書借區稅ノ外ニ探製セシ金屬及ヒ諸坑物ニ就テ代價百分ノ三ヨリ百分ノ二十マテ  
キ坑物稅トシテ每歲一月七月兩度ニ鐵山寮ニ納ムヘシ

但稅額ノ饑ハ其坑業ノ盛衰ニ隨ヒ鐵山寮ヨリ命スヘシ

第三十二 試堀開坑或ハ通洞等ニ付前後諸條款ニ記セル稅或ハ罰金償金等ヲ納メサル  
キ其業ニ屬スル所ノ運移スヘキモノ殘ラヌ鐵山寮ヨリ入札拂ニシテ代價ノ中ヨリ不  
納高ヲ引去リ其殘金ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

第三十三 凡ソ坑法ノ意旨ニ反ル過失有ル者ハ輕重ニ隨テ罰金ヲ命スヘシ若シ事業疎  
略ニシテ命人ヲ失ハ、國律ヲ以テ論處スヘシ

右章款ニ記載スル方法ハ明治六年九月一日ヨリ施行スヘシ從前ノ法則及ヒ舊習等若シ  
此法ニ矛盾スル者ハ都テ廢停タルヘシ

坑法附示

鐵業及ヒ製鐵ノ業ヲ舉行スル者西洋ノ學術及ヒ工作ヲ用ヒシカ爲メ一定ノ給料ヲ以テ  
外國技術家ヲ雇入ル、カ如キハ我坑產損益及ヒ所有物ニ關係スルヲ無キニ因テ坑法第  
四款ノ禁ニ觸レズ然レモ之ヲ雇入ル、以前其職業給料及ヒ年限ヲ分明ニ記載シ其案紙  
ヲ鐵山寮ヘ送呈シテ結約ノ許可ヲ可請候事

(諸書式畧之)

第十二節 取引所條例

明治二十年五月十一號  
月十四日勅令

朕取引所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

取引所條例

第一章 總則

第一條 取引所ハ商業上ノ取引ヲ便利ニシ市價ヲ平準ニシ商業上公正眞實ノ風ヲ養成  
シ商業上ノ慣習ヲ統一維持シ須要ノ報道ヲ傳播シ及取引所會員ノ間ニ生スル爭論ヲ  
仲裁スルヲ以テ目的トシ商業上便宜必要ノ地方ニ於テ其地方ノ商人農商務大臣ノ特  
許ヲ得テ設立スルモノトス

第二條 取引所ニ於テ買賣取引スヘキ物件ハ重要ノ商品公債證書證券株式等ニシテ創  
立員又ハ取引所ノ出願ニ依リ農商務大臣ノ認可シタルモノニ限ル

第三條 取引所ヲ設立スルコトハ東京大坂ニ於テハ三十人以上其他ノ地方ニ於テハ十五  
人以上會員タルヲ得ヘキ者創立員トナリ地方官廳ヲ經テ農商務大臣ニ願出ヘシ

第四條 取引所ハ其買賣取引スヘキ物件ニ就キ之ヲ各部ニ分チ又ハ數物件ヲ合セテ一  
部トシ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 取引所ノ創立ニ係ル費用及之ヲ維持スルニ必要ナル費用ハ會員之ヲ負擔スヘ

取引所條例



シ取引所ハ前項ノ費用ヲ補充スル爲メ賣買取引ニ就キ相當ノ手数料ヲ領收スルコトヲ得其手数料ノ割合ハ役員之ヲ議定シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
前項ノ手数料ハ之ヲ分配スルヲ得サルモノトス

第六條 農商務大臣ハ取引所ヲ監督シ地方長官ヲシテ之ヲ監視セシメ其賣買取引法律命令ニ違反シ或ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキハ其全部又ハ幾部ヲ停止若クハ禁止シ其賣買取引ニ關涉シタル役員ヲ罷免シ仲買人ノ營業ヲ停止若クハ禁止シ及會員ヲ一時若クハ永久ニ除名スルコトヲ得

第七條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ規納ヲ改正セシメ又ハ決議及處分ヲ停止禁止若クハ取消スコトヲ得

第八條 農商務大臣ハ必要ト認ムルキハ取引所ニ對シ委員ヲ命シ其一般ノ事務ヲ監察シ取引所ニ關スル法律命令ノ施行ヲ監視シ且其役員ノ集會ヲ整理セシムルコトヲ得  
第九條 取引所ハ毎日一定ノ時間ニ於テ商業上ノ集會ヲ開キ其時間外ハ賣買取引ヲ爲スコトヲ許サス

第十條 本條例施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十一條 取引所ノ賣買取引ニ關スル稅則ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 會員

第十二條 會員タルコトヲ得ル者ハ其取引所左ノ地ニ居住スル商人ニシテ會員タルノ

義務ヲ盡スコトヲ得ル者ニ限ル會員ニ非サレハ取引所ニ集會シ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 會員タル者ハ身元保證金三百圓以上三千圓以下ヲ差出スコトヲ要ス

第十四條 左ニ掲グル者ハ會員タルコトヲ得ス

- 一 婦女及未丁年者  
但婦女ノ代理人未丁年者ノ後見人ハ會員タルコトヲ得
- 二 公權利奪若クハ停止中ノ者
- 三 身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者
- 四 第六條第十五條ニ依リ除名セラレタル者
- 第十五條 會員ニシテ不當ノ舉動ヲ爲シ爲メニ取引所内ニ於テ紛擾爭論ヲ醸スカ法律命令及規約ニ違反シタル不正ノ契約ヲ爲スカ又ハ故意ニ其商業上ノ責任ヲ果サハルトキハ役員ノ決議ヲ以テ百圓以内ノ過怠金ヲ科シ一時若クハ永久ニ之ヲ除名スルコトヲ得

第三章 役員

第十六條 取引所ニ役員ヲ置クコト左ノ如シ

- 一 理事長
- 一 理事

取引所條例



一 常置委員

第十七條 役員ハ一箇年ヲ以テ任期トシ會員中ヨリ投票ヲ以テ選舉シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但理事長及理事ハ會員ノ決議ニ由リ會員外ヨリ選舉スルコトヲ得 役員任期中ト雖モ其職務ヲ盡サ、ルカ又ハ不正ノ所爲アルトキハ會員ノ決議ヲ以テ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ退職セシムルコトヲ得

第十八條 理事長及理事ハ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ許サズ

第十九條 役員ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ經其業務ニ關シ規約ヲ定ムルコトヲ得

第四章 仲買人

第二十條 取引所ニ仲買人ヲ置ク仲買人ハ他人ノ委託ニ由リ賣買取引ヲ爲スヲ以テ業トシ自己ノ爲メニ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 仲買人ノ營業ハ一部ニ限リ數部ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第二十二條 仲買人タラント欲スル者ハ農商務大臣ノ免許ヲ受クヘシ之ヲ受ケタルトキハ免許料金五十圓ヲ納ムヘシ

第二十三條 仲買人タルヘキ者ハ會員ニシテ營業保證金一千圓以上二萬圓以下ヲ差出スコトヲ要ス

第二十四條 仲買人ニシテ第十五條ニ掲グル所爲アルトキハ役員ノ決議ヲ以テ二百圓以內ノ過怠金ヲ科シ其營業ヲ停止若クハ禁止スルコトヲ得但營業ヲ禁止スルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十五條 仲買人ハ自ら取引所ノ賣買取引ニ從事スヘシ代理人又ハ手代ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十六條 仲買人口錢ノ額ハ役員會議ニ於テ議決シ農商務大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ定ム

第五章 賣買取引

第二十七條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ直取引及定期取引ノ二様トス其方法ハ農商務省令及取引所ノ規約ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 取引所ニ於テ賣買取引スヘキ物件ノ種類ニヨリ農商務大臣ハ取引所外ニ於テ取引所ノ賣買取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スヲ禁止スルコトヲ得

第二十九條 取引所ニ於テ賣買取引シタル物件ノ相場ヲ以テ公定相場トス

第六章 仲裁

第三十條 取引所ニ於テ爲シタル賣買取引ニ關シ爭論ヲ生スルトキハ役員ニ申告シテ仲裁ヲ受クヘシ但代人ヲ出スコトヲ得ス

第三十一條 前條ノ場合ニ於テハ常置委員ノ多數決ヲ以テ其爭論ヲ仲裁スヘシ

取引所條例



第三十二條 法律上ノ見解ニ關スルモノヲ除クノ外前條ノ仲裁ニ對シテ裁判所ニ上訴スルコトヲ得ス

第七章 罰則

第三十三條 第五條第三項第九條第十八條第二十條及第二十五條ヲ犯シ又ハ第二十七條ニ依リ農商務省令ヲ以テ定メタル賣買取引法ニ違ヒ賣買取引ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第二十八條ニ依リ農商務大臣ノ禁止シタル賣買取引ヲ爲シ又ハ第二十九條ノ公定相場ヲ偽リタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本條例ハ明治二十年九月一日ヨリ施行ス但米商會所條例及株式取引所條例ハ米商會所及株式取引所ノ營業滿期ヲ待ツテ廢止スルモノトス

第十三節 取引所條例施行細則

明治二十年六月第三號  
一日農商務省令

本年五月勅令第十一號取引所條例施行細則左ノ通相定ム

取引所條例施行細則

第一章 總則

第一條 取引所ヲ設立セントスル者ハ設立願書ニ左ノ事項ヲ詳記シ創立員各自署名調

印シ地方官廳ニ提出スヘシ

一 取引所ノ名稱及位置

二 設立ヲ要スル事由

三 取引所ノ部分ケ及其各部ニ於テ賣買取引スヘキ物件ノ種類

四 會員タルヲ得ヘキ商人ノ概數及其差入ルヘキ身元保證金額

五 各部仲買人ノ差入ルヘキ營業保證金額

六 賣買取引スヘキ物件集散ノ實況及將來賣買取引高ノ目算

七 取引所設立ニ關スル費用ノ豫算額及徴収ノ方法

第二條 地方長官前條ノ設立願書ヲ受ケタルトキハ其要否ヲ考ヘ創立員ノ身元ヲ糾シ

意見ヲ具シ農商務省ニ進達スヘシ

第三條 農商務大臣取引所ノ設立ヲ特許シタルトキハ特許狀ヲ下付スヘシ

第四條 取引所設立ノ特許ヲ得タルトキハ創立員ニ於テ其創立員中ヨリ委員ヲ選定シ

其氏名ヲ農商務省ニ届出ツヘシ

委員ハ假ニ役員ノ事務ヲ執行シ取引所設立ノ特許ヲ得タル旨ヲ官報又ハ其地方重モ

ナル新聞紙ヲ以テ廣告シ取引所ヲ開クニ付必要ノ準備ヲ爲スヘシ

第五條 會員ノ員數第一條第四項概數ノ十分ノ一以上ニ達スルトキハ總會ヲ開キ役員

ヲ選舉スヘシ

取引所條例施行細則



役員ハ取引所ノ業務ヲ經理スル爲メ規約ヲ作り農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
第六條 規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但自餘ノ事項ト雖モ必要ト認ムルモノハ掲載  
スルコトヲ得

- 一 取引所ノ名稱及位置
- 二 取引所各部ノ名稱
- 三 會員入退及除名ニ關スル規程
- 四 會員ノ權利義務
- 五 會員組合ニ關スル規程
- 六 會員ノ手代入場ニ關スル規程
- 七 役員ノ員數及其選舉ノ方法
- 八 役員ノ職務章程
- 九 仲買人關廢業及營業停止禁止ニ關スル規程
- 十 仲買人組合ニ關スル規程
- 十一 仲買人ノ補助員入場ニ關スル規程
- 十二 仲買口錢ニ關スル規程
- 十三 自元保證金及營業保證金ニ關スル規程
- 十四 賣買取引スヘキ物件ノ種類

- 十五 新株式賣買舉行ニ關スル規程
- 十六 直取引及定期取引ニ關スル規程
- 十七 賣買取引受託ニ關スル規程
- 十八 證據金ニ關スル規程
- 十九 賣買取引ノ結了ニ關スル規程
- 二十 市場整理ニ關スル規程
- 二十一 休暇日及市場開閉時刻ノ定限
- 二十二 公定相場ニ關スル規程
- 二十三 會議ニ關スル規程
- 二十四 帳簿及記錄ニ關スル規程
- 二十五 取引所ノ經費收支ニ關スル規程
- 二十六 仲裁ニ關スル規程
- 二十七 違約處分ニ關スル規程
- 第七條 役員規約ノ認可ヲ得タルトキハ農商務省ニ届出ノ上賣買取引ヲ開始スヘキモノトス
- 第八條 取引所ノ位置ヲ移轉セントスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第九條 取引所ニ關スル一切ノ文書ハ所名ヲ署シ役員ノ印章ヲ捺スヘシ但願何届其他

取引所條例施行細則



重要ノ文書ハ理事長之ニ署名調印スヘシ

第二章 會員

第十條 會員タラント欲スルモノハ加入申込書ニ履歴書ヲ添付シ役員ニ差出スヘシ役員ハ其履歴ヲ糺シ身元保證金ヲ差入レシメタル上加入ヲ承諾シ會員名簿ニ記名調印セシメ會員ノ證ヲ交付スヘシ

第十一條 婦女ノ代理人若クハ未丁年者ノ後見人會員タラント欲スルトキハ加入申込書ニ履歴書及委任狀若クハ戸長ノ證認書ヲ添付シ役員ニ差出シ其承諾ヲ請フヘシ但條例第十四條ニ觸ル、代理人若クハ後見人ハ會員タルコトヲ得ス

第十二條 商社ノ名義ヲ以テ會員タラント欲スルトキハ代表人ヲ定メ加入申込書ニ商社ノ規約及代表人ノ履歴書ヲ添付シ役員ニ差出シ其承諾ヲ請フヘシ但條例第十四條ニ觸ル、モノハ代表人タルコトヲ得ス

第十三條 會員退去セントスルトキハ其旨ヲ役員ニ申出ツヘシ役員ハ十日間其旨ヲ市場ニ揭示シ賣買取引其他計算上關係ナキヲ認メタル上承諾ヲ與ヘ身元保證金ヲ返付スヘシ

第十四條 會員ハ役員ノ承諾ヲ得手代ヲシテ入場セシムルコトヲ得  
第十五條 會員ハ適宜人員ヲ定メテ組合ヲ爲シ組合中ヨリ委員一名ヲ選定シ役員ニ届置クヘシ

委員ハ其組合會員ノ代議人トナリ取引所總會ニ列スルモノトス

第三章 仲買人

第十六條 仲買人タラント欲スルモノハ營業願書ヲ役員ニ差出スヘシ役員ハ役員會ヲ開キ過半数ノ同意ヲ得タル上地方官廳ヲ經由シテ其願書ヲ農商務省ニ進達スヘシ

第十七條 農商務大臣ニ於テ仲買人タルコトヲ免許スルトキハ役員ヲ經テ銀章ヲ下付スヘシ役員ハ免許料及營業保證金ヲ差出サシメタル上之ヲ本人ニ交付スヘシ

第十八條 仲買人ハ取引所ニ於テ賣買立會中銀章ヲ佩用スヘシ  
第十九條 仲買人ハ自己ノ名義ヲ以テ賣買約定ヲ爲シ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第二十條 仲買人ハ其部内同業者中適宜人員ヲ定メテ組合ヲ爲シ組長一名ヲ選定シ役員ノ認可ヲ受ケ組合中一切ノ取締ヲ爲サシムヘシ但組長ノ氏名ハ役員ヨリ農商務省ニ届出ヘシ

第二十一條 仲買人ハ其部ノ名稱ヲ冠シ某部仲買人ト稱スヘシ  
第二十二條 仲買人ハ役員ノ承諾ヲ得一名若クハ二名ノ補助員ヲシテ取引所ニ於テ其業務ヲ補助セシムルコトヲ得但補助員ハ賣買契約ヲ爲シ又ハ之ヲ執行スルコトヲ得ス



第二十三條 仲買人應業セント欲スルトキハ其届書ヲ役員ニ差出スヘシ役員ハ十日間其旨ヲ市場ニ揭示シ賣買取引其他計算上關係ナキヲ認メタル上營業保證金ヲ返付シ地方官廳ヲ經由シテ其届書ヲ農商務省ニ進達スヘシ

第二十四條 仲買人其資格ヲ失フタルトキハ本人又ハ相續人若クハ親族ヨリ役員ヲ經由シテ銀章ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第二十五條 仲買人銀章ヲ紛失シタルトキハ其事由ヲ詳具シ役員ノ保證ヲ得テ更ニ銀章ノ下付ヲ請フヘシ但此場合ニ於テハ手数料トシテ金十圓ヲ上納スヘシ

第四章 身元保證金及營業保證金

第二十六條 身元保證金及營業保證金ハ取引所ニ於テ其額ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ農商務大臣ハ時宜ニヨリ其増額ヲ命スルコトアルヘシ

營業保證金ハ各部ニ由リ其額ヲ定ムヘキモノトス

第二十七條 身元保證金及營業保證金ハ左ニ掲クル證書ヲ以テ代用スルコトヲ得保證金ノ預リ證書ハ營業保證金中ニ合算スルコトヲ得現金ヲ以テ差入レントスルトキハ役員ノ指命スル銀行ニ預ケ入レ其預リ證書ヲ以テ役員ニ差入ルヘシ

一預金局ノ預リ證書

一公債證書

一政府ノ保證アル會社ノ株券

(公債證書ハ農商務大臣株券ハ役員ノ指定スル價格ニ據ルヘシ)

第二十八條 身元保證金及營業保證金ヲ差出シタルトキハ役員ハ預リ證書ヲ付與スヘシ其證書ハ質入書入其他抵當ト爲スコトヲ許サス

第二十九條 身元保證金ニ缺額ヲ生シタルトキハ之ヲ補損スルニアラサレハ會員タルノ權利ヲ失フモノトス又營業保證金ニ缺額ヲ生シタルトキハ之ヲ補填スルニアラサレハ仲買人ノ業ヲ營ムコトヲ許サス

第三十條 營業保證金ハ之ヲ差入タル仲買人ニ於テ賣買取引上ノ違約ヲ爲シタルトキ損害賠償ノ用ニ供スルモノトス

身元保證金ハ之ヲ差入タル會員ニ於テ其會員タルノ義務ヲ盡サ、ルトキ賠償ノ用ニ供スルモノトス

第三十一條 賣買取引上ヨリ生シタル損害ノ賠償ハ證據金及營業保證金ヲ以テ充テ猶ホ不足アルトキハ被害者ヨリ賠償ノ責ニ當ル本人ニ對シ追求スルヲ得

第五章 役員

第三十二條 理事長ハ理事ヲ率ヒテ取引所全部ノ事務ヲ總轄シ總會及役員會ノ議事ヲ整理シ理事ノ分掌ヲ定メ所屬員ヲ任免シ及規約違反者ヲ處分スルノ權ヲ有シ取引所一切ノ事務ニ付其實ニ任スルモノトス

取引所條例施行細則



第三十三條 理事ハ指揮ヲ理事長ニ受テ各部ノ事務ヲ分掌シ及部下ノ屬員ヲ指揮監督スルノ權ヲ有ス

第三十四條 常置委員ハ取引所全般ノ事務ニ付意見ヲ具シ理事長ヲ輔佐シ金錢ノ出納及他ノ諸役員ノ爲行ヲ監視スルノ權ヲ有ス

第三十五條 理事ハ理事長事故アルトキ其事務ヲ代理スルノ任アルモノトス

第三十六條 會員外ヨリ理事長及理事ヲ選舉シ農商務大臣ノ認可ヲ請フトキハ其願書ヨリ履歷書ヲ添付スヘシ

會員外ヨリ撰舉シタル理事長及理事ハ會員同額ノ身元保證金ヲ役員ニ差出スヘシ

第三十七條 役員ノ印章ハ其印鑑ヲ農商務省ニ届出ノ上使用スヘシ

第六章 賣買取引法

第三十八條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現物、見本品、銘柄ニ據リ賣買取引ヲ爲スヘキモノトス

第三十九條 直取引ハ現物、見本品、又ハ銘柄ヲ以テ賣買取引ヲ爲スモノトス約定ヲ爲シタルトキハ賣買雙方ヨリ相手方ノ氏名、數量直段等ヲ其部理事ニ届出テ取引所ノ帳簿ニ記入ヲ請ヒ五日以内ニ受渡ヲ爲スヘシ

第四十條 定期取引ハ見本品又ハ銘柄ニ據リ期日ヲ定メテ賣買取引ヲ爲スモノトス

第四十一條 定期取引ノ約定ヲシタルトキハ賣主ヨリ其記名ノ賣渡證書ヲ買主ニ交

付スヘシ但賣買取引ノ高ニ應シ賣渡證書ヲ數葉ニ分割スルコトヲ得

買受ケタルモノヲ他ニ轉賣セントスルトキハ證書記名者ニ其旨ヲ通知シ證書記名者ニ於テ更ニ證據金ノ差入ヲ請求スルトキハ一定ノ證據金額内ニ於テ證書記名者ノ満足スル證據金ヲ差入レシムヘシ

第四十二條 定期取引ノ約定ヲシタルトキハ賣買雙方ヨリ相手方ノ氏名、約定期日、數量及直段等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ其部理事ニ届出テ取引所ノ帳簿ニ記入ヲ請フヘシ

第四十三條 定期取引ノ約定ヲ鞏固ナラシメンガ爲メ賣買主ノ一方ニ於テ證據金ノ差入ヲ必要トスルトキハ相手方ニ其差入ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ其請求者モ亦内額ノ證據金ヲ出入ルヘキモノトス

證據金ノ最上額ハ役員ニ於テ豫メ之ヲ定メ農商務省ニ届出ヘシ

第四十四條 定期取引ノ期限ハ役員之ヲ定メ農商務省ノ認可ヲ受クヘシ

第四十五條 賣買品ノ受渡ハ其部理事立會ノ上執行完結スヘシ

第四十六條 賣買品ノ受渡ハ制法又ハ特許ニ依リ成立シタル倉庫ノ預リ手形ヲ以テ其用ニ供スルコトヲ得

第七章 公定相場

第四十七條 公定相場ハ取引所ニ於テ日々賣買取引スル物件ノ種類ニ依リ左ノ種別ニ

取引所條例施行細則



從ヒ直取引ト定期取引トヲ區畫シ役員之ヲ調定シ表ヲ作リテ市場ニ揭示スヘシ

寄付相場(賣買立會ノ最務ニ賣買取引シタル一口ノ直段ヲ云フ)

大引相場(賣買立會ノ最終ニ賣買取引シタル一口ノ直段ヲ云フ)

最昂相場(賣買立會中最モ高キ直段ヲ云フ)

最低相場(賣買立會中最モ低キ直段ヲ云フ)

平均相場(賣買立會中相場ノ異ナルモノヲ加ヘ更ニ其數ニテ除シタル直段ヲ云フ)

第八章 取引所經費

第四十八條 取引所ノ創立ニ係ル費用ヲ支辨スル爲メ一時負債ヲ起スコトヲ得此場合

ニ於テハ償却ノ方法及年限ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

取引所ノ經費ヲ支辨スル爲メ賣買取引上ニ就キ手数料ヲ徵收スルノ外各會員ニ賦金

ヲ課スルコトヲ得

取引所經費ノ豫算額及其賦課徵收ノ方法ハ總會ニ於テ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可

ヲ受クヘシ

第四十九條 取引所ノ經費ハ毎年兩度收支ノ決算ヲナシ會員一同ニ報告スヘシ

第九章 會議

第五十條 會議ヲ分チ總會役員會ノ二トナス

第五十一條 總會ハ委員一同集會シ毎年二回之ヲ開クモノトス

第五十二條 總會ニ於テ議スヘキ事項ハ左ノ如シ

一 賣買取引上ノ利害得失ニ關スル事項

二 取引所經費ノ豫算額及賦課徵收ノ方法

三 取引所維持ニ關スル事項

四 役員ノ選舉

第五十三條 役員會ハ理事長理事及常置委員集會シテ之ヲ開ク其議スヘキ事項ハ左ノ

如シ

一 取引所規約ノ改正

二 仲買人ノ口錢額

三 取引所事務ノ整理及賣買取引ノ便否

四 金錢取扱ノ方法

五 臨時必要ノ事項

第五十四條 總會ハ委員三分ノ一以上ノ請求又ハ理事長ノ意見若クハ常置委員ノ衆議

ニ依リ臨時開會スルコトヲ得

第五十五條 總會ハ議員ノ半ニ滿タサレハ議事ヲ開クコトヲ得ス但急遽ノ事件ハ此限

ニアラス

第五十六條 會議ハ議員過半數ニ由テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

取引所條例施行細則



第五十七條 會議ハ理事長之レカ議長トナルヘシ

但條例第十七條後項ノ場合ニ於テハ議員中ヨリ議長ヲ選舉スルコトヲ得

第五十八條 臨時總會ヲ開カントスルトキハ開會ニ先テ議件ヲ詳記シ農商務省ニ届出  
ヘシ農商務大臣ハ時宜ニ由リ開議ヲ差止メ又ハ中止スルコトアルヘシ

第十章 報告

第五十九條 役員ハ左ニ掲クル件々ヲ農商務省ニ報告スヘシ

- 一 毎月公定相場表
- 二 毎月賣買景况報告
- 三 每半季功程及計算報告
- 四 每半季會員入退報告

第六十條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引上ニ異狀アルトキハ其時々役員ヨリ農商務  
省ニ報告スヘシ

第十一章 帳簿

第六十一條 役員會員及仲買人ハ必要ノ諸帳簿ヲ備ヘ名目用法ヲ農商務省ニ届出ヘシ  
其帳簿ハ記載ノ末日ヨリ滿五ヶ年間保存スヘシ

第六十二條 役員會員及仲買人ハ毎日取扱タル事項及金錢ノ出納ヲ帳簿ニ詳記スヘシ  
農商務大臣ハ時宜ニ由リ帳簿ノ補正ヲ命ジ又ハ記載ノ方法ヲ指示スルコトアルヘシ

第十二章 仲裁

第六十三條 仲裁ヲ請フ者アルトキハ理事長ニ於テ常置委員中ヨリ三名以上ノ掛員ヲ  
撰任シ理事長之カ議長トナリ仲裁ヲ爲スヘシ

仲裁ハ一定ノ期日及時間ニ於テ其事實ヲ審理シ之ヲ爲スモノトス

第六十四條 仲裁ヲ請フ者ハ口頭又ハ書面ヲ以テスルモ妨ケナシ但掛員ニ於テ必要ト  
認ムル場合ニ於テハ書面ヲ出サシムルコトヲ得

第六十五條 仲裁ヲ請フモノ其取調ヲ受シルトキハ自身出頭スヘシ止ヲ得サル事故ア  
ルトキニ限リ會員ハ手代仲買人ハ補助員ヲ以テ代理タラシムルコトヲ得

第六十六條 仲裁ノ言渡ヲ爲ストキハ掛員一同其言渡書ニ記名調印スヘシ但細事ニ限  
リ口頭ヲ以テ言渡スモ妨ケナシ

第六十七條 掛員必要ト認ムルトキハ會員及仲買人中ヨリ證據人ヲ召喚スルコトヲ得  
此場合ニ於テ召喚セラレタルモノハ理由ナク之ヲ辞スルコトヲ得ス

第六十八條 掛員ハ其仲裁ヲ爲シタル事件ヲ詳記シ之ヲ保存スヘシ

第六十九條 掛員ハ仲裁ニ關スル費用ヲ曲者ヨリ差出サシムルコトヲ得

第七十條 掛員ハ會員外ノ者ヲ以テ仲裁事件ノ顧問トナシ又ハ仲裁ノ席ニ參セシムル  
コトヲ得

第十三章 違犯處分

取引所條例施行細則



(罰) 三十圓以上  
五十圓以下  
(禁) 三十日以下

第七十一條 本則ニ違反シタル者ハ條例ニ據リ處分セラル、モノ、外二圓以上二十五圓以下ノ罰金又ハ二日以上二十五日以下ノ禁錮ニ處ス

第十四節 米商會所條例

明治九年八月五日  
月一日布告 第五百五號

從來各地方ニ於テ差許置候米油限月賣買一切差止メ自今米穀賣買相場取引致度モノハ會社規則取調可願出旨明治七年 月 日 第三百三十八號ヲ以テ布告候處今般更ニ米商會所條例別冊ノ通相定候條營業致度者ハ右ニ照準可願出此旨布告候事

別冊 (明治十四年第三十一號ヨリ布告ヲ以テ條例中内務省及ヒ内務卿大藏卿トアリシテ農商務省農商務卿ト改ム)

米商會所條例

第一條 緒言

第一節 米商會所ハ米穀流通ノタメ米商人ノ集會シテ賣買取引ヲ爲ス所ナリ而シテ共同結社之ヲ創立セント欲スル者ハ農商務卿ノ免許ヲ請フヘシ

第二節 農商務卿ハ地方ノ景狀ヲ察シ之ヲ創立スルノ緊要ナルヤヲ考定シ之ヲ許可スルト否トノ權ヲ有ス

第三節 米商會所營業ハ五ヶ年ヲ以テ一期ト定ム右滿期ノ際猶之ヲ保續セント望ムモノハ更ニ其趣ヲ申立農商務卿ノ免許ヲ乞フヘシ

第二條 會所創立ノ手續

第一節 米商會所ヲ創立スルニハ發起人十人以上ニシテ資本金ノ總額三萬圓以上タルヘシ

第二節 資本金ハ百圓ヲ以テ一株ト定メ發起人總員ニテ必ス資本金總高ノ半額以上ニ當ル株數ヲ所持スヘシ

第三節 會所ノ發起人ハ創立願書ニ此會所ヲ創立セントスル地方ノ從來米穀聚散ノ實況及ヒ將來賣買ノ目的ヲ詳悉シ各記名調印シ區戸長ノ與書ヲ得會所創立證書及ヒ定款申合規則等ヲ添ヘ之ヲ地方官廳ヘ差出スヘシ

(明治十二年二月一日第四號  
布告ヲ以テ左ノ但書ヲ追加)

但創立證書中株主ノ責任ニ於テ有限或ハ無限ナルコトヲ明記ス可シ

第四節 地方官廳ニ於テハ願人共ノ身元行狀ヲ檢知シ且ツ其目的ノ利害障礙ノ有無ヲ織別シ又會議所等ノ設ケアル地方ニ於テハ其集議ヲ取り併セテ之ヲ參酌シ相當ト思量スルトキハ意見書ヲ添ヘ農商務卿ヘ具申スヘシ

第三條 開業ノ手續

第一節 發起人等ニ於テ會所創立ノ許可ヲ受ケタルトキハ直ニ其旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シテ他ノ株主ヲ募ルコトヲ得

第二節 (明治十三年四月十五日第十九號  
號布告ヲ以テ左ノ如ク改正)  
發起人ハ其募リニ應シタル株主等ト共ニ集會ヲ爲シ第五條ノ程限ニ從ヒ五人以上ノ

米商會所條例



肝煎及正副頭取ヲ撰任シ其住所姓名年齢等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方廳ヲ經由  
農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ農商務卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルコトアルヘシ

第三節 此頭取肝煎等ハ資本金總高ノ三分二ニ當ル現金或ハ日本政府ノ公債證書(此公債證書ハ時々相場ノ昂低ヲ以テ増減スヘシト雖モ明治七年大藏省ノ第二十八號達ノ價額ヨリ減少スヘカラス)ヲ其地方官廳或ハ國立銀行ニ預ケ公正ナル預リ證書ヲ受ケ其寫ヲ農商務卿ニ差出シ開業免狀ヲ請求ス可シ

第四節 會所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シ始メテ之レニ從事スルコトヲ得  
第四條 社印ノ用方并印鑑差出方等ノ手續

第一節 開業免狀ヲ得テ其商業ヲ創メントスルニ當リ會所ノ印ヲ刻シ頭取以下諸役員ノ印ト共ニ其印影ヲ一纏メニシテ農商務卿ニ差出スヘシ若シ改刻スル者アルトキハ其都度之ヲ差出スヘシ

第二節 會所ノ諸願届又ハ諸證書約定書及ヒ往復ノ文書等ニ至ルマテ會所一般ニ關スルコトハ其會所ノ名義ヲ用ヒ會所ノ印ヲ捺シ頭取肝煎等之ニ署名加印スヘシ  
第五條 役員ノ程限

第一節 會所ノ役員ト稱スル者左ノ如シ  
頭取  
副頭取

肝煎

以下支配人書記等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ會所ノ都合ニ任ス

第二節 會所ノ役員タル者ハ該會所ニ於テ買賣本人又ハ仲買人ト爲ルコトヲ許サス  
第三節 (明治十三年第十九號布告ヲ以テ如左改正)

右役員ハ株主ノ定例總集會ノ節投票ヲ以テ十株以上ヲ所持シタル株主中ヨリ肝煎ヲ選舉シ肝煎ハ其同僚中ヨリ正副頭取ヲ推撰シ其住所姓名年齢等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方廳ヲ經由シ農商務卿ノ認許ヲ受テ新舊交代セシムヘシ農商務卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルコトアルヘシ

第六條 役員ノ職務

第一節 頭取ハ會所ノ事務ヲ總轄シ他ノ役員ヲ指揮シ會所一切ノ責ニ任ス

第二節 頭取ハ肝煎分掌ノ事務ヲ定ムヘシ

第三節 副頭取ハ頭取ヲ助ケテ其事務ヲ共成シ時トシテハ其代理ノ任ニ當ルヘシ

第四節 肝煎ハ支配人書記等ノ役名ヲ議定シ其者等分掌ノ課程及ヒ俸給ヲ定メ社中差違ノ事ヲ判決シ金穀ノ出納ヲ管理シ株主ノ衆議ヲ取ラントスル事柄アル時ハ之ヲ招集スルコトアルヘシ

第五節 肝煎ハ毎月何回ト定メタル會議ノ議員ト爲ルヘシ

第六節 肝煎ハ其同僚中又ハ頭取ニ於テ職任ニ不適當ノ行ヒアルカ又ハ之ヲ怠ル者ア



ルトキハ臨時委員ヲ定メ次ノ肝煎會議ノ日ニ無名投票ヲ以テ三分ノ二以上ノ説ニ從ヒ之ヲ退職セシムルヲ得

第七條 株主ノ權利制限及株式讓渡ノ手續

第一節 株主ハ會所ノ本主ニシテ會所資本ノ一部ヲ入金シ其入金高ニ應シタル株券ヲ所持シ以テ株數相當ノ權利ヲ有シ營業上ノ損益ヲ負擔スル者ナルカ故ニ時々ノ景況ニ若目シ金員及出納勘定帳簿ヲ檢閲セント求ムルノ權アリ

第二節 (明治十三年第十九號 布告ヲ以テ如左改正)

株主ハ肝煎ノ承諾ヲ得テ仲買人ト爲ルヲ得其場合ニ於テハ別段證人ヲ要セスト雖モ通常仲買人タルノ條件ニ適應スルヲ要ス

第三節 株主ハ何等ノ事故アルトモ會所解散ノ期ニ至ラサル時間ハ其株金ヲ取戻スルヲ得ス

第四節 株主ハ肝煎ノ承認ヲ受ケタル上ニテ其所持ノ株式ヲ賣渡シ讓與ヘ又ハ質入抵當ト爲スヲ得ヘシ但シ其實入抵當ト爲シタル時間ハ總會議事ノトキ發言ノ權ナシ又役員ノ撰擧ニ應スルヲ許サス

第五節 株主其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓與ヲ爲ス時ハ其賣買授受双方ヨリ連印ノ證書ヲ會所ニ差出スヘシ會所ハ此證書ヲ請取リタル時ニ株主帳ノ姓名ヲ書改ムヘシ若シ右手續ヲ爲サハル間ハ證書賣買授受ノ効ナキ者トス

第八條 仲買人入社ノ手續

第一節 (明治十三年第十九號 布告ヲ以テ如左改正)

仲買人タルヲ得ヘキ者ハ丁年ニシテ會所所在ノ地ニ於テ滿一年以上米商營業ヲ爲シタル者ニ限ル而シテ仲買人トナラント欲スル者ハ身元金千圓以上ヲ出シ株主二名以上ノ保證ヲ以テ肝煎ニ申出テ其承認ヲ得タル上地方廳ヲ經由シテ仲買人ト爲ラントスル願書ヲ農商務卿ニ捧ケテ其認許ヲ受クヘシ

身元金ハ現金又ハ日本政府ノ公債證書ヲ以テ會所ニ預ケ置クヘシ

第二節 (明治十五年第廿六號 布告ヲ以テ如左改正)

仲買人タルモノハ他人ノ依頼ヲ受クルニアラサレハ賣買取引ヲ爲スヲ得ス其賣買取引ニ付キ會所ニ對シ自己ノ名義ヲ以テシ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負擔スヘシ但シ一口ノ取引ニ付賣買双方ノ依頼ヲ受クルヲ得ス

第三節 (明治十三年第十九號 布告ヲ以テ如左改正)

仲買人ハ五名ヲ一組トシ組合中ヨリ一名ヲ推撰シ肝煎ノ承認ヲ得テ組頭ト爲シ組合中一切ノ取締ヲ爲サシムヘシ

第四節 仲買人退社セントスルキハ其旨趣ヲ書面ヲ以テ肝煎ニ申出ヘシ肝煎ハ之ヲ受ケテ十日間之ヲ會所ニ張出シ置キ會所ニ連帶シタル計算上ノ關係ナキヲ認メタリ上ニテ其退社ヲ許シ身元金ヲ返付シテ證人ノ責任ヲ解クヘシ



第九條 商會所一般ノ規則

第一節 (明治十五年第二十六號布告ヲ以テ第一節及第二節ノ如左改正而シテ更ニ第三節以下ヲ追加セラル)

外國人ヲ株主并ニ仲買人ト爲スコトヲ得ス

第二節 會所ニ於テ賣買取引ヲ爲スモノハ其會所ノ仲買人ニ限ル可シ

第三節 會所ニ於テハ貸附金ヲナス可カラズ又仲買人ノ身元金及ヒ證據金ヲ使用スヘ

カラス

第四節 會所ハ此條例ノ旨趣ニ基キ賣買主双方ノ約定ヲ履行セシムルノ責任アルモノトス

第五節 會所ハ左ノ場合ニ於テハ賣買ノ違約人トシテ會所限處分スルコトヲ得

第一 賣買主双方若クハ一方其會所ニ差入ヘキ證據金ノ差入方ヲ怠リタルトキ

第二 賣買主双方若クハ一方其取引約定ノ期日ニ至リ其約定ヲ執行セサルトキ

第三 會所ニ於テ定メタル現米檢査ノ方法及受渡上ノ期約ニ背キタルトキ

第六節 會所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ會所ノ取引上ニ於テ失ヒタル利得ト被リタル損害トヲ其者ノ證據金及ヒ身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルコ止ルヘシ而シテ仍ホ其損失ヲ償フコ能ハサルトキハ會所ニ於テ其責ニ任スヘシ

第十條 賣買取引ノ手續

第一節 (明治十三年第十九號布告ヲ以テ如左改正其第二節以下ノ三節亦同シ)

會所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現米直取引ト定期トノ二様ニ分チ又其定期ヲ二種トナシ其一ヲ約定ノ期限ニ至リ現米金ノ受渡ヲ爲スモノトシ其二ヲ豫定ノ期限内ニ其取引ヲ完結シ又ハ解約スルモノトス

第二節 現米直取引ハ見本米ヲ以テ會所内ニ於テ賣買ヲ爲シ其現石受渡ノ順序ハ會所ノ規則ニ從フヘシ

第三節 定期賣買ヲ約定シタルキハ會所ノ役員ニ届出テ賣買主双方ヨリ約定ノ證據金ヲ會所ニ差入ルヘシ此證據金ハ少クトモ約定代金高十分ノ一ヨリ下ルヘカラス又此證據金ノ外ニ時々相場ノ高低ニ因テハ追證據金或ハ期日前ニ至リ猶ホ其約定ヲ確固ナラシムル爲メ增證據金ヲ差入レシムヘシ(明治十五年第六十六號布告ヲ以テ約定代金高十分ノ二トアリシヲ一ト改ム)

第四節 定期賣買約定ノ期限ハ三ヶ月ヨリ永カルヘカラス而シテ其期日ニ至レハ會所ノ役員立會ノ上必ス現米金ノ受渡ヲ爲シ其取引ヲ完結スヘシ但約定濟ノ分ハ双方ノ都合ニ依リ其期限内ニ買戻シ又ハ買受ケタル分ヲ他人ヘ賣渡スコトヲ得

第十一條 手数料並ニ口錢ノ制限

第一節 (明治十八年第三十六號布告ヲ以テ本節如左改正)

會所ニ於テ賣買者雙方ヨリ領收スヘキ手数料ハ會所ニ於テ相當ノ額ヲ定メ大藏卿農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ

第二節 (全上)



手数料ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關係スル他ノ債主ニ先ツテ收受スルコトヲ得  
第三節 手数料口錢ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關スル他ノ債主ニ先ツテ之ヲ收受  
スルコトヲ得

第十二條 會議ノ規則

第一節 會所ノ會議ヲ分ツテ肝煎會議ト株主總集會トノ二類トス  
第二節 肝煎會議ハ毎月何回ト定メ頭取ヲ以テ議長ト爲ス此會議ニ於テ發言ノ權ハ一  
人ニ付一説ト定メ衆說ヲ取リテ其議事ノ可否ヲ決ス若シ可否ノ數相半ハスルキハ議  
長ノ判決ニ任カス

第三節 右會議ニ當リ出席定員ノ半ニ充タサルトキハ其議事ヲ始ムヘカラス但シ急遽  
ノ事件ハ格別ナリトス

第四節 株主ノ總集會ハ毎年一度又ハ數度例月ヲ定メテ之ヲ開ク此集會ハ頭取肝煎ノ  
選舉及ヒ會所營業ノ實況計算ノ得失ヲ議スルヲ主務トス

第五節 株主五分ノ一以上ノ請求又ハ肝煎ノ衆議ニ依リテハ臨時總集會ヲ開クコトヲ得  
第六節 總集會ニ於テノ發言ノ權利決議ノ方法ハ便宜ニ從テ之ヲ定ムヘシ

第七節 總集會ニ於テノ議長ハ頭取又ハ株主中ヨリ選舉スルモ妨ケナシ  
第十三條 資本金増減ノ手續  
第一節 會所ニ於テ資本金高チ増減セントスルキハ總集會ノ決議案ヲ具シ頭取肝煎其

次第ヲ詳記シ農商務卿ノ指揮ヲ受クヘシ

(明治十五年第六號布告)  
以テ去ノ但書ヲ追加

但シ其資本金賣買取引ノ景況ニ對シ不適當ト認ムルトキハ農商務卿ハ其適當ノ金  
額ニ増加スヘキ旨ヲ命スルコトアルヘシ

第二節 右増減ノ許可ヲ得タル上ハ直ニ世上ニ公告シ其増減セシ名前書ヲ取纏メタル  
上農商務卿ニ届出且地方官廳或ハ銀行ニ預ケタル營業保證ノ金額ヲ増減スヘシ

第十四條 損益金計算ノ定規

第一節 頭取肝煎ハ毎年兩度以上營業ノ總決算ヲ爲シ其内税金並積立金其他一切ノ社  
費ヲ引去リ殘リ損益高ヲ以テ株數ニ割リ合セ之ヲ株主ニ分賦スヘシ

第二節 右計算表ハ株主ニ分賦ノ日ヨリ十五日内農商務卿ニ届出且ツ世上ニ公告スヘ  
シ

第十五條 納税ノ手續及ヒ積金ノ規則

第一節 (明治十八年第三十六號布告)  
告ヲ以テ本節如左改正

會所ハ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收稅規則ニ遵ヒ税金ヲ納ムヘシ

第二節 株主等ニ配當スヘキ純益金一ケ年一割即チ百分ノ十以上ノ利息ニ當ルキハ肝  
煎ノ衆議ヲ以テ割賦高ノ内幾分ヲ引去リ之ヲ積立テ以テ非常準備金ト爲ス可シ

第十六條 報告ノ定規

農商會所條例



第一節 (明治十五年第二十六號布告ヲ以テ如左改正且第二節及第三節ヲ追加)

會所及ヒ仲買人ハ毎日取扱ノ事項并ニ金穀出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記ノ方法ニ於テハ農商務卿ノ差圖アルトキハ其差圖ニ從フヘシ

第二節 會所及仲買人ニ於テ使用スル所ノ諸帳簿ハ其名目用法ヲ詳記シ之ヲ農商務卿ニ届出ヘシ

第三節 會所ハ賣買實際ノ景況及金穀出納其他役員ノ進退並ニ株主ノ異同仲買人ノ退社ヲ農商務卿ニ報告スヘシ

第十七條 官員検査規則

第一節 (本條明治十五年第二十六號布告ヲ以テ如左改正)

地方長官ハ時々官員ヲ派出シ會所及仲買人營業ノ摸樣其他諸帳簿並現米ノ所在其受渡ノ實況及會所ノ現金等ヲ査覈セシムヘシ又時トシテハ農商務省ヨリ官員ヲ派出シ之ヲ検査セシムルコアルヘシ若シ右検査官員ヨリ疑問等アルキハ會所ノ役員及ヒ仲買人等ハ逐一答辨ヲ爲サ、ルヘカラス

第十八條 諸願届其他ノ書類上達ノ定規

第一節 (本條明治十五年第二十六號布告ヲ以テ如左改正)

會所ヨリ農商務卿ニ業出スヘキ文書中諸願ハ一通宛ニシテ其差出方ハ地方廳ヲ經由ス可シ

第十九條 罰則

第一節 (明治十三年第十九號布告ヲ以テ如左改正)

會所ノ役員及ヒ株主仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タル者株主仲買人條例ニ背犯シタルヲ不問ニ措キ又ハ背犯セシメタル實證アルキハ役員并ニ本人トモ其輕重ニ依リ三十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二節 (明治十六年第三十號布告ヲ以テ本節ヲ删除セラル)

第三節 (明治十三年第十九號布告ヲ以テ從前ノ第二節ヲ以テ本節ニ作ル則チ如左)

官員検査ノ節簿冊書類ヲ差出スコトヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辨ヲ爲サ、ル者アルトキハ頭取又ハ其主任者ハ五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ (全上從前ノ第三節ヲ改メテ第四節ヲ置キ更ニ明治十五年第二十六號布告ヲ以テ之ヲ改正則チ如左)

第四節 會所ノ規約ニ背犯シタル役員株主仲買人ヲ會社限リ處分スルハ之ヲ除名スルカ或ハ過怠料ヲ取立ルニ止マルモノトス但シ其過怠料ハ株主身元金ノ高ニ超ルヲ得ス

第十五節 株式取引所條例

明治十一年五月第八號

明治七年十月第七號布告株式取引所條例相廢シ更ニ別冊ノ通相定候條此旨布告候事

別冊 (明治十四年第三十一號布告ヲ以テ本條例中內務省及農商務省農商務卿トアルハ農商務省農商務卿ト改正ス)

株式取引所條例

(罰) 三十圓以上  
千圓以下

(罰) 五十圓以下



株式取引所條例

第一章 株式取引所創立及開業ノ事

第一條 株式取引所ハ株式仲買人ノ集會シテ日本政府ノ諸公債證書及日本政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行并ニ諸會社ノ株券等ヲ取引スル所ナリ而シテ之ヲ創立セシトスルモノハ其創立願書ハ其地方長官ノ與書ヲ受ケ之ヲ農商務省ヘ差出シ農商務卿ノ允許ヲ請フヘシ

第二條 此條例ヲ遵奉シテ株式取引所ヲ創立スルニハ其發起人少クとも十名以上ニシテ其資本金額ハ十萬圓(明治十三年第五十七號布告ヲ以テ二十萬圓ヲ十萬圓ト改正)以上タルヘシ而シテ其資本金總高ノ半數以上ニ當ル金額ヲ右發起人總員ニテ出ス可シ

第三條 農商務卿ハ此創立願書ヲ受領シテ其許可ス可キヤ否ヤヲ考案シ或ハ之ヲ許可シ或ハ之ヲ許可セサルコトアル可シ

第四條 發起人右創立許可ヲ受クルニ於テハ諸般ノ規程ヲ議定シテ創立證書及定款申合規則各二通ヲ製シ株主一同記名調印ノ上地方長官ノ與書證印ヲ受ケ之ヲ農商務省ヘ差出ス可シ

但創立證書及ヒ定款等ハ創立許可ヲ得タル日ヨリ遅クとも三ヶ月間ニ差出スヘシ若シ右期限内ニ差出ササルキハ其許可ハ無効ニ屬ス可シ

第五條 右創立證書及ヒ定款申合規則ハ左ノ主旨ニ從ヒ各取引所ノ便宜ニ依テ之ヲ制定スヘシ然レモ必ス此條例ノ旨趣ニ牴觸スルヲ得サルヘシ

創立證書ハ取引所ヲ創立スルニ付キ株主一同決定シタル細領ノ條件及ヒ其責任ノ有限或ハ無限有限責任トハ負債償却ノ義務ニ於テ該取引所ノ株券限リ或ハ其株券ノ二倍等其限ヲ明記アルヲ云ヒ無限責任トハ株主一同相ヒ連帶シテ各自ノ資力ヲ竭クスニ至ルヲ云シ必ス之ヲ遵守踐行ス可キ旨ヲ政府ニ對シ保證スルモノナリ

定款ハ取引所ヲ創立スルニ付キ株主一同其取引所ノ便宜ヲ商量決定シテ互相確守スヘキ約束條款ヲ記載スルモノナリ

申合規則ハ賣買取引ニ付キ賣主買主双方ノ間ニ於テ取引所ニ對シ確守ス可キ規程ヲ記載スルモノナリ

第六條 農商務卿ハ右創立證書及條款申合規則ヲ檢按シテ不都合ナシト思考スルニ於テハ之ニ與書證印ヲ加ヘ免狀ト共ニ之ヲ其取引所ニ下付シテ開業ヲ許スヘシ

但爾后取引所ノ都合ニヨリ其創立證書及ヒ定款申合規則ヲ改正加除セントスルキハ其時々農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ

第七條 取引所ハ開業前ニ於テ其營業保證ノ爲メ資本金高ノ三分二以上ニ當ル現金又ハ公債證書(大藏省ヨリ指定スル價格ヲ以テ)ヲ大藏省ニ差出預置クヘシ

但シ開業免狀ヲ得タル後滿五ヶ月ニ至リ猶本文ノ手續ヲ爲サス又ハ開業セサルコトアルトキハ其免狀ハ取消タルヘシ

第八條 取引所ハ開業ノ日ヨリ滿五ヶ年ノ間其營業ヲ保續スルヲ得ヘシ右滿期ニ至リ

株式取引所條例



尙ホ營業セント欲スルモ更ニ允許ヲ受ク可シ

第九條 取引所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀并ニ創立證書ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告ス可シ

第二章 株主並ニ株手形ノ事

第十條 各株主ヨリ入金シタル金額ハ分テ百圓以上一定ノ株式ト爲シ株手形ヲ製シ其株主タルモノヘ之ヲ交付スヘシ

第十一條 株主ハ其取引所ノ營業時間ハ何時ニテモ其金員及ヒ諸帖簿ヲ檢閲スルヲ得ヘシ

第十二條 株主ハ何等ノ事故アルトモ其取引所解散ノ期ニ至ラサル間ハ其株金ヲ取戻スルヲ得ス

第十三條 株主ハ其取引所ノ承認ヲ得タル上其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓渡シヲ爲スルヲ得ヘシ

第十四條 株主タルモノハ其取引所ノ役員タラサル時間ハ何時ニテモ仲買人タルヲ得ヘシト雖モ仲買人トナリタルモ仲買人ノ規則ヲ遵守ス可シ而シテ賣買上ニ於テハ之ヲ仲買人ト稱ス可シ

第三章 仲買人ノ事

第十五條 (本條明治十三年第二十號布告ヲ以テ如左改正)

丁年ニシテ仲買人トナラント欲スル者ハ次條ニ定ムル身元金ヲ差入レ取引所ノ承認ヲ得タル上仲買人ト爲ラントスル願書ヲ農商務卿ニ捧ケ其認許ヲ受クヘシ  
仲買人ハ他人ノ委託ヲ受ケテ賣買取引ヲ爲スト自己ノ爲メニ爲ストヲ問ハス取引所ニ對シテハ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負フ可シ

第十六條 (本條明治十三年第二十號布告ヲ以テ如左改正)

株式仲買人ノ身元金ハ貳百圓以上金銀仲買人ノ身元金ハ千圓以上タル可シ

第十七條 仲買人ハ丁年者ニ限ルヘシ且シ一度身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ其負債ノ義務ヲ免レタル實證アルニアラサレハ入社ヲ許サ、ル可シ

第四章 役員ノ事

第十八條 取引所ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

頭取 肝煎

其他支配人書記方計算方等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ取引所ノ便宜ニ任ス

第十九條 (本條明治十三年第二十號布告ヲ以テ如左改正)

取引所ノ肝煎ハ五名以上トシ株主ノ總會ニ於テ取引所ノ定規ニ從ヒ現ニ三十株以上ヲ所持スル株主中ヨリ之ヲ撰舉シ肝煎ハ其同僚中ヨリ頭取一人ヲ推舉シ其住所姓名年齢等ヲ農商務卿ニ具申シテ其認許ヲ受クヘシ農商務卿ハ時トシテハ其改撰ヲ命ズルヲアル可シ



支配人以下ノ役員ハ頭取肝煎ノ衆議ニ依リ株主又ハ株主ニアラサル者ヲ撰任スルヲ得

第二十條 取引所役員ノ在職年限ハ一ケ年タルヘシ

第二十一條 頭取ハ取引所ノ事務ヲ總轄シ取引所一切ノ責ニ任スヘシ

第二十二條 頭取肝煎ハ其仲買人賣買上ノ差違レテ解キ違約者ヲ處分スルノ責任アリトス

第二十三條 取引所諸役員職務上ノ責任權限等ハ其取引所ニ於テ適當ノ規程ヲ設ケ之ヲ定款中ニ記載ス可シ

第五章 一般ノ規程

第二十四條 外國人ヲ取引所ノ株主並仲買人ト爲スヲ得ス

第二十五條 取引所ニ於テ差式賣買取引ヲ爲ス者ハ其取引所ノ承認ヲ經タル仲買人ニ限ルヘシ

第二十六條 (本條明治十四年第二十  
八號布告ヲ以テ削除)

第二十七條 取引所ノ役員タル者ハ其取引所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナル可ラス

第二十八條 取引所ノ役員及ヒ仲買人ハ他ノ株式取引ヲ爲ス會社ノ役員又ハ仲買人或ハ他ノ銀行並ニ諸會社(官許ヲ經タル  
ル合本會社)ノ役員タルヲ得ス

第二十九條 取引所ハ其營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外地所家屋ヲ所持スル

ヲ許サヌ又之ヲ賣買ス可カラズ

第三十條 政府ニ於テ賣買ヲ許シタル諸公債證書及ヒ政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行並ニ諸會社ノ株券等ノ賣買ヲ除クノ外此取引所ニ於テ一切他ノ物件ヲ賣買シ他ノ事業ヲ營ムヘカラス

(明治十三年第五十七號布  
告ヲ以テ左ノ但書追加)

但シ本條ニ掲載セサル諸會社ノ株券ト雖モ其營業確實ナリト認ムルモノハ農商務卿ニ於テ其賣買ヲ許可スルヲ得

第三十一條 取引所ハ第一章第七條ニ掲ケタル營業保證ノ爲メ農商務省ヘ預クヘキ公債證書ヲ除クノ外自ラ諸公債證書諸株券等ヲ賣買シ又ハ之ヲ所持ス可カラズ

第三十二條 取引所ハ諸證據金ヲ使用スヘカラス又貸附金ヲ爲スヘカラス

第三十三條 (本條明治十五年第六十四  
號布告ヲ以テ左改正)

取引所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ取引所ノ取引上ニ於テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トシ其者ノ證據金及ヒ身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルニ止ルヘシ而シテ仍ホ其損失ヲ償フコト能ハサルトキハ取引所ニ於テ其責ニ任スヘシ

第三十四條 取引所ハ其取引所ニ於テ株式等ノ賣買ヲ認許シタル銀行并ニ諸會社及ヒ新立會社ノ株式ヲ賣買スルノ依頼ヲ受クルト雖モ其事情ニヨリ之ヲ停止シ又ハ之ヲ許否スルノ權ヲ有ス



第三十五條 取引所ノ諸願伺届又ハ諸證書約定書及ヒ往復ノ文書等取引所一般ニ關スル事件ハ頭取肝煎等之ニ記名調印スヘキハ勿論ナレモ必ス其取引所ノ名ヲ署シ取引所ノ印ヲ捺ス可シ

第六章 賣買取引ノ事

第三十六條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現場ト定期ノ二様ニ分チ必ス現物ノ受渡ヲ爲スヘシ

但シ三ヶ月ヨリ永キ定期ノ約定チナスヘカラス

第三十七條 凡取引所ニ於テ賣買ノ約定ヲ爲シ其定期ニ係ルモノハ約定金高百分ノ五宛ニ下ラサル證據金ヲ賣買双方ヨリ差入ル可シ而シテ其期限中相場ノ高低等ニヨリテハ追證據金増證據金等ヲ差入シムルコトヲ得ヘシ

第三十八條 約定取引ノ期限ニ至ツテハ其品種ニ依リ記名書替等其他受渡シノ手續ハ政府又ハ諸會社ノ成規ニ照ラシ之ヲ履行ス可シ

第三十九條 約定期限内ニ於テ之ヲ轉賣スルヲ得ヘシト雖モ其期日ニ至レハ必ス現物ノ受渡ヲ爲スヘシ

第四十條 (本條明治十五年第六十四號布告ヲ以テ如左改正)

賣買主ニ於テ諸證據金ノ差入レヲ怠リ又ハ期限ニ至リテ其約定ヲ履行セサル者ハ都テ之ヲ違約人ト爲スヘシ

第七章 手数料ノ事

第四十一條 (明治十八年第三十七號布告ヲ以テ本條如左改正)

取引所ニ於テ賣買者双方ヨリ領收スヘキ手数料ハ取引所ニ於テ相當ノ額ヲ定メ大藏卿農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ

第四十二條 手数料ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關係スル他ノ債主ニ先ツテ之ヲ收受スルコトヲ得ヘシ

第八章 検査ノ事

第四十三條 農商務卿ニ於テ要用ト思考スルトキハ何時ニテモ官員ヲ派遣シ或ハ其地方官長ヘ達シテ其取引所ノ業体及ヒ金銀其他諸帖簿等ヲ検査セムルコトアルヘシ

第九章 帖簿ノ事

第四十四條 取引所ハ毎日取扱ノ事項ハ勿論金銀ノ出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記ノ方法ニ於テ農商務卿ノ差圖アルキハ其差圖ニ從フ可シ

第四十五條 取引所ニ於テ制定使用スル處ノ諸帖簿ハ其名目用法ヲ詳記シ之ヲ農商務省ヘ届出ツ可シ

第十章 諸報告ノ事

第四十六條 取引所ハ賣買實際ノ報告及金銀出納表其他役員ノ進退並株主仲買人ノ姓

株式取引所條例



名等ヲ農商務卿ノ指命スル處ニ從ヒ時々報告ヲ爲スヘシ

第十一章 納税ノ事

第四十七條 此取引所ハ追テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ収税規則ニ遵ヒ相當ノ税金ヲ納ムヘシ

(明治十一年九月三十日布告第三十號)

本年<sup>五</sup>第八號布告株式取引所條例第十一章ニ掲載スル税額ノ儀ハ手数料其他現收セル總金高十分ノ一ト相定メ本年七月ヨリ徴收條條此旨布告候事

但シ納期ハ一ヶ年兩度ニ區分シ前半分ハ七月三十一日限リ後半分ハ一月三十一日限リ其管轄處へ可相納事

(明治十五年十二月二十七日布告第六十七號)

明治十一年<sup>九</sup>第三十號布告株式取引所税額ノ儀手数料其他現收セル總金高十分ノ一トアルヲ賣買手数料總金高十分ノ一ト改ム但來十六年四月一日ヨリ施行ス

第十二章 罰則

第四十八條 取引所ノ役員及ヒ株主並ニ仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タルモノ株主並仲買人ノ此條例ニ背戾シタルヲ不問ニ措キ又ハ背戾セシメタル實證アルトキハ

役員並ニ本人共其事ノ輕重ニ依リ三十圓ヨリ少ナカラズ千圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

(罰) 三十圓以上 千圓以下

第四十九條

(明治十五年第六十四號布告ヲ以テ如左改正)

官員檢査ノ節取引所役員及ヒ仲買人等簿冊書類ヲ差出スヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辨ヲ爲サ、ル者アルトキハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科セスヘシ

(明治十五年第六十四號布告ヲ以テ第五十條追加)

第五十條 取引所ノ規約ニ背犯シタル役員及ヒ株主仲買人ヲ取引所限リ處分スルハ之ヲ除名スルカ或ハ過怠料ヲ取立ツルニ止マルモノトス

但其過怠料ハ株金身元金ノ高ニ超ユルヲ得ス

第十六節 米穀金銀貨諸物品限月賣買罰則

明治十三年四月十五日布告第二十一號

法律定規ニ遵ヒ官許ヲ得タル米商會所株式及ヒ橫濱取引所外若クハ内タリ<sup>定規ヨリ起リタ</sup>米穀并金銀貨幣及株式ノ限月若クハ<sup>現場</sup>現場<sup>定規ヨリ起リタ</sup>賣買其他之ニ類似シタル取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ無効ト爲スヘシ

但本條ヲ犯シタル者ヲ告發シタル者ニハ其告發ニ因テ科シタル罰金ノ全部ヲ給ス其自ラ犯シタル者事未タ發覺セサル前ニ於テ自首シタルトキハ其罪ヲ問ハス

明治十三年九月二十二日太政官達 第四十九號

使 府 縣

米穀金銀貨諸物品限月賣買罰則

(罰) 五十圓以上

(罰) 十圓以上 三百圓以下



近來竊ニ製茶砂糖反物薪炭等種々ノ物品ヲ以テ限月若クハ現場賣買類似ノ商業ヲ爲ス者有之趣右ハ總テ本年四月第二十一號布告ニ依リ處分スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相違候事

明治十五年八月十九日布告 第四十六號

米商會所及ヒ株式取引所ノ賣買ニ不正惡弊アルカ又ハ賣買取引上ノ景況穩當ナラサル爲メ公共ニ妨害ヲ及ホスト認ムルトキハ農商務卿ハ其會所及ヒ取引所又ハ仲買人ノ營業ノ一部又ハ全部ヲ停止若クハ禁止シ又ハ役員ヲ退罷セシムルコトアルヘシ

但本年第二十六號布告米商會所條例追加第二十條ハ削除ス

明治十六年一月十五日布告 第四號

米商會所株式取引所ノ限月若クハ現場賣買ノ方法ニ倣ヒ又ハ之ニ類似ノ方法ニ用ヒ諸物品ノ賣買取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ總テ明治十三年四月第二十一號布告ニ據リテ處分スヘシ

明治十六年八月六日布告 第二十九號

米商會所及株式取引所ノ仲買人ニシテ竊カニ米穀並ニ金銀貨幣公債證書株式ノ限月若クハ現場賣買起リテ賣買又ハ其類似ノ取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ五拾圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ米商會所條例及株式取引所條例ノ手續ヲ爲サシム

第十七節 國立銀行條例

(前) 明治十五年八月十九日布告

明治九年八月一日布告 第一百六號

明治五年十一月第三百四十九號布告國立銀行條例ノ儀詮議ノ次第有之別冊ノ通改正致シ舊條例ハ自今相應シ候條新ニ國立銀行ヲ創立セントスル者ハ勿論從來舊條例ヲ遵奉シテ創立シタル者ト雖モ右改定條例ニ準據シ大藏省へ願出ノ上其免許ヲ受候様可致此旨布告候事

別冊

國立銀行條例目次

- 第一章 第一條ヨリ第 銀行創立ノ方法、創立證書銀行定款ノ差出方及ヒ開業免狀ノ下  
十六條ニ至ル 附并ニ諸役員撰任方法等ノ事ヲ明カニス
- 第二章 第十七條ヨリ第 銀行資本金ノ制限、公債證書銀行紙幣交収ノ割合并ニ其手續及  
二十七條ニ至ル ヒ引換準備金等ノ事ヲ明カニス
- 第三章 第二十八條ヨリ第 株式ノ分割、資本金入金ノ割合、株式没入、株主牒ノ記入、  
四十四條ニ至ル 株式ノ賣買及ヒ資本金増減等ノ事ヲ明カニス
- 第四章 第四十五條ヨリ第 銀行紙幣ノ製造及ヒ種類、其通用ノ能力、引換場所及ヒ燒捨  
五十一條ニ至ル 等ノ事ヲ明カニス
- 第五章 第五十二條ヨリ第 銀行營業ノ本務、公債證書其他ノ賣買并ニ貸附金ノ制限、利  
六十一條ニ至ル 息ノ制限、銀行紙幣并ニ株式抵當ノ制禁及ヒ預リ金準備等ノ事ヲ明カニス

國立銀行條例



第六章

第六十二條ヨリ第

銀行名號ノ掲牌、社印ノ書體、諸手形ニ於ケル銀行ノ負責、

所有物ノ明細帳及ヒ營業時間等ノ事ヲ明カニス

第七章

第六十七條ヨリ第

株主總會ノ定規并ニ格段決議ノ順序、諸簿冊ノ點檢及ヒ檢查

ノ手續、諸報告差出方等ノ事ヲ明カニス

第八章

第七十九條ヨリ

利益金分配ノ方法及ヒ積金割合ノ規定ヲ明カニス

第九章

第八十一條ヨリ第

銀行ハ官廳ノ爲換方ニ從事スル事并ニ外國銀行ト聯合スヘカ

ラサル事ヲ明カニス

第十章

第八十三條ヨリ第

銀行役員職務上一般ノ制禁及ヒ其負責ノ事ヲ明カニス

第十一章

第八十八條ヨリ第

紙幣及ヒ諸手形類ノ發行並ニ銀行紙幣ノ贋造描改及ヒ其版

板ノ彫刻等禁止ノ事ヲ明カニス

第十二章

第九十二條ヨリ

銀行ニ於テ其紙幣引換ヲ拒ミシ時ノ處分、特別監督役跡引受

人等ノ取扱方並ニ公債証書ノ没入及ヒ紙幣引換等ノ手續ヲ明カニス

第十三章

第九十四條ヨリ第

銀行平穩鎮店ノ手續及ヒ其紙幣引換方等ノ事ヲ明カニス

第十四章

第九九條ヨリ

銀行訴訟ノ取扱及ヒ罰金處分ノ事ヲ明カニス

第十五章

第一百一條

銀行納税ノ事ヲ明カニス

第十六章

第一百二條

條例ノ更正及ヒ廢止ノ事ヲ明カニス

目次

國立銀行條例

國立銀行ハ政府ヨリ發行スル公債證書ヲ抵當トシテ之ヲ大藏省ニ預ケ紙幣寮ヨ

リ銀行紙幣ヲ受取リ引換ノ準備金ヲ設ケ之ヲ發行シ以テ其業ヲ營ムモノナリ今

之ヲ創立スルニ付大日本政府ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一章 銀行創立ノ方法創立証書銀行定款ノ差出方及ヒ開業免狀ノ下付並ニ諸役

員撰任方法等ノ事ヲ明ニス

第一條 此條例ヲ遵奉シ國立銀行ヲ創立セント欲スル者ハ何人ヲ論セス〔外國人ヲ除  
クノ外〕五人以上結合シタル人々成規第一條ニ掲クル所ノ手續ヲ以テ其創立願書ヲ  
大藏省ノ紙幣寮ヘ差出ス可シ紙幣頭之ヲ檢按シ相當ト思慮スルニ於テハ之ヲ大藏卿  
ニ稟議シテ其銀行創立証書及ヒ銀行定款ノ差出方ヲ命スヘシ

第二條 右紙幣頭ノ命ヲ受ケタル人々ハ各其姓名ヲ創立證書ニ記入シ諸般ノ手續ヲ經  
テ其創立証書ニ紙幣頭ノ承認許可ヲ受クルニ於テハ此條例ニ規定セル箇條ヲ遵奉シ  
以テ國立銀行ヲ創立スルヲ得ヘシ而シテ其創立証書ニ掲載スヘキ件々ハ左ノ如シ

第一 銀行名號

但シ此名號ハ紙幣頭ノ承認許可ヲ得テ之ヲ公稱スヘシ

第二 銀行ノ本店及ヒ支店(若シ之アラハ)ヲ置ヘキ場所

第三 銀行資本金額及ヒ株數

國立銀行條例



第四 銀行營業ノ年限

第五 株主ノ姓名、住所、屬族、職業（若シ之アラハ）及ヒ其引受タル株式ノ番號、箇數

第六 此創立證書ハ此條例ヲ遵奉シ銀行ノ事業ヲ營ナミ株主一同ノ利益ヲ謀ル爲

ノ取極メタル旨

第三條 右創立證書ハ其株主等各記名調印シ之ニ壹錢ノ印紙ヲ貼用シ其管轄地方長官ノ奧書鈐印ヲ受ケタルモノタルヘシ斯ク從事シタル創立證書ハ當人ハ勿論其相續人後見人タル者ニ於テモ右創立證書ノ箇條ヲ確守シ此條例成規ノ旨趣ヲ遵奉スル者トスヘシ

第四條 右創立證書ノ箇條ヲ更正スルニハ其社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認許可ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルコトヲ得ヘシ但シ其事件ハ即チ資本金ノ増減及ヒ本店轉移或ハ支店開設等ノ如キ是ナリ而シテ右ノ如ク更正シタル箇條ハ最初右創立證書中ニ記載セシ箇條ト同ク確守スヘシ且ツ右ノ箇條ハ其其創立證書ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ミ又ハ添附シ置クヘシ

但シ右ノ外創立證書中ノ箇條ヲ更正スルコトヲ得サルヘシ  
第五條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ右創立證書ニ必ズ銀行定款ヲ添フヘシ而シテ此定款ハ即チ成規第六條ニ掲グル所ノ雛形ニ準據シ其箇條ヲ悉皆（又ハ若干）記載シ創立證書ト同様株主一同之ヲ記名調印シ壹錢ノ印紙ヲ貼用シタルモノタルヘシ

但シ此定款ハ唯紙幣頭ノ承認ヲ得紙幣寮ノ官印ヲ受クルノミニシテ其管轄地方長官ノ奧書鈐印ヲ乞フニ及ハサルヘシ

第六條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ銀行定款中ニ掲ケタル諸款ヲ更正増補シ及ヒ之ヲ廢止スルコトヲ得ヘシ而シテ右ノ如ク更正増補シタル箇條ハ最初右定款中ニ記載セシ箇條ト同ク確守スヘシ且右ノ箇條ハ其定款ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ミ又ハ添附シ置クヘシ

第七條 創立證書并ニ銀行定款ハ本紙壹通正寫ニ通都合三通宛ヲ製シ而シテ創立證書

ハ其管轄地方長官ノ奧書鈐印ヲ受ケ銀行定款ト共ニ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ  
第八條 紙幣頭ハ右創立證書及ヒ銀行定款ヲ領受シ其銀行株主等此條例第三十條ニ規定スル所ノ割合ヲ以テ資本金ノ入金ヲナセシヤ否ヤノ狀實ヲ検査シ且株主等ノ正不正其他百般ノ事務ヲ視察シ不都合アルニ非レハ之ヲ大藏卿ヘ稟議シ開業免狀ヲ下附スヘシ

但シ創立證書銀行定款其本紙ハ記録寮ニ納メ正寫壹通ハ紙幣寮ノ簿冊ニ綴込ミ壹通ハ紙幣寮ノ官印ヲ鈐シテ開業免狀ト共ニ之ヲ其銀行ヘ下附スヘシ

第九條 銀行ハ右ノ開業免狀ヲ得テ始テ一團ノ會社トナリ何々國立銀行ト公稱シ此條例成規ニ規定シタル箇條ヲ履行シテ國立銀行ノ事業ヲ經營スルヲ得ヘシ

第十條 此條例ニ從ヒ紙幣頭ノ記名調印シタル開業免狀、創立證書、銀行定款ハ何レノ



裁判所何レノ官廳ニ於テモ之ヲ正確ナル證據トシテ採用セラル、ヲ得ヘシ

第十一條 創立証書、銀行定款ノ寫又ハ版本等〔用意分配ノ手續了ルノ後〕各株主ヨリノ要需アルニ於テハ銀行ニ於テ定ムル所ノ代價ヲ以テ之ヲ付與スヘシ若シ銀行右付與ノ事ヲ怠慢スルニ於テハ銀行ハ其怠慢時間一日ニ付五圓ニ踰ヘサル罰金ヲ納ムヘシ

第十二條 (明治十六年第十四號 布告ヲ以テ如左改正)

此條例ヲ遵奉シテ創立スル銀行ハ鎖店其他ノ事故アルニ非レハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ二十ヶ年ノ間其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ右期限後ハ更ニ私立銀行ノ資格ヲ以テ大藏卿ノ許可ヲ受ケ其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ然レハ紙幣發行ノ特許ヲ有シ國立銀行ノ資格ヲ以テ營業ヲ繼續スルコトヲ許サス

第十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ開業免狀ヲ得ルノ日ヨリ社印ヲ刻シ諸役員ノ印信ト共ニ大藏省ノ紙幣寮國債寮出納寮ノ三寮ヘ差出スヘシ而シテ銀行ノ諸出願ヲ始メ訴訟、約定、保證及ヒ報告往復其他一切ノ文書ニ至ルマテ都テ其社號ヲ用ヒ社印ヲ鈐スヘシ

但シ報告、約定、保證等ノ如キ文書ニハ頭取取締役及支配人ノ名印ヲモ加用スヘシ第十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ頭取取締役ヲ始メ支配人、書記方、出納方、計算方、簿記方其他適宜ノ役員ヲ選任シ其職制權限進退及ヒ頭取、取締役交代ノ手續等諸般ノ規約ヲ取極メ之ヲ銀行定款中ニ掲載スヘシ

第十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ取締役ハ必ス自カチ以テ成規第五十一條ニ規定スル所ノ株數ヲ所持シタル者ニシテ其總員ハ五人以上(内一人ハ頭取)タルヘシ而シテ其四分ノ三ハ其銀行創立ノ地ニ於テ上任前一ヶ年以上在任シタル者ニ限ルヘシ

第十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役ハ上任ノ節ニ其地方長官ノ面前ニ於テ誓詞ヲ爲シ其事務ヲ施行スルニ忠實公平ヲ以テシ且此條例中ノ要旨ニ決シテ背戻セサル旨ヲ認メ其管轄地方長官ノ與書鈐印ヲ受ケ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ紙幣頭ハ之ヲ領受シテ寮中ノ簿冊ニ綴込ムヘシ

第二章 銀行資本金ノ制限、公債證書銀行紙幣交収ノ割合并ヒニ其手續及ヒ引換準備金等ノ事ヲ明テカニス

第十七條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ資本金額ハ拾萬圓ヨリ下ルヘカラス尤人口拾萬人以上ノ地ニ於テハ貳拾萬圓未滿ノ資本金ヲ以テ創立スルヲ許サス

但時宜ニ依リ紙幣頭差支ナシト思考シテ大藏卿ヘノ稟議ヲ經ルニ於テハ五萬圓以上十萬圓未滿ノ資本金ニテモ創立ヲ許スコトアルヘシ

第十八條 (明治十一年第五號布告ヲ以テ如左改正)

此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル紙幣ハ資本金十分ノ八タルヘシ然レハ大藏卿ハ全國ニ發行スヘキ銀行紙幣ノ總額ヲ制限スルコトアルヘシ故ニ新タニ創立ヲ願フ

國立銀行條例



者アルハ其資本金額ヲ節減シ或ハ其創立ヲ許可セサルコアルヘシ尤モ發起人ノ請願ニ依テハ特ニ其發行紙幣ノ割合ヲ節減シテ其創立ヲ許可スルコアルヘシ而シテ各銀行ハ其發行紙幣ノ高ニ應シ四朱以上利付ノ公債證書ヲ時價（時相場ヲ斟酌シ大藏省ニ於テ定ムル所ノ價格）ヲ以テ右紙幣ノ抵當トシ之ヲ出納局ニ預クヘシ

但公債證書ノ時價低下スルキハ其銀行ニ命シテ更ニ他ノ公債證書ヲ納メシメ其發行紙幣ノ額ニ充タシムヘシ

第十九條 右公債證書ハ此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル紙幣ノ抵當ナルヲ以テ出納頭ハ其銀行永續中ハ正ニ之ヲ預リ置クヘシ而シテ若シ此公債證書ノ内國債察ニ於テ施行スル所ノ公債支消ノ抽籤ニ當ル者アレハ銀行ハ他ノ公債證書ヲ納メテ之ヲ引換フヘシ

第二十條 （明治十六年第十四號）  
和告ヲ以テ如左改正） 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其紙幣下付高四分ノ一ニ相當スル通貨ヲ以テ發行紙幣引換ノ準備ニ充ツヘシ

第二十一條 此條例第四十條第四十二條ニ掲グル所ノ手續ヲ以テ資本金額ヲ増減スルコアルニ於テハ前條ニ掲グル所ノ公債證書并ニ銀行紙幣引換ノ準備金モ亦其割合ニ從テ之ヲ増減スヘシ

第二十二條 （明治十六年第十四號）  
和告ヲ以テ削除）

第二十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取支配人ハ公債證書ヲ出納察ヘ納メ其受取證書ヲ領受シタル後同額ノ銀行紙幣ヲ各種ノ種類ニテ紙幣察ヨリ受取リ之ニ頭取支配人等ノ名印ヲ加用シ以テ銀行營業ノ資本ト爲スヘシ

第二十四條 右公債證書ノ請取證書ハ紙幣頭出納頭ノ連署調印シタル者タルヘシ尤此公債證書ノ勘査ニ付テハ該兩察頭互ニ其簿冊ヲ開キ須ク注意ヲ盡シ詳明ニ之ヲ記入シ又互ニ之ヲ點檢スルヲ得ヘシ

第二十五條 此條例第十八條ニ掲グル所ノ出納頭ニ預ケタル公債證書ハ毎一年一度（又ハ數度）銀行ノ役員出納察ニ至リテ之ヲ點檢シ其銀行ノ元帳ニ照ラシテ其種類員額等相違ナキニ於テハ改人ハ改濟ノ旨ヲ書面ニ認メ之ヲ出納頭ニ差出スヘシ

但右改人出納察へ出ル時ハ其銀行頭取ノ委任狀ヲ持參スヘシ

第二十六條 右公債證書ハ銀行ノ都合ニ依リ四朱以上利付ノ他ノ公債證書ヲ以テ之カ引換ヲ申請シ紙取頭ノ考案ニ於テ差支ナシトセハ其趣ヲ出納頭へ通知シテ之ヲ交換下付スヘシ

但其引換へタル趣並ニ其公債證書ノ種類金額等ハ紙幣出納兩察ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第二十七條 右公債證書ヨリ生スル年々ノ利息ハ其銀行之ヲ受取リ毎年銀行ノ利益精算勘定ノ内ニ加ヘテ之ヲ株主一同へ分配スヘシ

國立銀行條例



(明治十六年第十四號布告ヲ以テ第二十七號但書削除)

第三章 株式ノ分割、資本金入金ノ割合、株式没入、株主牒ノ記入、株式ノ買賣及ヒ  
資本金増減等ノ事ヲ明カニス

第二十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ資本金ハ之ヲ株式ニ分割シ百圓又ハ五十圓又ハ  
貳十五圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ尤モ一株百圓ニ分配シタル銀行ノ株式ハ悉皆百圓ノ  
金高タルヘシ五十圓貳十五圓ノ株式モ亦之ニ準スヘシ

但拾萬圓以上ノ資本金ヲ以テ創立スル銀行ナレハ百圓又ハ五十圓ヲ以テ一株ト定  
ムヘシ又十萬圓未滿五萬圓マテノ資本金ヲ以テ創立スル者ナレハ五十圓又ハ二十  
五圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ

第二十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ各自ノ望ニ任セ幾株ニテモ之ヲ所  
持スルヲ得ヘシ而シテ其株主ハ何レノ屬族何レノ職務アルコト拘ハラズ總テ其所持株  
高相當ノ權利ヲ有シ其銀行營業ニ付テノ損益ハ株高ニ應シテ之ヲ負擔スヘシ

但大藏省ノ官員其他ノ官員トモ此銀行ノ事務ニ關係アル者ハ株主トナルヲ許サス  
第三十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等ハ開業免狀ヲ得其業ヲ始ムル前ニ於テ少ナ  
クトモ資本金總額十分ノ五ハ必ス之ヲ銀行ニ入金スヘシ而シテ他ノ十分ノ五ハ資本  
金總額ノ十分一ヲ以テ月賦ト定メ開業免狀ヲ得タル月ノ翌月ヨリ入金スヘシ

第三十一條 右資本金ノ月賦入金毎ニ其銀行ノ頭取支配人ハ成規第十三條ニ準據シ資  
本金集合高届書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

第三十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等株金ノ月賦入金ヲ怠ル時ハ頭取取締役等  
ニ於テ其株ヲ没入シ競賣其他ノ手續ヲ以テ三十日以内ニ之ヲ賣拂ヒ而シテ其入用ヲ  
差引キ尙ホ過金アレハ之ヲ元株主ヘ返還スヘシ尤モ此競賣ニ於テ右株式ヲ買取りタ  
ル株主モ亦他ノ株主同様ノ權利ヲ有スヘシ

第三十三條 右競賣ニ於テ其株ヲ買フ者アツタル時ハ是迄入金シタル金高ハ銀行ニ没  
入シテ其株ヲ消スヘシ尤モ此消株ニ依リ資本金額此條例第十七條ニ規定スル所ノ制  
限ヨリ減少スルキハ頭取取締役等ハ三十日間ニ之ヲ補ヒ定限ノ高ニ滿タシムヘシ若  
シ頭取取締役等之ヲ怠ルキハ紙幣頭ハ其銀行ニ鎖店ヲ申渡シ更ニ跡引受人ヲ命スヘ  
シ

第三十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ株主牒ヲ製シ左ノ要件ヲ記載スヘシ

第一 各株主ノ姓名、住所、屬族、職業(若シ之アラハ)

第二 各株主ノ所持セル株式ノ番號、簡數

第三 入社ノ年月日

第四 退社ノ年月日

第三十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ創立證書ニ記名スル者ハ即チ其銀行ノ株主タル  
カ故ニ前條ニ規定セル株主牒ニ各其姓名ヲ登記スヘシ且其他何人ニテモ(外國人ヲ

國立銀行條例



除クノ外ノ爾後其銀行ノ株主タルノ同意シ隨テ其姓名ヲ株主牒ニ登記シタルモ  
ノハ又同シ其銀行ノ株主タルノ權利アルヘシ

第三十六條 右株主牒ハ銀行其開業免狀ヲ領受スルノ即日ヨリ之ヲ其本店ニ備置クヘ  
シ而シテ此株主牒ハ營業時間ナレハ何時ニテモ株主等之ヲ檢閲スルヲ得ヘシ若シ銀  
行其檢閲ヲ拒ミタルトハ株主ハ其趣ヲ書面ニ認メ之レヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ紙  
幣頭ヘノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ官吏ヲ派遣シ其本店  
ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ壹箇年中日數三  
十日ニ過キサレハ何時ニテモ右檢閲ヲ停止スルコトヲ得ヘシ

第三十七條 右株主牒ニ何人カ故ナク姓名ヲ記入セラレ又ハ妄リニ除名セラレ又或ハ  
退社セシ所以ノ記載ヲ故ナク遷延セラレタル等ノ事アリテ其人ノ力爲メ妨碍ヲ受ク  
ルニ於テハ其事由ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ紙幣頭ヘノ照會ヲ乞フ  
ヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ銀行ニ命シテ之ヲ修正セシムヘシ

第三十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株式ハ成規第二十七條第三十條ニ規定スル所ノ  
手續ヲ以テ之ヲ賣買讓與スルコトヲ得ヘシ

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ壹箇年中日數三  
十日ニ過キサレハ何時ニテモ其株式ノ賣買讓與ヲ停止スルコトヲ得ヘシ

第三十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主死去スルノ際名代人ヲ以テ株式ヲ賣却讓與  
スル等ノ事アルトキハ假令ヒ此名代人ハ其銀行ノ株主ニ非スト雖モ記名調印等ノ事ニ  
至リテハ猶ホ株主同儕ノ權利ヲ有スヘシ

第四十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テ  
ハ其資本金額ヲ増加スルコトヲ得ヘシ而シテ右増加スヘキ資本金額ノ制限ハ大藏卿ヘ  
ノ稟議ヲ經テ紙幣頭之ヲ定ムヘシ故ニ其資本金額ヲ増加スルニハ紙幣頭ニ申請シ其  
承認ヲ得テ之ニ從事スヘシ尤モ全ク入金濟ノ上ハ成規第十四條ニ準據シテ其増加証  
書ヲ差出スヘシ

第四十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行前條ニ掲グル如ク資本金ヲ増加セシムコト依リ公債証  
書ヲ納メ銀行紙幣ヲ請取ルノ手續ハ現ニ其株主タル者ヨリ増加ノ總額ヲ全ク入金シ  
タル後ニ非レハ之レヲ施行スルヲ許サス

第四十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ其資本金額ヲ減少セントスル時ハ社中ノ格段  
決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルヲ得ヘシ尤モ其減少ノ高ハ此  
條例第十七條ニ於テ規定スル所ノ員額ヨリ下ルヲ許サス但シ紙幣頭ノ承認ヲ得テ此  
決議ヲ施行セントスルニ於テハ其施行ノ日限ヨリ少ナク三ヶ月以前ニ於テ資本金  
ノ減少員額ト其殘リ資本金額トヲ記載シタル報告ヲ製シ適宜ノ手續ヲ以テ之ヲ其預  
リ金アル得意先ヘ送達スヘシ且右減少セントスルノ趣ハ其銀行所在ノ地ニ行ハル、



三種以上ノ新聞紙ヲ以テ三ヶ月以上毎日之ヲ公告スヘシ

第四十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其資本金額ヲ減少セントスルニ際シ其銀行ノ貸金、預ケ金等アル者ハ未タ其仕拂期日ニ至ラスト雖モ右減少ヲ施行スヘキ日限前一箇月ノ間ナレハ何時ニテモ左ノ定則ニ準據シ之カ償却ヲ乞フノ權利アルヘシ

第一 凡ソ定期預ケ金アル者ハ其元金并ニ當日迄ノ利息ヲ受取ルノ權利アリトス  
第二 其他期限未滿タリ而凡ソ銀行ヨリ受取ルヘキ勘定アル者ハ時ノ相場ヲ以テ其仕拂期日迄ノ利息ヲ引去リ殘金高ノミヲ受取ルノ權利アリトス

第四十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ此條例第四十二條第四十三條ニ掲ケル所ノ諸般ノ手續ヲ了ルニ於テハ成規第十五條ニ準據シ其減少證書ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ若シ右第四十二條第四十三條ノ規定ニ背戻シ資本金減少ノ報告又ハ公告ヲ怠リ及ヒ期限未滿ノ勘定仕拂ヲ拒ムコトアルトキハ紙幣頭ハ右資本金減少證書ニ許可ヲ與ヘサルヘシ

第四章 銀行紙幣ノ製造及ヒ種類、其通用ノ能力、引換場所及ヒ燒捨等ノ事ヲ明カニス

第四十五條 此條例ヲ遵奉シテ發行スル所ノ銀行紙幣ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ紙幣頭其製造ノ事務ヲ董括シ極メテ其紙質ノ堅牢ト彩紋ノ精緻ヲ要シ深ク隱匿ノ弊ヲ豫防スル

ノ術ヲ盡シテ以テ之ニ從事スヘシ

但シ右銀行紙幣製造ノ入費ハ其銀行ヨリ現費ヲ以テ紙幣寮ニ納ムヘシ

第四十六條 右銀行紙幣ノ種類ハ壹圓、貳圓、五圓、拾圓、二十圓、五十圓、百圓、五百圓ノ八種ト定メ銀行ノ望ミニ應シテ製造下付スヘシ

但シ五圓以下ノ銀行紙幣ハ其銀行發行總額十分ノ五ヨリ多カラサルヘシ

第四十七條 右銀行紙幣ノ表裏面ニハ政府ノ公債證書ヲ抵當トシテ發行スルノ旨趣及其他ノ要件ヲ摘載シ大藏卿並ニ出納頭記録頭ノ印ヲ鈐シ且大藏省並ニ銀行ノ記號、番號ヲ押捺シテ紙幣頭之ヲ其銀行ニ下付スヘシ而シテ銀行ニ於テハ之ニ其頭取支配人ノ名印ヲ加用スヘシ

第四十八條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ハ諸官廳又ハ銀行、會社其他ヲ論セス日本全國何レノ地ニ於テモ租稅、運上、貸借ノ取引、俸給其他一切公私ノ取引ニ於テ都テ政府發行ノ貨幣同様通用スヘシ

但公債證書ノ利息ト海關稅ニハ之ヲ用フルヲ許サス

第四十九條 (明治十六年第十四號) 布告ヲ以テ如左改正

此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ヲ通貨ト引換ヘンコトヲ請求スルモノアルトキハ日本銀行ニ於テ之ヲ引換フヘシ

第五十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通用ノ際其授受ヲ拒ミ或



ハ之ヲ妨ケ其他不正ノ所爲ヲ爲ス者アルニ於テハ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第五十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通用中敗裂汚染等ニテ通用シ難キモノアルニ於テハ其所持人ハ銀行ニ持參シテ之ヲ引換フヘシ而シテ銀行ハ之ヲ紙幣頭ニ差出シ其代リ銀行紙幣ヲ受取ルヘシ○尤モ右引換銀行紙幣ノ種類、記號、番號、金額等ハ之ヲ紙幣寮ノ公書及ヒ銀行ノ簿冊ニ詳明ニ記入シ其廢紙幣ハ大藏卿ヨリノ立會ヲ得テ紙幣頭ハ其主任ノ官員ヲ銀行役員ノ立會ヲ要シ之ヲ燒捨ニ付スヘシ而シ其趣ハ尙ホ右簿冊ニ登記シ各記名調印スヘシ

但右燒捨ノ後ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ

第五章 銀行營業ノ本務、公債証書其他ノ賣買並ニ貸附金ノ制限、利息ノ制限、銀行紙幣並ニ株式抵當ノ制禁及ヒ預リ金準備等ノ事ヲ明カニス

第五十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ金銀ヲ(引受貸シ抵當貸シノ別ナク)貸附ケ又ハ當座並ニ定期預リ金ヲ爲シ又ハ爲換ヲ取組ミ又ハ爲換手形、約束手形、代金取立手形其他ノ証書ヲ割引シ又ハ公債証書、外國貨幣並ニ金、銀、銅ノ地金ヲ賣買シ及ヒ保護預リ又ハ兩替等ノ事ヲ以テ營業ノ本務ト爲スヘシ

第五十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ本務タルヤ前條ニ掲グル所ノ種類ナルヲ以テ公債証書ノ賣買ヲ爲スヲ得ルト雖モ貸附金、預リ金、爲換等ノ如キハ殊ニ銀行ノ主トシテ爲スヘキ營業ノ目的タルニ依リ此等ノ事業ヲ經營セシメテ唯公債証書ノ賣買ヲ專

ラニスルヲ許サズ

第五十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ前第五十二條ニ掲グル所ノ營業本務ノ外地所家屋其他物件ノ賣買ヲ爲スヘカラス又職工作業ノ功ヲ興シ及ヒ此レ等ノ功ヲ興ス會社ノ株主ト爲ルヲ許サズ尤モ左ニ掲載スル所ノ條件ニ付テハ地所又ハ家屋物件等ヲ賣買シ又ハ之ヲ引取り又ハ之ヲ所持スル等ノ事ハ此條例ニ於テ之ヲ宥恕スヘシ

但シ銀行所有ノ地所ハ勿論一般ノ地稅法ニ從フヘシ

第一 銀行ノ業ヲ營ムヘキ爲メ緊要ナル地所家屋ハ之ヲ買取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第二 滯貸金ノ抵當トシテ質物ニ取りタル地所物件ハ之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第三 貸金返済ノ約定日切ト爲リテ借主ヨリ返金ノ代リトシテ引渡サレタル地所物件ハ之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第四 銀行ヨリ貸金ノ抵當又ハ質物ト爲リシモノニシテ官廳ノ裁判ヲ經テ賣拂ヒトナリタルモノカ又ハ之ヲ引取りタルモノ又ハ右質入ノ流込ミト爲リタルモノ又ハ銀行ヨリノ貸金ヲ返済スル爲メニ賣物ニ出シタル地所物件ハ之ヲ買取り之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第五十五條 前條ニ掲グル所ノ款項中銀行營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外銀



行ニ於テ引取り又ハ買取リタル地所物件ハ遲クモ十ヶ月以内ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ

第五十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ貸附ケル所ノ金額ノ制限ハ一口ニ付資本金總

額ノ十分一ヲ限リト爲スヘシ

第五十七條 (明治十一年第三十一號  
布告ヲ以テ如左改正)

此條例ヲ遵奉スル銀行ノ貸付金利息ハ政府ニ於テ定メタル一般ノ利息制限法ニ準據

スヘシ若シ其制限ニ超過スルモノアルキハ大藏卿ハ其銀行ヲ督責シテ之ヲ其制限ノ

割合ニ引直サシムヘシ

第五十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其銀行紙幣ヲ抵當又ハ質物トシテ借金ヲスヘカ

ラス又其銀行ノ株式ヲ抵當ニ取リテ貸付金ヲ爲スヘカラス又其株ノ買主ト爲リ又ハ

其株主ト爲ルヘカラス然レモ貸付金ノ滞リコト銀行ノ損失ト爲ルヲアレハ止ムヲ得

ス其株ヲ引當ニヨリ又ハ買取ルヲ得ヘシ尤モ其株ハ遲クモ六ヶ月以内ニ於テ之ヲ

賣拂フヘシ

第五十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ諸方ヨリノ預リ金ヲ他ニ運轉流用スルニハ須ク

之カ制限ヲ立テ其預リ金總額ノ内少クモ十分ノ二、五(即チ四分ノ一)ヲ引殘シ之ヲ

返却ノ準備トシテ銀行ノ金庫中ニ積立置クヘシ尤モ内十分一ノ員額ハ政府ノ公債証

書ヲ實價ヲ以テ積立ルヲ得ヘシ

但此準備金ハ銀行紙幣取換ノ準備金ト混同スヘカラス

第六十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其營業ノ爲メ銀行紙幣ヲ發行スルニハ此條例第二

十條ニ規定シタル準備金ノ割合ヲ超過スヘカラス若シ此割合ヲ超過シテ發行スルキ

ハ紙幣頭ハ之ヲ督責シテ速カニ其準備金ヲ増加シ規定ノ割合ニ滿タシムヘキ旨ヲ命

スヘシ若シ銀行ニ於テ此命ヲ受ケシ日ヨリ三十日ヲ過キテ尙ホ増加スルコトヲ怠ル時

ハ紙幣頭ハ其銀行ノ開業免狀ヲ取上ケ跡引受人ヲ命スヘシ

第六十一條 (明治十六年第十四號  
布告ヲ以テ左如改正)

此條例ヲ遵奉スル銀行ニ於テ預リ金ノ返濟又ハ爲換手形約束手形等ノ仕拂チナスニ

當リ兼テ積置タル準備金ヲ以テ之ヲ償フコト能ハサルトキハ其銀行ノ株主等ハ各其

所持ノ株數ニ應シ別ニ出金シテ一時之ヲ償辦スルノ責ニ任スヘシ但此出金ハ全ク一

時償辦ノ爲メニシテ其株金ト異ナルヲ以テ其銀行ハ速カニ之レヲ各株主ニ返辦スヘ

シ

第六章 銀行名號ノ掲牌、社印ノ書体並ニ諸手形ニ於ケル銀行ノ負責、所有物ノ

明細帳及ヒ營業時間等ノ事ヲ明カニス

第六十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ讀易キ書体ヲ以テ其名號ヲ掲牌ニ記載シ之ヲ其

銀行ノ店前最モ見易キ所ニ掲クヘシ而シテ其社印ノ彫刻ヨリ諸報告並ニ諸公告、諸

証書、諸手形、諸切手ノ類ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用于ル所ノ者ハ亦同シク讀易キ書体

ヲ用于ヘシ



(罰) 罰金

(罰) 十円以上  
五十円以下

第六十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其社號ヲ掲ケサルハ銀行ハ其時  
間一日ニ付五圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其頭取取締役及ヒ支配人タルモノ  
知テ之ヲ爲サシメ或ハ故サラニ之ヲ見逃スコト於テハ是亦右金額ノ罰金ヲ納ムヘシ若  
シ又銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員又ハ何人ニテモ前條ノ如ク彫刻セサル社印  
ヲ用井或ハ人ヲシテ之ヲ用井シメ又ハ前條ノ規定ニ悖リタル社號ヲ以テ報告書ヲ出  
シ或ハ之ヲ出サシメ又ハ爲換形手、約束手形、切手、證書、注文書、受取証書、受合狀等  
至ル迄凡ソ其名號ヲ用于ル者前條ノ規定ニ悖リテ記名調印シ又ハ記名調印セシムル  
ハ十圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納メシメ且右等爲換手形、約  
束手形、切手、注文書等ニ記載スル所ノ金額ヲ銀行ヨリ拂渡サ、ルキハ其規定ニ悖リ  
タル役員等ハ自費ヲ以テ右持主ニ辨償スルノ責ニ任スヘシ

第六十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行其名號ヲ以テ爲換手形、約束手形、ヲ振出シ又ハ之  
ヲ引受ケ又或ハ之ニ裏書シタルモノ、如キハ假令ヒ右等ノ取扱ヒ何人ノ手ニ出ツル  
ト雖モ此人苟クモ其銀行ノ命任ヲ受ケタルモノニ相違ナキニ於テハ一切之ヲ其銀行  
ノ爲メニ取扱ヒシモノト見做スヘシ

第六十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其所有財產(動産、不動産ノ別ナク)ノ種類員數  
ハ勿論其授受買賣及ヒ質入書入委託其他ニ於ケル一切ノ事件ヲ記載セル簿冊ヲ製シ  
右等ノ擧アル毎トニ其事由並ニ其種類員數及ヒ質預リ人又ハ受託人等ヲ遺漏ナク記

(罰) 五十円以下

載シ其時々頭取取締役等之ニ檢印シ常ニ其銀行ニ備置キ以テ債主及ヒ株主等ノ檢閱  
ニ供スヘシ○若シ前段ノ記載ナクシテ銀行其所有財產ヲ質入書入シ又ハ之ヲ委託ス  
ル等ノ事アルニ當テ其銀行ノ頭取取締役支配人等知テ之ヲ捨置キ又ハ故ラニ之ヲ見  
逃スコト於テハ右役員ハ五十圓ヲ踰ヘサル罰金ヲ納ムヘシ

但シ右所有財產ノ簿冊ハ即チ其事件ノ正確ナル證據トシテ何レノ裁判所何レノ官  
廳ニ於テモ採用セラル、ヲ得ヘシ

第六十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業時間ハ其本店支店共定式(又ハ臨時)休暇日  
ヲ除クハ外毎日午前第九時ヨリ午後第三時マテタルヘシ尤モ銀行ノ都合ニ依リ紙幣  
頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ其營業時間ヲ變更スルヲ得ヘシ而シテ其趣ハ新聞紙其他ノ  
手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ

但シ爲換並ニ預リ金等ノ仕拂期日若シ定式(又ハ臨時)休暇日ニ當ルモノハ其翌日  
之ヲ仕拂フヘシ

第七章 株主總會ノ定規並ニ格段決議ノ順序諸簿冊ノ點檢及ヒ檢査ノ手續諸報  
告差出方等ノ事ヲ明カニス

第六十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ總會ハ每年少クトモ兩度宛之ヲ執行スヘシ尤モ  
臨時ノ事件ヲ評決センカ爲メ執行スル所ノ臨時總會ハ此限ニ在ラス

第六十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ總會ニ於テ次條ニ掲載セル方法ヲ以施行

國立銀行條例



セシ格段決議ニ於テハ其銀行定款中記載シタル事件箇條ヲ變更訂正スルヲ得ヘシ  
 第六十九條 凡ソ社中評決スヘキ事件アリテ其議案ヲ出シ其銀行株主臨席ノ總員（本  
 人代人ヲ論セス）四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ一旦其大体ヲ決定シ隨テ其旨趣ヲ評述  
 シテ之ヲ報告ヲ爲シ後十四日以外一箇月以内ノ時日ニ於テ更ニ執行スル所ノ總會  
 ニ於テ其臨席シタル株主總員ノ同意セル發言投票ノ多數ヲ以テ其事件ヲ確定スル者  
 之ヲ格段決議ト稱スヘシ

第七十條 凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ハ其旨趣頭末ヲ記載シタル書附ヲ刊行  
 シ又ハ謄寫シテ右確定ノ日ヨリ日數十五日（郵便遞送日數ヲ除ク）ノ内ニ之ヲ紙幣頭  
 へ差出シテ其承認ヲ受クヘシ○若銀行前段ノ書附ヲ右期日內ニ差出スコトヲ怠ルニ於  
 テハ右ノ日數以後（即チ十六日ヨリ）ハ怠慢時間一日ニ付キ十圓ヲ越ヘサル罰金ヲ  
 納ムヘシ且頭取取締役等故ラニ之ヲナサシメ又ハ知テ之ヲ見逃セシキハ是亦右全額  
 ノ罰金ヲ納ムヘシ

第七十一條 凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ニシテ（此條例第四條六條ニ準據シ）  
 現ニ之ヲ施行スルモノハ右ノ事件ヲ正シシ記載シタル寫ヲ各株主ヘ分賦スヘシ○若  
 シ銀行此箇條ヲ遵守セスシテ詐偽ヲ記載スルカ又ハ寫ヲ分賦セサルニ於テハ右寫一  
 通ニ付五圓ヲ越ヘサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役等故ラニ之ヲ爲サシメ又ハ知  
 テ之ヲ見逃セシキハ是亦右全額ノ罰金ヲ納ムヘシ

罰金

罰金

罰金

第七十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ其銀行ノ營業時間中ナレハ何時ニ  
 テモ其銀行實際記入スル所ノ諸簿冊及ヒ報告計表ヲ点檢スルヲ得ヘシ○若銀行此箇  
 條ヲ遵守セスノ株主ノ点檢ヲ拒ムキハ五圓ニ越ヘサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役  
 支配人等故サラニ之ヲナスカ又ハ知テ之ヲ見逃セシ時ハ右全額ノ罰金ヲ納ムヘシ

第七十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業實際ヲ詳知監督スル爲メ紙幣頭ハ大藏卿へ  
 ノ稟議ヲ經テ定例臨時ノ別ナク官員ヲ命遣シ銀行一切ノ業体ヲ檢查セシムヘシ  
 但シ紙幣頭ハ時宜ニ依リ大藏卿へノ稟議ヲ經テ其銀行管轄地方官ニ依托シ其銀行  
 實際ノ營業ヲ（定例臨時ノ別ナク）檢查セシムルコトアルヘシ尤モ右檢查ニ從事シタ  
 ル地方官ハ其檢查シタル旨趣ヲ詳記シ速カニ之ヲ紙幣頭へ報知スヘシ

第七十四條 右檢查ノ官員ハ各銀行ノ本店又ハ支店トモ其營業時間中ナレハ何時ニテ  
 モ其用所ニ至リ詳密ニ其諸簿冊計表其他銀行一般ノ業体ヲ檢查シ其銀行役員ノ處務  
 此條例成規ニ規定スル所ノ箇條ヲ遵守スルヤ否ヤヲ視察シ而シ其檢查ノ實況ト考按  
 ノ旨趣ヲ書面ニ詳記シ之ヲ紙幣頭へ差出スヘシ

第七十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ總株五分一以上ヲ所持スル株主等ヨリノ請願ア  
 ルニ於テハ紙幣頭ハ官員ヲ命遣シ或ハ其管轄地方官へ委託シテ其銀行一切ノ業体ヲ  
 檢查セシムルコトアルヘシ但シ其檢查ノ實況ト考案ノ旨趣ハ之ヲ書面ニ認メ紙幣頭へ  
 差出スヘシ而シテ紙幣頭ハ其寫ヲ其銀行ノ本店並ニ此檢查ヲ請願セシ株主等へ下付

國立銀行條例

三百三十九



スヘシ

第七十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行此條例第七十三條第七十五條ニ規定スル所ノ検査  
官員ノ検査ヲ除クノ外他ノ検査ハ一切之ヲ受ケサルベシ尤諸官廳ノ職掌上ニ於テ國  
法ヲ以テ検査スルカ如キハ此限ニ在ラス

第七十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ半季及ヒ毎月其事務計算等ノ實際説明ナル考課  
狀並ニ報告計表(成規第六十六條ニ規定スル所ノ種類)ヲ製シ本店ハ頭取支配人支店  
ハ支配人并ニ計算方之ニ記名調印シテ之ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ尤モ其書式ハ紙幣頭  
ノ指圖ニ從フヘシ

但シ右半季報告計表ハ銀行ヨリ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ

第七十八條 右定例報告計表ノ外紙幣頭尙ホ要用ト思考スルコトアレハ銀行ニ命シテ臨  
時ノ報告計表ヲ差出サシムルコトアルヘシ○若シ銀行ノ頭取取締役支記人等有定例或  
ハ臨時ノ報告ヲ怠リ紙幣頭ノ命スル日ヨリ(郵便遞送日數ヲ除ク)十日以内ニ差出サ  
ハルベハ十日以外(即チ十一日ヨリ)ハ一日ニ付五十圓ヨリ少ナカラス百圓ヨリ多  
カラサル罰金ヲ納ムヘシ

(明治十六年第十四號布告ヲ以テ第  
八章方法及ヒ第七十九條如左改正)

第八章 利益金分配ノ方法ヲ明カニス

第七十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ每半季其銀行ノ總勘定ヲナシ其

總益金ノ内ヨリ諸雜費並ニ損失補償ノ金額及ヒ滯貸金ノ準備ヲ引去リ其餘ヲ以テ純  
益金トナシ之ヲ總株主ニ分配スヘシ尤右利益ノ計算ハ株主ニ分配セサル前十日以内  
ニ(郵便遞送日數ヲ除ク)大藏卿ニ差出シ其承認ヲ得テ後之ヲ株主一同ニ通知シ且新  
聞紙ヲ以テ世上ニ公告シ而シテ之ヲ株主一同ニ分配スヘシ

但儘カナル抵當物或ハ確實ナル引受人アル貸付金ヲ除クノ外其返済期限ヲ過クル  
コト六ヶ月以上ニ及フモノハ都テ之ヲ滯貸金ト看做スヘシ

第八十條 (明治十六年第十四號  
布告ヲ以テ削除ス)

第九章 銀行ハ官廳ノ爲換方ニ從事スルコト及ヒ外國銀行ト聯合スヘカラサル事  
ヲ明カニス

第八十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其通常營業事務ノ外大藏卿ノ命令ニ依リ大藏省  
又ハ各地方官廳其他ノ爲換方ヲ勤ムルコトヲ得ヘシ尤其勤メ方ノ手續ハ爾後大藏卿ノ  
考案ニ依リ其筋ヨリ命スル所ノ規定ヲ奉シ以テ之ニ從事スヘシ

第八十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ大藏卿ノ命令ヲ奉スルカ或ハ其免許ヲ得ルカニ  
非レハ内外地ニ設置スル所ノ外國ノ銀行ハ勿論本邦ノ銀行(又ハ交換所等)ト雖モ凡  
海外ニアルモノト相共ニ聯合シ以テ爲換ヲ取組又ハ其他ノ營業ニ從事スルコトヲ得サ  
ルヘシ

第十章 銀行役員職務上一般制禁及ヒ其負責ノ事ヲ明カニス

國立銀行條例



第八十三條

（明治十六年第十四號）  
（布告ヲ以テ如左改正）

國立銀行ノ役員タル者諸相場ニ關シ投機ノ商業ニ從事スルトキハ大藏卿ハ銀行ニ命シ其役員ヲ退職セシムルコトアルヘシ

第八十四條

此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等若シ此條例ニ背戾スルコトアリテ夫レカ爲メ株主又ハ其他ノ人ニ損失ヲ受ケシムルキハ其損失ハ頭取取締役等之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘシ

第八十五條

此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員タル者ハ銀行所有ノ金銀及ヒ諸証書預リ品等ヲ私用シ又ハ竊掠シ又ハ之ヲ妄用スヘカラス又頭取取締役ノ承認ヲ得スシテ銀行紙幣及ヒ預リ証書ヲ發行シ又ハ諸貸附ヲ爲シ爲換手形ヲ振出シ又ハ証書及ヒ切手ノ引受ケヲ爲シ約束手形爲換手形諸証書質物及ヒ公裁コト引取リタルモノヲ賣渡スヘカラス又銀行ノ諸簿冊計表報告書其他ノ要書ニ詐僞ヲ記載スヘカラス○若シ右ノ箇條ヲ犯シテ其銀行又ハ他ノ銀行、會社其他ノ者ヲ損害欺騙シ又ハ其銀行ノ役員或ハ検査官員ヲ欺カント謀ル者ハ皆國法ニ從ヒテ之ヲ罰スヘシ

第八十六條

此條例ヲ遵奉スル紙行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員ハ社中申合規則ノ規定ニ從ヒ尋常借リ得ヘキ金額ノ外ハ自身又ハ仲人等ヲ以テ一切銀行ヨリ借受クヘカラス又其銀行ヨリ借財ヲ爲ス者ノ爲メ其證人又ハ受人ト爲ルヘカラス○若シ右等

十四以上  
五十以下

ノ役員右ノ規定ニ背戾シテ借財ヲ爲シ又ハ證人受人ト爲リ又ハ人ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ之ヲ承諾スル等ノ事アルキハ此等ノ役員ハ十圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其借財ノ金額ハ其規定ニ背戾セシ者ヨリ速カニ銀行ニ返済スヘシ

第八十七條

此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員タル者ハ其銀行ノ名ヲ假リ以テ自己ノ利益ヲ謀ルハ勿論總テ私用ヲ辨スヘカラス若シ此等ノ役員之ヲ犯シ又ハ人ヲシテ犯サシメ又ハ知テ之ヲ見逃ス者ハ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第十一章

紙幣及ヒ諸手形類ノ發行並ニ銀行紙幣ノ贋造描改及ヒ其版板彫刻等禁止ノ事ヲ明カニス

第八十八條

此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヲ除クノ外何人又ハ何會社ヲ論セズ凡テ紙幣又ハ望次第持參人ニ仕拂フヘキ約束手形又ハ右類似ノ証書其他政府發行ノ貨幣同様ニ通用スヘキ諸手形又ハ切手ヲ振出シ其引受ヲ爲シ之ヲ製シ之ヲ發行スルヲ禁ス若シ此等ノ數件ヲ犯ス者アルニ於テハ何人ヲ論セズ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第八十九條

此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル銀行紙幣ハ何人ヲ論セス之ヲ贋造スヘカラス贋造セシムヘカラス贋造スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス贋造ト知テ之ヲ通用スヘカラス又ハ之ヲ通用セシムヘカラス又其文字繪圖ヲ描改スヘカラス描



改セシムヘカラス描改スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス描改セシ紙幣ト知テ之ヲ通用スヘカラス又ハ之ヲ通用セシムヘカラス

第九十條 右銀行紙幣ヲ印刷スルニ用ウル所ノ版板又ハ之ニ類似スル者ハ之ヲ私ニ彫刻スヘカラス又ハ私ニ彫刻ヲ命スヘカラス又右銀行紙幣ニ用ウル所ノ紙品又ハ之ニ類似スル紙品ハ之ヲ私ニ製スヘカラス又ハ人ヲシテ之ヲ製セシムヘカラス又ハ之ヲ私ニ所持スヘカラス若シ前第八十九條及ヒ本條ノ數件ヲ犯ス者アルニ於テハ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第九十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行シタル銀行紙幣又ハ爲換手形、約束手形其他証書ノ類ハ何人ニ限ラズ之ヲ切抜キ又ハ切裂キ又ハ剝去リ又ハ塗抹シ又ハ孔ヲ穿チ又ハ糊付ニスル等ノヲ爲スヘカラス又人ヲシテ此等ノ事ヲナサシムヘカラス若シ此等ノ數件ヲ犯ス者アルキハ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ於テ之ヲ裁判シ其金高十倍ノ償金ヲ銀行ヘ拂ハシムヘシ

第十二章 官命鎖店ノ場合特例監督役跡引受人等ノ取扱方并ニ公債証書ノ没入及ヒ紙幣引換等ノ手續ヲ明カニス

第九十二條 (明治十六年第十四號布告ヲ以テ號布告ヲ以テ削除)

第九十三條 (明治十六年第十四號布告ヲ以テ第九十三條第九十四條如左改正)

國立銀行ニ於テ左ニ掲クル事實アルトキハ大藏卿ハ鎖店ヲ命スルヲアルヘシ

第一 國立銀行條例ノ旨趣又ハ箇條ニ背戾シ大藏卿其銀行ヲ鎖店セシムルヲ相當ナリト思考スルトキ

第二 國立銀行ニ於テ負債辨償ノ義務ヲ盡ス能ハサル證據アルトキ

第三 國立銀行ニ於テ其資本金總額十分ノ五以上ノ損失ヲ生スルトキ

第九十四條 前條ニ記載スル事實アリト認ムルトキハ大藏卿ハ檢査ノ官員ヲ派遣シ其事實ヲ推糺セシメ若シ相違ナキニ於テハ都テ其銀行ノ營業ヲ差止メ金銀其他ノ出納ヲ禁スヘシ

第九十五條 前條ノ如ク營業ヲ差止メラレタル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員ハ諸手形、諸証書類又ハ抵當物、地所等ヲ他人ヘ譲リ渡シ又ハ賣渡スヘカラス又他人ヨリ金銀其他ノ物件ヲ預ルヘカラス若シ頭取取締役支配人其他ノ役員等此箇條ニ背キ或ハ譲リ渡シ又ハ賣渡シ又ハ預リ又ハ拂方ノ引受ヲ爲スノアルニ於テハ紙幣頭ハ督促シテ其金額ヲ償ハシメ之ヲ其元ニ復セシムヘシ

第九十六條 紙幣頭ハ更ニ大藏卿ヘ稟議シ特例ノ監督役ヲ命遣シ其銀行ノ實際諸般ノ取扱ヲ推究シテ其事實ヲ詳明ニ報知セシムヘシ而シテ其背戾ノ事實相違ナキニ於テハ紙幣頭ハ其銀行ヨリ出納寮ニ預ケ置キタル公債證書ヲ没入スヘキ旨ヲ(右報知ヲ得タル日ヨリ三十日以内ニ)申渡シ其公債證書ヲ取上クヘシ

第九十七條 右諸般ノ手續了リシ後ハ紙幣頭ハ大藏卿ヘ稟議ヲ經テ凡ソ此銀行ノ紙



幣ヲ所持スル者ハ都テ之ヲ大藏省ニ出シテ其引換ヲ乞フヘキ旨ヲ公告シ相當ノ時日ヲ以テ之ヲ引換遣ハヌヘシ而シテ其引換タル紙幣ハ總テ此條例第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其趣ヲ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

第九十八條 (明治十六年第十四號 布告ヲ以テ如左改正)

此條例第九十六條ニ據リ其銀行ヨリ没入シタル公債証書ハ大藏省ノ便宜ニ從ヒ之ヲ公賣若クハ私賣シ以テ其銀行ノ發行紙幣引換ノ資ニ充ルモノトス但右公債証書ノ賣却代價紙幣下付高ニ對シ不足アルトキハ大藏卿ハ他ノ債主ニ先チ之ヲ其銀行ノ資產ヨリ徴収シ若シ下付高ニ對シ過剩アルトキハ之ヲ其銀行ニ下付スヘシ

第九十九條 此條例第九十六條ニ據ル所ノ特例監督役ノ報知ヲ得之カ處分ヲ爲スニ於テハ紙幣頭ハ即チ右銀行ノ跡引受人ヲ命シ其銀行ノ諸簿冊及ヒ各種ノ資產等ヲ取押ヘ諸貸付金、立替金ヲ取立タル上ニテ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ謀リテ滯貸金類及ヒ銀行ノ所有物ヲ賣拂ヒ其集合金ヲ以テ其銀行ノ諸借財又ハ預リ金其外ヲ償却シ過金アレハ株高ニ應シテ之ヲ株主ヘ割返シ不足アラハ都テ銀行ノ株高及ヒ其所有物ヲ限リテ相當ノ分散ヲナサシムヘシ

第一百條 右借財又ハ預リ金等ヲ償却スルニハ紙幣頭ヨリ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ三ヶ月間世上ニ公告シ其銀行ニ貸金預ケ金等アル者ハ右時限中ニ申出テシメ其事由ト証書類トシ檢按シ紙幣頭ハ厚ク之ニ注意シ適正ノ處分ヲ貸方ニ賦當償却スヘシ

第一百一條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ株主等ハ假令ヒ其銀行ニ損失又ハ其他ノ事故

アリテ其銀行鎖店分散スルコトアルモ其株主等ハ其創立証書ニ於テ揭載シタル株式金額ノミヲ損失スルノ外其鎖店分散ニ付テ別ニ賦當出金ヲ受クルノ責メ無カルヘシ

第一百二條 紙幣頭ハ此條例第九十六條ニ據ル所ノ處分ヲ爲スニ際シ其銀行ヨリ尙ホ請願スルコトアリテ其情實ヲ具陳スルルハ監督役ヲ出セシヨリ三十日以内(郵便遞送日數ヲ除ク)ナラハ其地方官廳ニ謀リ更ニ其實況ヲ詳悉シテ全ク其背戻セサルノ實証アルニ於テハ紙幣頭ハ之ヲ大藏卿ヘ稟議シ而シテ之ヲ宥恕スヘシ尤右ノ請願書ハ必ス其地方官廳ヲ經テ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

但シ此宥恕ヲ爲スルハ紙幣頭ハ速カニ其趣ヲ出張ノ監督役ニ達シテ暫ク其處置ニ取掛ルコトヲ見合セシムヘシ

第一百三條 (明治十六年第十四號 布告ヲ以テ如左改正)

此條例ヲ遵奉スル銀行鎖店ノ場合ニ於テ跡引受人ノ入費等ハ總テ相當ノ處分ヲ以テ大藏卿之ヲ取極メ他ノ債主ニ先チ其銀行ノ資產ヨリ之ヲ辨償セシムヘシ

第十三章 銀行平隱鎖店ノ手續及ヒ其紙幣取換方等ノ事ヲ明カニス

第一百四條 此條例ヲ遵奉スル銀行三分二以上ノ株主等ノ協議ニ從テ平隱ニ分散又ハ鎖店セントスルコトハ其銀行ノ頭取支配人ヨリ其銀行ノ名印ヲ以テ其決議ノ旨趣ヲ紙幣頭ニ申牒シ其承認ヲ得テ後チ三ヶ月間新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告シ發行紙

國立銀行條例



幣ノ引換方其他銀行ニ屬スル取引ノ精算ヲ詳載シタル報告ヲ製シテ之ヲ世上ニ公告スヘシ

第五條 右ノ公告ヲ爲シタル日ヨリ其銀行ハ其引換ヘタル銀行紙幣ヲ以テ豫テ出納寮ニ預ケ置キタル公債証書ノ内ヲ取戻スヲ得ヘシ尤其公告ノ日ヨリ半ケ年ヲ過キ其銀行ノ簿冊上ニ於テ尙ホ世上ニ殘在スル銀行紙幣アルニ於テハ其員額丈ケノ通貨ヲ出納頭ニ差出シ右預ケ置キタル公債証書ノ全額ヲ取戻スヲ得ヘシ然ル上ハ其銀行紙幣ノ世上ニ殘在スル分ハ大藏省ニ於テ之ヲ引換ヘ銀行ノ株主等ハ一切其引換ノ責ニ任セサルヘシ

第六條 右銀行シタル銀行ヨリ其殘在銀行紙幣引換ノ爲メ通貨ヲ差出スコ於テハ出納頭ハ之ヲ領受シ其趣ヲ詳記シタル受取証書ヲ製シ之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ但シ出納頭ハ右受取証書ノ外ニ預リ証書ヲ製シテ之ヲ紙幣頭ヘ回附シ置キ其殘在銀行紙幣引換ノ爲メ右通貨ノ受取方ヲ要スルニ於テハ何時コテモ之ヲ紙幣頭ヘ渡スヘシ

第七條 右預リ証書ヲ領受スルニ於テハ紙幣頭ハ大藏卿ノ稟議ヲ經テ相當ノ期限ヲ定メ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告シ其殘在銀行紙幣ノ引換方ニ從事スヘシ

第八條 右ノ手續ヲ以テ引換タル銀行紙幣ハ此條例第五十一條ノ規定ニ從テ之ヲ燒捨シ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ尤右ニ屬スル諸計算其外トモ紙幣頭國債頭出納頭ハ各其簿冊ニ詳記シ置クヘシ

第十四章 銀行訴訟ノ取扱及ヒ罰金處分ノ事ヲ明カニス

第九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行若シ他ノ會社又ハ一般ノ人民ヲ相手取リ訴訟スルカ又ハ他ヨリ此銀行ヲ相手取リ訴訟セラル、カノキハ都テ一般ノ訴訟法ニ從ヒ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)之ヲ裁判處分スヘシ

第十條 此條例ニ於テ規定セル罰金ヲ以テ處置スヘキ罪科ニ付テハ裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)之ヲ裁判處分スヘシ

但シ此條例中現ニ罰金ノ明文無キ箇條ヲ犯スコアルキハ其時ニ當リ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ於テ相當ト思考スル罰金(三圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル額數)ヲ右犯罪ノ銀行又ハ頭取取締役其他ノ役員ニ命スヘシ

第十五章 銀行納稅ノ事ヲ明カニス

第十一條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ハ追テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收稅規則ニ遵ヒ相當ノ税金ヲ納ムヘシ

明治十一年九月二十八日第二十九號布告

明治九年(八月)第六號布告國立銀行條例第十五章稅額ノ儀ハ銀行紙幣下付高ノ千分ノ七ト相定メ本年七月ヨリ年々徵集候條此旨布告候事

國立銀行條例



但納期ノ儀ハ一ケ年兩度ニ割合前半年分ハ七月三十一日限り後半年分ハ一月三十一日限り其管轄廳ニ可相納事

(明治十六年第十四號  
布告ヲ以テ如左追加)

第十六章 銀行紙幣消却ノ方法ヲ明カニス

第一百十二條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行シタル紙幣ハ左ニ掲クル方法ヲ以テ其營業年限内ニ悉皆消却スヘキモノトス但其取扱手續ハ大藏卿之ヲ定メ日本銀行ヲシテ之ニ從事セシムヘシ

一各國立銀行ノ紙幣引換準備金ハ大藏卿ノ指定スル期限迄ニ日本銀行ニ納付シ營業年限内之ヲ定期預ケトナシ以テ紙幣消却ノ元資ニ充ツヘシ

一各國立銀行ハ每半季利益金ノ多少ニ拘ラス其銀行紙幣下付高ニ對シ年二分五厘(即チ半季一分二厘五毛)ニ當ル金額ヲ引去リ之ヲ日本銀行ニ預ケテ紙幣消却ノ元資ニ充ツヘシ

一日本銀行ハ前二項ニ掲クル金額ヲ預リ各國立銀行ト別段ノ約定ヲ結ビ之カ發行紙幣ヲ消却シテ大藏省ニ上納スルモノトス但其約定書ハ大藏卿ニ呈シテ之カ與書證印ヲ受クヘシ

一日本銀行ヨリ右消却紙幣ヲ上納シタルトキハ大藏省ニ於テ此條例第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其都度之ヲ公告スヘシ

一日本銀行ヨリ右消却紙幣ヲ大藏省ニ上納シタルトキハ豫テ出納局ニ差出シ置キタル紙幣抵當公債證書ノ内右消却高ニ相當スル員額ヲ大藏省ヨリ直チニ其銀行ニ還付スヘシ

明治十六年第十四號布告ヲ以テ第十六章第十七章ト第百十二條ヲ第百十三條ト改ム

第十七章 條例ノ更正及ヒ廢止ノ事ヲ明カニス

第百十三條 此國立銀行條例ハ政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ何時コテモ之ヲ増補シ又ハ之ヲ更正シ又或ハ之ヲ廢止スルヲアルヘシ若シ右増補其他ノ節ハ直チニ其由ヲ世上ニ公告スヘシ

國立銀行條例畢

國立銀行成規目次

- 銀行創立手續ノ事
- 株金募方ノ事
- 資本金月賦入金ノ事
- 資本金集合高申牒ノ事
- 資本金増減ノ事
- 公債證書預方ノ事

- 第一條ヨリ
- 第八條ニ至ル
- 第九條ヨリ
- 第十一條ニ至ル
- 第十二條
- 第十三條
- 第十四條ヨリ
- 第十五條ニ至ル
- 第十六條ヨリ
- 第十七條ニ至ル

國立銀行條例



銀行紙幣注文ノ事	第十八條ヨリ
銀行紙幣發行ノ事	第十九條ニ至ル
損壞銀行紙幣引換方ノ事	第二十條
株式ノ事	第二十一條ヨリ
株式賣買ノ事	第二十四條ニ至ル
株式讓與ノ事	第二十五條ヨリ
株式没入ノ事	第二十六條ニ至ル
總會ノ事	第二十七條ヨリ
株主發言投票ノ事	第二十九條ニ至ル
諸役員ノ事	第三十條
社中申合規則ノ事	第三十一條
利益金分配ノ事	第三十二條ヨリ
諸計算ノ事	第四十三條ニ至ル
諸願伺届等差出方ノ事	第四十四條ヨリ
國立銀行報告ノ事	第四十七條ニ至ル
目次畢	第六十一條
	第六十二條
	第六十三條ヨリ
	第六十四條ニ至ル
	第六十五條
	第六十六條

國立銀行成規

銀行創立手續ノ事

第一條 此條例ヲ遵奉シテ國立銀行ヲ創立セントスルニハ先ツ五人以上ノ人員申合セ  
 國立銀行創立致シ度趣ヲ願書ニ認メ之ヲ大藏省ノ紙幣寮ニ差出スヘシ此願書ニハ其  
 銀行ノ營業場所資本金額等ヲ簡明ニ記載シ願請人一同之ニ記名調印スヘシ而シテ其之  
 ヲ差出スニハ願請人直チニ之ヲ紙幣寮ニ持參スルカ又ハ(遠隔ノ地方ナレハ)郵便ヲ  
 以テ之ヲ送達スルモ若シカラス

但シ此資本金高ノ五分一ハ首トシテ其發起人等ヨリ之ヲ出金シ若シ不足アラハ自  
 餘加入ノ者ヨリ其引請ケントスル株式金額ノ若干ヲ出金セムルヲ以テ常則トス

第二條 右五人以上ノ人員ハ即チ發起人ニシテ株金ノ募方(若シ之アラハ)並ニ取締役  
 ノ撰舉等相濟ム迄ハ都テ銀行ノ事務ヲ擔當辦理スルモノトスヘシ

第三條 紙幣頭ハ右願書ヲ受取ラハ其發起人等ノ身分其外トモ隱密ノ探索ヲ遂ケ且其  
 管轄地方官廳ニ其者共ノ身分營業ノ模様其外トモ公然諮問ヲ爲シ銀行創立ヲ許可ス  
 ルニ相當ナリト思考スルニ於テハ右發起人等ニ創立証書並ニ銀行定款ノ差出方ヲ命  
 スヘシ

第四條 右紙幣頭ノ命ヲ受ケルニ於テハ其發起人等ハ株主ノ募方(若シ募ルヘキアラ  
 ハ)ニ取掛ルヘシ而シテ株主一定ノ後ハ直チニ集會ヲ催シ首メニ(入札公擲ヲ以テ)

國立銀行條例



取締役五人以上ヲ撰擧シ此内ヨリ(前同斷ノ方法ヲ以テ)頭取タルヘキ人ヲ定メ然ル後ヲ創立證書並ニ銀行定款ヲ通シテ三ヶ月以内ニ(郵便遞送日數ヲ除ク)之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ若シ右期月内ニ此差出方ヲ怠ルルハ前段ノ許可ハ取消タルヘシ

第五條 右創立證書ノ雛形ハ左ノ如シ

一 國立銀行創立證書

大日本政府ヨリ發行スル所ノ公債證書ヲ抵當トシテ銀行紙幣ヲ發行シ之ヲ通用シ之ヲ引換ナル儀ニ付明治一一年一月一日大日本政府ニ於テ制定施行シタル國立銀行條例ヲ遵奉シテ國立銀行ヲ創立シ其業ヲ經營セント謀リ私共即チ此創立證書第五條ニ運署シタルモノ一致協力シテ當銀行ヲ創立シ左ノ創立證書ヲ取極メ候也

第一條 當銀行ノ名號ハ一 國立銀行ト稱スヘシ

第二條 當銀行ノ本店ハ一 府管下第一大區一 小區一 村一 番地ニ於テ設置スヘシ(但シ支店ヲ置クハ其場所ヲモ茲ニ掲載スヘシ)

第三條 當銀行ノ資本金ハ一 萬一千圓ニシテ一(百五十、廿五)圓ヲ以テ一株ト爲シ總計一 株ト定ムヘシ

第四條 當銀行ノ永續期限ハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ二十箇年間タルヘシ

第五條 當銀行株主ノ姓名住所其他並ニ各株主ノ引請ケタル株式ハ左ノ如ク

金額	引請株式數	住所	株主ノ姓名屬族
一圓	一 番(又ハ一 番ヨリ一 番ニ至ル又或ハ一 番一 番)株	一 府管下第一大區一 小區一 村一 番地	一 府華士族平民 何 某
總計	一 圓	總計	一 人

第六條 此創立證書ハ國立銀行條例ヲ遵奉シ銀行ノ業ヲ營ミ一同ノ利益ヲ謀ル爲メニ取極メタルモノニシテ其證據トシテ私共一同姓名ヲ記シ調印致候也

年號一 年一月一日 各株主連名印

古一 國立銀行創立證書ハ其株主等書面ノ通り記載約定シタル趣チ正實ニ保証スルニ付キ其證據トシテ余ハ此ニ記名調印シ併セテ當廳ノ官印ヲ鈐シ候也

年號一 年一月一日 地方長官姓名印

地方官  
應之印

右ハ一 國立銀行創立證書ノ正寫ニシテ其本紙ハ正コ之ヲ本寮ニ受取リ其事ヲ承認シタル證據トシテ余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ茲ニ記名調印シ併セ

國立銀行條例



印刷

本寮ノ官印ヲ鈐シ以テ其銀行ニ下付スル者也  
年號一年一月一日

紙幣頭姓名印

紙幣

寮之印

第六條 右銀行定款ノ雛形ハ左ノ如シ

——國立銀行定款

大日本政府ヨリ發行スル所ノ公債証書ヲ抵當トシテ銀行紙幣ヲ發行シ之ヲ通用シ  
之ヲ引換フル儀ニ付明治一年一月一日大日本政府ニ於テ制定施行シタル國立銀行  
條例ヲ遵奉シ當銀行ヲ創立スル爲メ其株主等協議ノ上決定スル所ノ條々左ノ如シ

銀行名號ノ事

第一條 當銀行ノ名號ハ——國立銀行ト稱スヘシ

本支店設置ノ事

第二條 當銀行ノ本店ハ——府管下第一大區——小區——村——番地ニ於テ設置スヘシ

(但シ支店ヲ置クルハ其場所ヲモ茲ニ掲載ス可シ)  
資本金ノ事

第三條 當銀行ノ資本金ハ——萬——千圓コシテ——(百、五十、二十五圓)ヲ以テ一株ト  
ナシ總計——株ト定ムヘシ

但シ國立銀行條例ノ規定ニ從ヒ株主等ハ其所持株數ノ割合ニ準シテ此資本金  
ヲ増減スルヲ得ヘシ尤増加ノ節ハ時宜ニヨリ新ニ株主ヲ募ルコトアルヘシ

第四條 何人ヲリトモ(外國人ヲ除クノ外)苟モ當銀行ノ規則ヲ奉シテ其株式ヲ引  
受ケタモノハ都テ當銀行ノ株主タルヘシ

株式券狀ノ事

第五條 各株主タルモノハ其引請ケタル株式一箇ニ付キ株式券狀一通宛ヲ領受ス  
ルノ權利アルヘシ但其雛形ハ左ノ如シ

(茲ニ銀行株式券狀ノ雛形ヲ掲クヘシ)

第六條 當銀行ノ株式ハ國立銀行條例成規ノ規定ニ從ヒ頭取取締役ノ許可ヲ受ケ  
當銀行ノ簿冊ニ引合セタル上ニテ之ヲ賣買讓與スルコトヲ得ヘシ尤其株式券狀ノ  
書換ヲ爲ツ、ルキハ當銀行ヨリ割渡スヘキ利益金ハ新故ヲ論セス其株式券狀ノ  
名前人ニ渡スヘシ

頭取取締役撰擧ノ事

第七條 當銀行ノ取締役ハ——三十株以上ヲ所持スル株主ノ内ヨリ五人以上ヲ撰擧  
スヘシ其撰擧ノ初集議ハ一月一日——街ニ於テスヘシ

國立銀行條例



但シ各取締役ハ右株式券狀ヲ當銀行ニ預ケ其代リトシテ禁授受ノ三字ヲ附シタル保護預リ証書ヲ請取リ置キ右取締役奉職中ハ決シテ之ヲ引出スヲ得サルヘシ

第八條 取締役ノ衆議ヲ以テ其中ヨリ一人ヲ選ミ之ヲ頭取ト爲スヘシ此頭取及ヒ取締役ノ在職年限ハ一ケ年ヲ以テ限リトスヘシ尤頭取取締役タル者其任ニ堪ヘサルカ或ハ取締役等ノ三分二以上ノ協議ヲ以テ退任セシムルハ此例ニアラス  
(但シ副頭取ヲ撰任スルモ亦本條ニ準スヘシ尤此副頭取ハ頭取欠席スルモ其事務ヲ代理スルマテニシテ平日ハ取締役ト同様タルヘキ旨ヲ掲載スヘシ)

第九條 頭取取締役等ハ銀行ノ事務ヲ取扱フヘキ支配人並ニ書記方、出納方、計算法、簿記方等ノ諸役員ヲ撰任シ又右ノ諸役員等ノ給料ヲ取定メ銀行ノ得失ヲ考ヘ同僚ノ衆議ヲ經テ此役員等ヲ進退黜陟スルノ權アルヘシ  
但シ頭取取締役等ハ又銀行ノ支配人以下諸役員等ノ職掌ヲ分課シ其身元ノ引受人ヲ約シ過怠金ヲ豫定スルノ權アルヘシ

第十條 頭取取締役等ハ又向後ノ取締役撰舉ノ法ヲ定メ此撰舉ノ衆議ニ異論起ルキハ之ヲ裁決スヘキ裁決役ヲ取定ムルノ權アルヘシ

第十一條 頭取取締役等ハ都テ銀行條例成規ノ旨趣ヲ遵奉シ適任ノ職務ヲ執行スルノ權アルヘシ尤條例成規ノ要旨ヲ遵奉シテ厚ク當銀行ノ便益ヲ謀リ萬般ノ事務ヲ注意處分スヘシ

但シ頭取取締役等ノ失職ハ國立銀行條例中ノ罰令ニ從テ各其實ニ任スヘシ  
第十二條 頭取取締役等ハ當銀行ノ處務ニ緊要ナル申合セ規則ヲ議定スルノ權アルヘシ

總會ノ事

第十三條 第一次ノ總會ハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ後一箇月以内ニ取締役取極ムル所ノ時日場所ニ於テ之ヲ執行フヘシ

第十四條 第二次以後ノ總會ハ毎年第一月一日第七月一日ニ頭取取締役取極ムル所ノ場所ニ於テ之ヲ執行フヘシ  
但シ取締役ノ撰舉ハ毎年第一月ノ總會ニ於テ之ヲ決定施行スヘシ

第十五條 右總會ハ都テ定式總會ト稱シ其他ノ總會ハ都テ臨時總會ト稱スヘシ

第十六條 頭取取締役ハ何時コテモ適當ナリト思考スルニ於テハ臨時總會ヲ召集スルヲ得ヘシ又人員十名ニ下ラス其所持ノ株數當銀行總株ノ五分一ニ下ラサル株主等ヨリ書面ヲ以テ臨時總會ノ請求アルニ於テハ何時コテモ之ヲ召集セサルヲ得サルヘシ

但シ右請求書ニハ此總會ヲ要スル事件目的ヲ記載シ之ヲ本店ヘ差出スヘシ  
第十七條 取締役ハ右請求書ヲ受取レハ直チニ此總會ノ召集ニ取掛ルヘシ

國立銀行條例



但シ取締役右請求書ヲ受取リシ日ヨリ七日以内ニ總會招集ノ手續ニ取掛ラサルキハ其請求人等自身ニ之ヲ招集スルカ又ハ他ノ株主等ト相謀テ之ヲ招集スルヲ得ヘシ

第十八條 凡ソ總會ニ於テ其事務ヲ評議處分スルニ當テハ必ス株主ノ總員（本人又ハ代人共）十分ノ五以上之レニ出席スルニ非サレハ（利益金分配ノ報告一件ヲ除クノ外）何事ヲモ着手スヘカラス

第十九條 若シ總會ノ刻限ヨリ一時間ヲ過キテ其定式ノ人員臨席セサリシキハ之ヲ此會日ヨリ七日目ニ延會シ此會ト同一ナル場所刻限ニ於テ之ヲ執行フヘシ

第二十條 定式臨時ノ別ナク總會ノ議長ハ頭取（又ハ副頭取）之ニ任スヘシ

第二十一條 若シ右ノ議長タルモノ總會ノ刻限ヨリ十五分時間ヲ過キ猶ホ臨席セサリシキハ出席ノ株主中ヨリ一名ヲ撰舉シテ之ヲ議長ト爲スヘシ

第二十二條 凡ソ總會ニ於テ事ヲ決定スルニハ可否又ハ同意不同意ナル發言投票ノ數多キモノヲ以テスヘシ而シテ決議濟ミノ次第ヲ銀行ノ簿冊ニ登錄シ議長之ニ記名調印シ以テ後日ノ參觀証據ニ備ヘ置クヘシ

第二十三條 凡ソ總會ニ當リ發言投票ノ數相半スルキハ議長ノ助說決票ヲ以テ之ヲ裁決スヘシ

（此外總會ニ付キ緊要ナル箇條アラハ之ヲ掲載スヘシ）

株主發言投票ノ事

第二十四條 各株主ハ其所持ノ株數十箇迄ハ一株毎トニ一箇宛ノ發言投票ヲ爲スヘシ又十一株以上百株迄ハ五株毎トニ一箇宛ヲ増加シ百一株以上八十株毎トニ一箇宛ヲ増加スヘシ

第二十五條 發言投票ハ本人又ハ（本人幼弱又ハ狂癡其他ノ事故アレハ）代人ニテモ若シカラス尤代人ハ左ノ委任狀ヲ以テ其代人ヲラシムヘシ

（茲ニ委任狀ノ雛形ヲ掲クヘシ）

第二十六條 當銀行ノ役員タル者ハ他人ノ代人トナリテ發言投票スルノ權利ヲ有スルヲ得ヌ又株式券狀ヲ當銀行ニ借財ノ爲メ質入シタル株主ハ自身又ハ他人ノ代人ニテモ一切發言投票ノ權利勿カルヘシ

諸役員ノ事

第二十七條 當銀行ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

取締役 一人

内

頭取 一人

副頭取 一人（若シ之アラハ）

支配人 一人



書記方 一人  
 出納方 一人  
 計算方 一人  
 簿記方 一人

(銀行ノ適宜ニヨリ此他役員ヲ設クル者ハ右ニ準シテ茲ニ掲クヘシ)  
 但シ當銀行創立ノ際取締役ノ撰任アル迄ハ發起人ヲ以テ取締役ト見做ス  
 ヘシ

第二十八條 頭取取締役タル者ハ當銀行營業ノ全体ニ注意シ一切ノ事務ヲ處分シ  
 總テ其實ニ任スヘシ然レモ新ニ一事ヲ興シ又ハ之ヲ更正シ或ハ之ヲ廢止シ及ヒ  
 定例ナキ出納其他ノ事ヲ處スル等ノ如キハ株主總會ノ決議ヲ經ルニ非レハ之ヲ  
 施行スルヲ得ス

第二十九條 支配人ハ頭取取締役ノ差圖ヲ受ケ各掛リノ事務ヲ引請ケ其擔當ノ制  
 限ニ依リ頭取取締役ニ對シテ之ヲ調理スルノ責ニ任スヘシ  
 (右ノ外取締役ノ撰任其他凡ソ銀行ニ於テ緊要ナリトスル事件ヲ茲ニ掲載ス  
 ヘシ)

營業一般事務ノ事  
 第三十條 當銀行ノ營業取扱時間ハ本店及ヒ支店共定式(又ハ臨時)休暇日ヲ除ク

ノ外毎日午前第九時ヨリ午後第三時迄タルヘシ

第三十一條 休業ハ例月何日及ヒ定式ノ祝日祭日ニ限ルヘシ

第三十二條 頭取取締役ノ衆議ヲ以テ決定シ當銀行ニ於テ用ケル所ノ本店(並ニ  
 支店)ノ印章ハ即チ左ノ如シ  
 一寸八分四方

地 名  
 一 國立銀行  
 行 印 章

押 切 印

一 國立銀行

分 五

一 國立銀行 緘

一 寸

(此外事務取扱ノ方法ニ關スル諸規則ヲ茲ニ掲載スヘシ)  
 利益金分配ノ事

(茲ニ銀行ノ利益金分配ノ方法其他ヲ掲載スヘシ)  
 諸計算ノ事

(茲ニ諸計算ニ於ケル諸簿冊並ニ檢閱其他ノ規則ヲ掲載スヘシ)  
 株主ノ報告ノ事

(茲ニ銀行ヨリ株主等ニ報告スルノ方法ヲ掲載スヘシ)  
 平穩鎮店ノ事



第三十三條 當銀行三分二以上株主等ノ協議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ  
平穩ニ鎖店スルヲ得ヘシ尤其鎖店ノ手續ハ總テ國立銀行條例ヲ遵奉シテ之ヲ  
施行スヘシ

銀行定款更正ノ事

第三十四條 此定款ノ箇條ハ當銀行株主等ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ル  
ニ於テハ何時ニテモ之ヲ更正加除スルヲ得ヘシ  
右ノ條々株主等ノ衆議ヲ以テ相定候其證據トシテ私共一同姓名ヲ記シ調印致シ候  
也

年號一 年一月一日

各株主連名印

但シ此定款ハ株主等ノ協議ニヨリテ之ヲ草定シ追テ頭取支配人等定リ上本紙正寫  
ノ二通ヘ左ノ奥書ヲ加ヘ紙幣頭ヘ指出スヘシ

右一國立銀行定款ハ之ヲ三通ニ認メ本紙一通正寫一通ヲ上呈シ他ノ一通ハ同文  
言ニテ儲ニ之ヲ銀行ニ藏メ置候仍テ其證據トシテ私共自ラ姓名ヲ記シ調印致シ候  
也

年號一 年一月一日

一 國立銀行支配人

姓名印

同 頭取

姓名印

銀幣頭何某殿

銀行ヘ藏メ置クヘキ正寫ノ奥書ハ左ノ如シ

右ハ一國立銀行定款本紙ノ正寫ニシテ其本紙並ニ正寫一通ツ、ハ規則ノ通り之  
ヲ紙幣寮ヘ差上候仍テ其證據トシテ私共自ラ姓名ヲ記シ調印致シ候也  
年號一 年一月一日

一 國立銀行頭取

姓名印

同 支配人

姓名印

紙幣寮印

右ハ一國立銀行定款ノ正寫ニシテ其本紙ハ正ニ之ヲ當寮ニ受取其事ヲ承認  
シタル證據トシテ余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ茲ニ記名調印シ併セテ本寮ノ官印ヲ  
鈐シ以テ其銀行ヘ下付スルモノ也  
年號一 年一月一日

紙幣頭姓名印

國立銀行條例



紙幣  
寮之印

但シ創立證書ハ國立銀行ヲ創立スルニ於テ政府ト其銀行トノ約定書ニ比シキ緊要ノ書面ニシテ自ラ銀行定款ト異ナル者ナリ銀行定款ハ全ク銀行株主等ノ取定メタル社中ノ規則ニシテ政府ニ關係アル者ニアラス故ニ銀行ノ役員ヨリ株主等ニ至ルマテ苟モ此別ヲ誤ルヘカラス

第七條 紙幣頭ハ右創立證書並ニ銀行定款ヲ相當ト思考スルニ於テハ其開業免狀ヲ其銀行ヘ下ケ渡スヘシ然ル後其銀行ハ始メテ名號ヲ公稱シ其業ヲ始ムルコトヲ得ヘシ但シ紙幣頭ヨリ開業免狀ヲ下ケ渡サハル内ハ創立ニ付テ差起ル事故及ヒ開業前緊要ナル件々ノ外決シテ銀行營業ノ事務ヲ取扱フヘカラス

第八條 右開業免狀ノ離形ハ左ノ如シ

第一番

開業免狀

一 府管下第一大區一小区一町ニ於テ創立スル一國立銀行ヨリ差出シタル創立證書ニ據リ此銀行ハ大日本政府ヨリ發行スル所ノ公債證書ヲ抵當トシテ銀行紙

紙幣寮印

幣ヲ發行シ之ヲ通用シ之ヲ引換フル儀ニ付明治一一年一月一日大日本政府ニ於テ制定施行シタル國立銀行條例ノ手續ヲ履行シタルコト分明ナルコト付今此開業免狀ヲ交付シ自今右條例ヲ遵奉シ國立銀行ノ業ヲ營ムコトヲ許可スルモノ也  
右ノ證據トシテ余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ茲ニ記名關印シ併セテ本寮ノ官印ヲ鈐スルモノ也

年號一一年一月一日

紙幣頭姓名印

紙幣

寮ノ印

但シ右開業免狀ヲ得タル上ハ直ニ其事業ヲ經營スルヲ得ヘキニ付火盜ノ難ヲ防カシカ爲メ堅固ナル金庫ヲ建築スヘシ

株金募方ノ事

第九條 株金ヲ募ルノ法ハ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ即チ何處何處下第何大區何小區何村何番地ニ於テ何々ノ方法ヲ以テ國立銀行ヲ創立スルニ付其組合ニ加入セント欲スル人々ハ何月何日ニ何街何屋ニ來ルヘシ發起人何ノ離々等ト記載スヘシ

國立銀行條例



第十條 當日ニ至テ右何街何屋ニ於テ發起人等簿冊ヲ開キ其銀行ノ組合ニ加入セント  
申込ミタル人々ノ姓名並ニ入金スヘキ金額ヲ其簿冊ニ書込ミ何月何日迄ニ入金スヘ  
キ旨ヲ取定ムヘシ

第十一條 入金ノ當日ニ至テ入金者ハ各其簿冊ニ書込ミタル金額ヲ其發起人方ヘ持參  
スヘシ而シテ其發起人等ハ其金子引替ニ左ニ掲載セル入金受取証書ヲ其入金者ヘ渡  
スヘシ

但シ此書込ミニテ集金ノ員額發起人等ノ見込員額ヨリ多キハ割引ヲ以テ入金者  
ノ出金員額ヲ減少スルカ又ハ銀行ノ資本金額ヲ最初ノ見込ヨリ増加スルトモ其  
發起人等ノ存意ニ任スヘシ

半高入行受取證書

印割 一金一圓也

右ハ今般創立ノ一國立銀行株式ノ内一株ノ半高一株ニ付一圓ノ割合ヲ以テ最初  
ノ入金トシテ書面ノ通正ニ落手致シ候右株式券狀ハ追テ總月賦入金相濟候上ニテ  
交付可致候仍テ爲後証如件

年號一 年一 月一 日

何 某 殿

一 國立銀行發起人

連 名 印

資本金月賦入金ノ事

第十二條 國立銀行ノ資本金ハ開業前必ス其半高ヲ株主等ヨリ銀行ヘ入金シ殘リ半高

ハ五ヶ月ニ割合ヒ之ヲ入金スヘシ

例ヘハ資本金十萬圓ノ銀行ナレハ

- 一月十五日開業迄ニ入金高 五萬圓
- 二月十五日迄ニ入金高 壹萬圓
- 三月十五日迄ニ入金高 壹萬圓
- 四月十五日迄ニ入金高 壹萬圓
- 五月十五日迄ニ入金高 壹萬圓
- 六月十五日迄ニ入金高 壹萬圓

合計拾萬圓

右ノ如ク開業ノ日ヨリ算シテ毎月入金スヘシ九六ヶ月前ニ悉ク入金シ又ハ開業前  
ニ資本金總額ヲ入金スルハ其銀行ノ適宜タルヘシ

但シ銀行ニ於テ右月賦入金ヲ受取ルトキハ左ノ受取證書ヲ株主ヘ渡スヘシ

第一回月賦入金請取證書

印割 一金一圓也

右ハ當一國立銀行株式ノ内一番ヨリ一番マター株ノ第一回月賦入金一株ニ付

國立銀行條例



一圓ノ割合ヲ以テ書面ノ通正ニ落手致候右株式券狀ハ追テ總月賦入金相濟候上  
ニテ交付可致候仍テ爲後證如件  
年號一年一月一日  
一 國立銀行支配人

銀行  
之印

何 某 殿

同 頭取  
姓名印

資本金集合高申牒ノ事

第十三條 株主等ヨリ月賦金ヲ其割合ニ從ヒ入金スルトキハ其月賦總入金濟迄ハ毎月  
其銀行ヨリ資本金集合高届書ヲ紙幣頭へ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

資本金集合高届書

一 府管下第一大区一小区一町ニ創立シタル一 國立銀行ノ資本金トシテ一萬一千  
圓ノ第一回月賦ヲ株主等ヨリ入金イタシ是迄ノ入金ニ加算シ總高一萬一千圓ト相  
成候也  
年號一年一月一日  
一 國立銀行支配人

銀行  
之印

同 頭取  
姓名印

紙幣頭何某殿

資本金増減ノ事

第十四條 國立銀行ハ條例第四十條ニ準據シ其資本金額ヲ増加スルキハ速カニ資本金  
増加証書ヲ紙幣頭へ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

資本金増加證書

一 府管下第一大区一小区一町一 國立銀行

元株數並金額	増株數并金額	合計	住所	姓名
一 株 一 圓	一 株 一 圓	一 株 一 圓	一 府管下第一 区一小区一 町一 村	一 府 縣華士族平民 何某
合 一 株 一 圓	合 一 株 一 圓	増計 一 株 一 圓		

右ハ社中格段決議ヲ經テ資本金増加仕候現額書面ノ通相違無之候也

國立銀行條例



年號一年一月一日

——國立銀行支配人

同頭取

姓名印

銀行之印

姓名印

紙幣頭何某殿  
右之通相違無之候也

地方官

地方長官姓名印

廳之印

紙幣察察印

右——國立銀行資本金増加證書ヲ差出スニ付年號一年一月一日余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ其事ヲ承認シタル證據トシテ茲ニ記名調印シ併セテ本察ノ官印ヲ鈐スルモノ也

年號一年一月一日

紙幣頭姓名印

紙幣察

之印

但シ右ノ書面ヲ差出サハ紙幣頭ハ與書並ニ鈐印シテ之ヲ其銀行ニ下付スヘシ銀行ハ此與書ヲ得タル上ニテ公債証書ヲ預ケ銀行紙幣ヲ請取ルノ手續ニ取掛ルヘシ

第十五條 國立銀行ハ條例第四十二條ニ準據シ其資本金ヲ減少スルキハ諸般ノ手續ヲ

經テ後テ紙幣頭ハ其資本金減少証書ヲ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

但シ減少ノ手續ハ其銀行紙幣ヲ紙幣察ニ返上シテ燒捨ノ手續ヲナシ其同額ノ公債証書ヲ紙幣頭ノ手ヲ經テ出納頭ヨリ取戻スヘシ而シテ其準備金モ亦之ニ準シテ減少スヘシ

資本金減少証書 —— 府管下第一大區——小區——町——村——國立銀行

減少株數並金額	殘株數並金額	住	所	姓	名
——株 ——圓	——株 ——圓	——府管下第一大區 ——小區——町——番地	——府管下第一大區 ——小區——町——番地	——府華士族平民	何某

國立銀行條例



合一様  
一圓

右ハ社中格段決議ヲ經テ資本金減少仕候高並殘現額共書面ノ通り相違無之候也  
年號一年一月一日  
——國立銀行支配人

銀行

同頭取

姓名印

之印

姓名印

紙幣頭何某殿

右之通相違無之候也

地方官

地方長官姓名印

應之印

右——國立銀行ヲ本金減少證書差出スニ付年號一年一月一日余ハ大藏卿ノ命  
ヲ奉シ其事ヲ承認シタル證據トシテ茲ニ記名調印シ併セテ本寮ノ官印ヲ鈐ス  
ルモノ也

年號一年一月一日

紙幣頭姓名印

紙幣  
寮之印

紙幣寮割印

右増減証書ハ各二通宛ヲ紙幣寮ニ出シ其一通ハ前ノ文例ノ如ク紙幣頭與書鈐印  
ヲ其銀行ヘ下付スヘシ

公債證書預方ノ事

第十六條 國立銀行ニテ其業ヲ始ムヘキ前ニ四朱以上利付ノ公債證書ヲ買入レ之ヲ出  
納頭ニ預クヘシ右ハ其銀行ヨリ發行スヘキ紙幣ノ抵當ナレハ其銀行ノ資本金額十分  
八ノ割合ニシテ即チ銀行ニ受取ルヘキ銀行紙幣ト同額タルヘシ(條例第十八條第二  
十二條ヲ參考スヘシ)

第十七條 出納頭ハ右公債證書ヲ領受シ直チニ假請取書ヲ其銀行ヘ下付シ追テ紙幣頭  
連名ノ本請取證書ヲ製シ其假請取書ト引換フヘシ

銀行紙幣注文ノ事

第十八條 國立銀行ハ右公債證書ノ請取書ヲ領受セハ其銀行ヨリ發行スヘキ銀行紙幣  
ノ受取方ヲ頭取支配人ヨリ注文書ヲ以テ紙幣頭ヘ申立ツヘシ其文例ハ左ノ如シ  
但シ條例第四十六條ニ準據シテ此ノ注文書ヲ差出スヘシ

銀行紙幣注文書

一府 縣管下第一大區一小区一町ニ創立シタル——國立銀行ニ於テ國立銀行條例ニ從  
ヒ一萬一千圓ノ銀行紙幣ヲ發行致シ度ニ付左ニ掲載スル種類員額ノ紙幣製造之上  
御渡被下度候也

國立銀行條例



銀行紙幣種類	枚	數	金
圓	1	1	圓
圓	1	1	圓
圓	1	1	圓
合計	1	1	圓

右銀行紙幣ノ抵當トシテ出納頭ニ預ケタル公債証書ノ現額ハ左ノ如シ

公債証書ノ種類金額枚數	利	息實價割合金
公債証書1圓1枚	1	朱 百圓ニ付 1圓
1圓1枚	1	朱 百圓ニ付 1圓
合計	1	1圓

右之趣謹テ奉願候也

年號一年一月一日

国立銀行支配人

銀行之印

同頭取

姓名印

紙幣頭何某殿

姓名印

第十九條 右銀行紙幣ノ注文書ヲ領受スルニ於テハ紙幣頭ハ條例第四十七條ニ準據シ銀行紙幣ヲ製造シテ之ヲ其銀行ヘ下附スヘシ而ヘシ其銀行ハ之ヲ受取リテ後テ受取証書ヲ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

銀行紙幣請取証書

銀行紙幣種類	枚	數	金
圓	1	1	圓
圓	1	1	圓
合計	1	1	圓

右ハ當一国立銀行發行紙幣トシテ正ニ請取候也

年號一年一月一日

国立銀行支配人

同頭取

姓名印

同頭取

姓名印

銀行之印

国立銀行條例







銀行  
之印

姓名印  
同頭取  
姓名印

紙幣頭何某殿

紙幣頭ハ右敗裂或ハ汚染ノ銀行紙幣ヲ請取ラハ其代リ新銀行紙幣ヲ以テ之ヲ其銀行  
ニ下付スヘシ

第二十二條 紙幣寮ニ於テ右銀行紙幣ヲ燒捨ノ節ハ其趣キ銀行ニ通達アル可キニ付銀  
行ハ立合人ヲ紙幣寮ニ差出シ燒捨所ニ於テ立合實驗ノ上燒捨證書ニ記名調印スヘシ  
尤此燒捨證書ハ二通ニ認メ一通ハ紙幣寮ニ納メ一通ハ之ヲ其銀行ニ下付スヘシ右ノ  
立合ニハ大藏省ニ關係ナキ人ヲ撰ミ銀行ヨリ差出スヘシ

但シ遠隔ノ地方ニ創立シタル銀行ハ東京ニ於テ豫テ燒捨ノ立合人ヲ頼置キ其姓名  
住所ハ之ヲ紙幣寮ニ届ケ置クヘシ

第二十三條 國立銀行ヨリ引換ノ爲メニ紙幣寮ニ差出スヘキ敗裂或ハ汚染ノ銀行紙幣  
ハ五百圓以上ノ高タルヘシ其銀行紙幣ハ消印ヲ押シ種類ヲ分チ其封套ニ其金額ヲ記  
載シ前第二十一條ニ掲クル所ノ書面ヲ添ヘ之ヲ紙幣寮ニ差出スヘシ尤其紙幣引替ニ  
付往復運送ノ諸費用ハ銀行之ヲ辨スヘシ

但シ數片ニ細裂シタル銀行紙幣アラハ銀行ノ役員之ヲ連接シテ差出スヘシ

第二十四條

(明治十二年第三號布  
告ヲ以テ如左改正)

敗裂銀行紙幣ヲ其銀行ニ持參シ引換ヲ請フ者アルトキハ其役員之ヲ精密ニ検査シ金  
額ハ勿論店名(又ハ役員姓名)明瞭ニシテ番號記號全存スル者及番號記號一モ存セザ  
ル者ニテモ缺失セシ部分ニ金額及店名(又ハ役員姓名)番號記號(各其一)ノ連續シテ  
俱ニ存スヘキ餘地ナキ者ハ全額ヲ以テ交換スヘシ又番號記號各其一ヲ存シ且金額及  
店名(又ハ役員姓名)明瞭ナルモ缺失セシ部分ニ猶金額及店名(又ハ役員姓名)番號記  
號(各其一)ノ連續シテ俱ニ存スヘキ餘地アル者ハ總テ半額ヲ以テ交換スヘシ若又細  
裂シテ其紙片ノ全備セサル者ト雖モ之ヲ集合シテ彩紋字体等ノ連續スル者ハ前文ノ  
例ニ照準シ全額或ハ半額ヲ以テ交換スヘシ

株式ノ事

第二十五條 國立銀行ノ株主タル者ハ其所持スル所ノ株金總入金濟ミトナリタルキハ  
社印ヲ鈐シタル株式券狀ヲ一株ニ付一通宛領受スルノ權利アルヘシ其株式券狀ノ離  
形ハ左ノ如シ

第一番  
大日本一地方一國立銀行株式券狀

國立銀行條例